

ニ於ケル政府ノ代表者ト認メラレ大ニ王室及ヒ内閣ノ信任ヲ受クル者ト認メラル、所ノ職任ナリ此職ニ居ル者ノ特權ハ豫メ内閣ニ於テ決定セラレサリシ疑問ニシテ且ツ急速ノ決斷ヲ要スル者ヲ決定スルニ在リ之ヲ決定スルニ方テ其人若シ之ヲ好メハ揚ヲ列テ坐スル所ノ同僚ニ謀ルヲ得可シト雖モ謀ルト謀ラサルトハ其意見ニ在テ同僚ノ意見ヲ納ル、ト納レサルトモ亦其權内ニ在リト政府ヲ強羣有力ナラシムルト否トノ如キ該院ヲ活潑要用ナラシムルト否トノ如キハ下院首領ノ性質、氣力、才智、判斷如何ニ因テ定マル者多シ其助手タル大藏省ノ租稅部尙書議院掛尙書等ト共ニ該院ノ事務ヲ管理シ之ヲシテ最モ公利ヲ保拂ス可キ方途ニ向ハシムルハ下院首領ノ職任ナリ

下院首領職ノ起源

院外ニ在テハ勉テ各政黨議員ノ親交ヲ謀リ成ル可ク之ヲ調和セシムルカ如キモ亦其職任ナリ
 下院ノ首領則チ管理ノ官職ハ議院政体ト其起原チ同ウス初テ此職ニ當レル者ハウヰリアム三世第一次ノ政黨内閣ノ出納検査長チャールズ、モンターグニシテ史家マコーレーノ語ニ依レハ千六百九十四年ヨリ全九十八年ニ至ルノ四年ノ間、下院ニ於テ非常無敵ノ權勢ヲ振ヘリ之ニ繼テ政權ヲ握レル諸内閣ハ皆チ虛弱ニシテ調和セサリシカ故下院首領ニ與フルニ其本位ヲ占メシム可キ機會ヲ以テセサリシト雖モ千七百十五年サ、ロベルト、ワルポール此任ニ當ルニ及ンテ再ヒ重要ノ職任ト爲レリ爾來今日ニ至ル迄此職任ニ就ケル者ハ皆チ我カ政史ニ光輝ヲ與フル所ノ著名ナル

政治家ナリキ

誰カ下院首領
ト爲ル可キ者

此職任ノ尊重ニシテ カアルヤ通常大 卿若クハ出納檢
 査長之ニ當ル大宰相貴族ナルモハ出納檢査長ヲシテ之ニ
 當ラシムルヲ常トス往時ハ通常國務尙書中ノ一名ヲシテ
 之ニ當ラシメシト雖モ近時ノ慣行ニ因レハ何レノ内閣員
 ニテモ高貴ノ位ニ居ル者ハ皆ナ之ヲ兼スルヲ得可シ今百
 年期中ロード、カッスルリートカンニングトハ外務卿ヲ以テ
 之ヲ兼ネサリ、ロベルト、ビールトロード、ジョン、ラッセルトハ
 内務卿ヲ以テ之ヲ兼テロード、ジョン、ラッセルハ内閣議長ヲ
 以テ再ヒ之ヲ兼テ、タリ下院首領ノ職務ト責任トハ愈々増
 加セシカ故千八百五十五年ロード、パーメルストントデル
 ビー侯ト相ヒ計テ多端繁忙ナル部局ノ長官ヲシテ之ヲ兼

國務

テシムルヲ不可トセリ爾後ロード、パーメルストンハ大宰
 相兼大藏卿ヲ以テ之ヲ兼テグッドストントデスレリー
 トハ共ニ出納檢査長ヲ以テ前後之ヲ兼ヌ千八百六十八年
 デルビー侯退テデスレリー大藏卿ト爲ルヤハントヲ舉テ
 出納檢査長ト爲セシト雖モ尙ホ自ラ下院首領ノ任ニ當レ
 リ

下院ノ首領ハ
行政部局ニ官
職ヲ占メスシ
テ可ナル乎

千八百五十三年二月二十四日外務卿ニシテ下院ノ首領
 ヲ兼テタルロード、ジョン、ラッセルノ外務卿ヲ辞シ行政部
 局ニ官職ヲ有セシテ下院首領ノ任ニ當ルヤ在野議員
 中決議案ヲ提出セント欲スル旨ヲ告知シタル者アリキ
 其提出セント欲セル決議案ノ要畧ニ曰ク先年以來當院
 ノ事務大ニ増加シ當院首領ノ勞務ト責任トモ亦從テ増

加シ今日ニ在テ當院ノ事務ヲ辨措シ兼テ充分ニ行政大
 部局ノ職務ヲ執行スルハ幾ント人カノ堪ユル所ニ非ス
 故ニ俸給アル官職ヨリ之ヲ兼テサル時ハ其職務ト責任
 トニ適應スル所ノ俸給ヲ下院首領ニ與フルノ法ヲ定メ
 ラレシムヲ希望スト此會期中ハ斯ル動議ヲ起ス者ナク
 ロード、ジョンラッセルハ他ニ官職ヲ帶ヒスシテ依然下院
 首領ノ任ニ居レリ千八百五十四年二月九日右ノ動議者
 ハ委員ヲ撰定シテ當院ニ於ケル政府ノ首領ノ職任ト之
 ニ官位及ヒ俸給ヲ與フルノ便否トヲ審査考案セシム可
 シト云ヘル動議ヲ起セリ動議者又辨シテ曰ク此職任ハ
 逐日益々重要ニ趣キ格段ノ閱歷智能アル者ニ非スノハ
 之ニ居ル能ハサルニ至レリ且ツ首領タル者ハ早ク當院

ニ出席シテ晩ク退席セサル可ラス政府ノ提出スルト在
 野議員ノ提出スルトヲ問ハス當院悉皆ノ議案ニ熟通セ
 サル可ラスト執政官之ヲ非難セルノ言ニ曰ク生存セサ
 ル所ノ官職ト釋定スル能ハサル所ノ職任トニ俸給ヲ附
 スルハ理ニ於テ不可ナリ政府ノ吏員トシテ其職務ヲ執
 行スル者ヲ除ケハ何人ニモ俸給ヲ與フルヲ得ス之ヲ與
 フレハ明カニ憲法上ノ慣行ニ違背ス且ツロード、ジョン、ラッ
 セルノ行政官ニ官職ヲ有セシテ下院首領ノ任ニ當レ
 ルカ如キハ好シ憲法ニ違背セサルモ甚ダ不便ノ先例ナ
 リト又曰ク部局ノ官職ヲ有セシテ内閣執政官ノ上院
 ニ出席セル者少ナカラスト雖モ其下院ニ出席セル者ハ
 ラッセルノ前唯タ一例アルノミ其氏カ如ク政府ノ機關ト

爲テ働ケル者ニ至テハ一ノ先例ナシ此慣行ニシテ追従
 ス可クシハ王室ハ之カ爲メ其補導者ヲシテ再撰ノ手數
 ヲ履行セシムルノ煩勞ナクシテ當院議員中ヨリ之ヲ撰
 擇スルヲ得可ク國民ハ之カ爲メ何人カ王室ノ責任補導
 者ト爲リタルヤヲ知ルノ方法ヲ奪却セラル可ク抑モ執
 政官ノ失行アルコ方テ下院之ヲ彈劾スルヲ得ルハ官
 印ヲ捺セル文書有テ其失行ヲ証スルカ爲メナリ然ルニ
 今マ王室ヲノ部局ノ官職ヲ帶ヒサル執政官ヲ設クヲ
 得セシメハ執政官縱令失行アルモ官印ヲ捺セル文書ノ
 以テ之ヲ証ス可キ者ナク下院ハ彈劾ニ因テ其行爲ヲ審
 査スルヲ得サル可シ果シテ此ノ如クシハ既ニ輿論ト議
 院ノ咎責トニ對シテ責ニ任スルニ過キサル迄減少セル

執政官ノ責任ハ愈々減少シテ憲法ハ益々紊乱スルヲ疑
 ナ容レストロード、ジョン、ラッセル之ニ答テ曰ク執政官ノ
 實ニ任ス可キハ啻々其職務上執行スル所ノ事務ノミニ
 非ス其至尊ニ上レル諫誘ハ皆ナ其責ニ任ス可キ所ノ者
 ナリ而シテ其陛下ニ諫誘ヲ上レル樞密院議員ノ資格ニ
 於テト否トハ當院ノ委員ノ前ニモ上院ノ法廷ニ於テモ
 之ヲ證明スルヲ得可ク之ヲ證明シテ罰ス可キヲ詳ニセ
 ハ其官職ニ居ルト居ラサルトナ問ハス均シク之ヲ罰ス
 ルヲ得可シ何トナレハ樞密院議員ハ皆ナ其至尊ニ上レ
 ル諫誘ニ向テ責任ヲ負擔ス可キ者ナレハナリト氏ハ已
 レ自身ニ關スル疑問ヲ論スルヲ欲セス唯タ一般ノ例
 規ヲ舉クレハ當院ニ於テ政府ノ機關ト爲ル者ハ行政部

局ニ官職ヲ占ムルヲ要スルヲ承認ス是ニ於テ動議者
自ラ其説ヲ引ケリ六月九日内閣ニ變更アルヤロード、
ソラッセルハ内閣議長ニ任セラレ再撰ノ手順ヲ履行セル
後チ再ヒ下院ニ出席シテ其首領ト爲レリ

(丙) 下院ニ於テ經費豫算ヲ發議シ及ヒ財政年報
ヲ提出ス可キ執政官

經費豫算ノ發
議者

一般ノ制規ヲ云ヘハ之カ爲メ供度委員會ノ決議ヲ取ラン
ントスル部局ヲ代表スル所ノ施政府員ハ皆テ經費豫算ヲ
發議スルヲ得可シト雖ヒ通常ノ場合ニ於テハ格段ナル部
局ノ議院尙書ヲシテ此職任ニ當ラシムルヲ慣行トス
軍務部國務尙書并ニ大藏卿ニシテ上院議員ナルキハ該部
局ノ副尙書下院ニ於テ之カ職務上ノ代表者ト爲ル然ラシ

前任執政官之
ヲ發議セル例
証

ンハ副尙書ハ唯タ計算其他ノ小疑問ニ就テ決議ヲ取ラン
カ爲メ發議スルヲ得可シ議院ニ對シテ重要ナル事項ヲ説
明ス可キ責任執政官タル長官ノ不在ニ方テ其擔任部局ノ
經費豫算ヲ發議スルヲ得ス
文局經費豫算則チ雜費豫算ハ通常出納検査長其他之カ支
出ヲ要スル部局ノ擔任執政官ノ面前ニ於テ大藏省租稅尙
書之ヲ發議ス擔任執政官ハ議案ヲ説明シ其非難セラルハ
ニ方テ之ヲ維持ス可キ者トス然レヒ非常特別ノ豫算ハ出
納検査長自ラ之ヲ發議ス或ハ出納検査長ノ出席スルニモ
拘ハラス大藏卿自ラ之ヲ發議スルヲアリ
千八百六十七年三月四日軍務部國務尙書ゼチラル、ピ
ルハ改革事件ニ就テ同僚ト意見ヲ異ニセルカ爲メ辭職

シサト、ジョン、パキントン其後任ト爲リ議院ハ全月八日ヲ以テ新任官ノ爲メニ再撰令ヲ頒布セリセテラル、ピールハ既ニ辭職スト雖モ其後任未タ再撰セラレテ議院ニ出席セサルカ故軍務尙書ノ名ヲ帶ヒタリ全月七日氏ハ内閣ノ認承ヲ得テ供度委員會ニ於テ陸軍經費豫算ヲ發議シ且ツ此等ノ豫算ト氏カ其同僚ニ慫慂シテ同僚之ヲ採用セル政策トテ下院ニ説明スルノ機會ヲ得ルハ其喜ヲ所希フ所ナル旨ヲ演ヘタリ供度委員會ハ毫モ異議ナク氏カ發議ヲ許ルシ氏既ニ其辨明ヲ終リタル後チ官吏ノ員數ヲ議決セリ

其長官欠席スルニ方テ書記官之ヲ發議セ

千八百六十七年三月十四日海軍經費豫算ヲ發議スルノ方法ニ就テ議論起レリ新任海軍卿ハ再撰ノ手順ヲ履行

ル例証

セシカ爲メ下院ヲ去リ前任官ハ軍務尙書ニ轉シテ未タ下院ニ着席セス止ムヲ得ス書記官ロイド、エリナ、レノックス豫算發議ノ任ニ當レリ抑モ陸軍若クハ海軍ノ經費ニ關スル全体ノ政策ハ執政官之ヲ提出シ之カ爲メニ第一次ノ投票ヲ取ルニ方テ討議ス可キ者ニシテ第一次ノ投票既ニ決スルノ後ハ何人モ之ヲ論議スルヲ得サル者ナリ斯ル事情アルカ故グラッドストーン其他ノ議員論シテ曰ク海軍書記官モ供度委員會ニ於テ經費豫算ヲ發議シ之ヲ説明スルヲ得可キヲ疑フ容レスト雖モ責任執政官出席スル迄ハ本會ニ向テ第一次ノ投票ヲ要求スルヲ得ス其長官貴族ナル時ハ書記官ハ下院ニ於テ該局ノ認承セラレタル機關ト爲ルヲ得可シト雖モ長官貴族ナラ

サル時ハ其欠席ニ方テ政府ノ海軍政策ヲ討議スルコト甚タ不可ナリ此政策ニ反對シテ如何ナル議論出ルモ書記官ハ唯タ之ヲ聽過スルノミ毫モ之ヲ可否スルヲ得ス何トナレハ書記官ノ職任ハ單ニ長官ノ口舌タルニ過キスシテ政策ヲ告示シ之ニ關シテ其意見ヲ吐露スルカ如キハ其職任ニ非サレハナリ計算若クハ其他ノ細目ニ關スル投票ハ海軍卿欠席スルモ書記官ノ發議ニ因リ制規ニ背カフシテ之ヲ爲スコトヲ得可シ豫算全体ノ旨趣ニ關スル討議ト投票トハ長官ノ欠席ニ方テ之ヲ爲スコトヲ得スト供度委員會ハ終ニ公務上ノ便宜ノ爲メ海軍書記官ヲシテ該會ニ於テ豫算ノ概略ヲ辨明セシムルコトヲ許セリ書記官之ヲ辨明セル後チグラッドストーンノ發議ニ因

財政年報

リ出納検査長ノ同意ヲ得テ該會ハ暫ク第一次ノ投票ヲ中止シ海軍卿着席スルニ及ンテ再ヒ討議ヲ開テ經費豫算ヲ可決セリ

財政年報ヲ下院ニ提出スルハ固ヨリ出納検査長ノ職任ナリ

然レモ千八百六十七年十一月二十八日出納検査長ギスレリノ疾病欠席ニ方リ大藏尙書ハアピシニア遠征費ヲ支辨ス可キ資金徴収法ニ關スル説明書ト決議案トヲ徴収委員會ニ提出セリ是ヨリ先キ下院ハ遠征費トシテ二百万磅ノ支給ヲ議決セルカ故今マ之ヲ徴収委員會ニ提出シテ之カ徴収法ノ議決ヲ求メタルナリ此際何人モ異議ヲ唱ヘサリシノミカグラッドストーンノ如キハ書記

官ノ處措宜キニ協ヘルヲ稱賛セリ且ツ該件ハ事ノ臨時ニ屬スル者ニシ出納検査長ノ財政年報ヲ提出スルニ及ンテ之ヲ變更スルヲ得可キカ故全會ノ一致ヲ以テ直チニ之ヲ討議スルヲニ決シ常例ニ違フテ同日之ヲ議決ス蓋シ財政報告ノ討議若クハ議決ハ之ヲ其提出セラレレタル日ニ於テセス他日ニ讓ルヲ慣行トス

(丁) 施政府ノ劣等官

大藏尙書

施政府ノ劣等官中最モ高貴ニシテ重要ナル者ハ二名ノ大藏尙書ナル可シ然レモ吾人ハ既ニ政府ノ首領ヲ助テ下院ヲ管理ス可キ整理人ト供度ノ事項ニ於ケル租稅尙書ノ職任トヲ説クニ方テ粗ホ其位地責任等ヲ述ヘタレハ今マ之ヲ説明セスシテ可ナリ其部局ニ關スル職任ハ他日當ニ説

劣等執政官ノ位地

明スルノ時機アル可シ
部局ノ責任執政官出席スルニ方テハ其尙書副尙書ハ該部局ノ事務ニ關スル質問ニ答辨セサルヲ常トス
副尙書其他ノ劣等執政官ハ單ニ其長官ノ口舌トシテ視ル可キ者ナリ其責任ハ唯タ其長官ノ指示スル所ヲ執行シ其私行ヲ謹ムニ止マル議院ニ向テ責任ヲ負擔ス可キ者ハ獨リ部局ノ政務長官アルノミ劣等官ハ皆ナ其長官ニ附屬ス可キ者ニシテ何事ニ就テモ恣ニ已カ意見ヲ演フルヲ得ス副尙書ノ其長官ニ代テ部局ヲ議院ニ代表スル者ト雖モ尙ホ右ノ制規ヲ守ルヲ要ス副尙書若クハ副長ノ此位地ニ居ル者ハ公務執行ニ主任セサル可ラスシテ該部局ノ措置ニ就テ多少ノ責任ヲ免ル、能ハスト雖モ其長官負擔スル所

ノ責任ハ一層重大ナルカ故劣等官ハ皆ナ其指命ニ順從セ
サル可ラス蓋シ長官ハ其部局内ニ於テ最貴最大ノ權力ヲ
有スル者ナリ

千八百六十七年三月二十一日下院在野議員ノ僧侶爵位
法ヲ廢ス可シト云ヘル議案ヲ提出セント欲シテ其許可
ヲ請ヘル者アリシニ此日内閣執政官ハ一人モ出席セス
其政府ヲ代表スル者ハ唯タ愛蘭檢事副長一名ニ過ササ
リシカハ反對黨ノ首領ハ發議者ニ告テ曰ク我輩ノ檢事
副長ノ位地ヲ熟知スルヤ斯ル疑問ニ就テ其意見ヲ要ム
ルヲ得サルナリ且ツ檢事副長ノ今マ演フルヲ得可キハ
「余ハ未タ此件ニ就テ政府ノ意見ヲ問ハサリキ」トノ數言
ニ過キサル可シト

上院ニ於ケル
法律事務

(戊) 法官

上院ニ於ケル法律事務ハ大法官之ヲ施措ス大法官ハ其職
務上、上院議長ノ任ニ當リ且ツ歴代ノ施政府ニ於テ内閣ノ
高貴有力ナル位地ヲ占ムル者ナリ大法官ハ内務卿ト共ニ
王國施法ノ責ニ主任シ又常ニ上院ニ於テ政府ノ事務ヲ操
ラシムルニ盡カス

上院ハ助手トシテ上院ニ出席セシメンカ爲メ尋常ノ法官
(貴族ナシサル)ヲ召喚スルヲ得可ク又上院法庭ヲ開クニ方
リ法律及ヒ情法ニ就テ其意見ヲ問フヲ得ルハ勿論、議院
ニ在ル所ノ議案若クハ現行議定法ノ全ク法理ニ協ヘルヤ
否ヤニ就テ疑アル片モ亦其意見ヲ問フヲ得可シ然レモ
法官若シ上院問フ所ノ事ヲ以テ問フ可ラサル者ト思惟シ

或ハ之ヲ視テ其擔任法庭ノ負擔ニ歸ス可キ見込アル條件ヲ蓄有スト思惟スルキハ之カ答辯ヲ拒ム可シ

下院ニ於ケル法律事務

内務卿ハ概テ下院議員ニシテ法律施行ニ關スル事項ノ責任ハ下院ニ對シテ悉皆之ヲ負擔ス王者ノ特權中仁慈ニ關スル者ハ其手ヲ經テ執行ス可キ者ナルカ故内務卿特ニ之カ責ニ任ス

法官

今日法官ノ下院ニ出席スルヲ得可キ者ハ檢事長、檢事副長、軍事裁判所檢事長、蘇國檢事長及ヒ全副長、愛國檢事長及ヒ全副長ノ七名トス此等ノ職員ハ決シテ内閣員ト爲ルコトナシ此等ノ職員常ニ下院ニ出席スレハ便益特ニ多シト雖モ必ス出席セサル可ラサルノ職任アルニ非ス
下院ハ法官ノ認許ヲ經由セスシテ法律及ヒ情理ノ施行法

ヲ改易スルヲ得ス是レ普ク世人ニ認承セラレタル大義ニシテ此認許ハ法律改正ノ疑問出ルニ方テ之ヲ執行ス可キ適當ノ方法ヲ忠告センカ爲メ議院ニ出席スルニ非スンハ右等ノ法官モ充分之ヲ與フルヲ得ス故ニ千六百八十八年ノ革命以前ヨリ英國ノ檢事長及ヒ全副長ハ下院ニ出席シ之ヲ助テ法律ヲ編制シ政務ヲ執行スルノ慣行アリタリ
千八百二十六年ロード、リヴァプールノ執政ニ際シ下院ノ首領カンニングハ書ヲ大宰相ニ贈テ曰ク現任執政官ノ政府ニ入レルヨリ通常議院ニ出席セシ法官ノ議院ニ出席セサルニ至レル者三アリ次回ノ會期ニ方テ再ヒ之ヲ出席セシメスンハ權理ヲ用井サルカ爲メ之ヲ失ヘリト考定セラル可シ則チ記録長、軍事裁判所檢事長、王室附屬檢事長ニシテ

此三職員ハ下院ニ於テ良巧ニ陛下ノ事務ヲ執行スルニハ重要欠ク可ラサル者ニシテ且ツ余カ記憶スル所ニ依レハ皆ナ施政府ノ要用有効ナル幫助者ナリキト是ヨリ氏ハ此等ノ職員下院ニ出席スルカ爲メニ生ス可キ利益ヲ叙述シ終ニ臨ンテ政府ノ自ラ憲法上慣行上下院ニ於テ有ス可キ幫助者ヲ棄ルノ不可ナルヲ説ケリ爾後王室附屬檢事長ハ政務官ト認メラレサルニ至レルカ故固ヨリ下院ニ撰舉セラル可キ者ト認メラレス其議院ニ對スル位地ハ恰モ記録長ト同シ記録長ハ吾人既ニ觀察シタルカ如ク法律上議院ニ出席スルヲ禁セラルニハ非サレモ出席スルノ必要ナキカ故之ニ出席セサル者ナリ左レハ今日下院ニ於テ施政府中ノ法律分子ヲ代表スル者ハ檢事長檢事副長其他右ニ

法官ニ對スル
質疑

列舉セル法官アルノミ

議員ハ其討議ス可キ事項其他國家重大ノ事件ニ關スル法律上ノ疑問ヲ下院ニ於ケル法官ニ質スルヲ得可シ然レモ法官ハ必スシモ之ニ答辨セサル可ラサルノ義務アルニ非ス蓋シ法官ハ法律ニ關スル政府ノ顧問ニシテ此資格ニ於テハ政府ノ機密ニ參與スルヲ得可キ職員ナリ若シ法律上ノ知識ヲ得ント欲スル議員ノ質問ニ悉皆答辨セサル可ラストセハ不便是ヨリ大ナルハナシ然レモ法官能ク疑問ノ當否ヲ判斷シ其答ヲ可ラサルニ答ヘス答フ可キニ答ヘハ爲メニ議員ト社會公衆トヲ利益スルヲ少ナカラス

千八百五十四年三月三十日下院ノ普領ロード、ジョン、ラッセル
ハ檢事長ニ勸ムルニ在野議員ノ万國公法ニ就テ起セル

質疑ニ答辨セシコトヲ以テシテ曰ク余カ見ル所ニ依レハ之ニ答フルハ足下ノ職任ナルカ如シ且ツ施政府員ニシテ法庭論争ノ旨趣ト爲ルコトヲ得可キ疑問ニ答辨スルハ事ノ甚タ不當ナル者ナリト是ニ於テ檢事長ハ其要メラレタル答辨ヲ爲セリ

此故ニ右記ノ法官ハ下院議員ノ質問ニ應シテ答辨スルコト多シ而シテ其之ニ答辨スルヤ或ハ討議ニ際シテ起レル法律上ノ疑問ヲ解釋センカ爲メニスル者アリ或ル格段ナル事項ニ就テ法律ヲ増設スルノ必要ナルコトヲ示サンカ爲メニスル者アリ或ハ該院ニ在ル所ノ議案ヨリ生ス可キ法律上ノ影響ヲ説明センカ爲メニスル者アリ或ハ社會全体ノ利害ニ關スル法律上ノ疑問ヲ解釋センカ爲メニスル者アリ

リ或ハ格段ナル場合ニ於テ官吏ノ施爲ノ當否ヲ決センカ爲メニスル者アリ

下院ハ法官ヨリ單ニ事實ニ關スル知告ヲ求ムルヲ得可シ政策ニ關スル意見ヲ求ムルコトヲ得ス判官及ヒ陪審者ノ決定ス可キ事項若クハ法庭ニ提出ス可キ事項ノ如キハ法官ノ豫メ説明ス可キ者ニ非ス故ニ下院ハ之カ説明ヲ法ニ求ムルヲ得ス又法官ノ下院ニ於テ陳述スル所ノ法律上ノ言説ハ一個人ノ意見トシテ見ル可キ者ナリ故ニ其言説ハ如何ニ敬重セラル可キ價直アルニモセヨ之ヲ認テ變易ス可ラサル結局ノ言説ト做スコトヲ得ス

千八百六十八年七月三日愛蘭議員ノ下院ニ於テ慈仁上ノ事トセス權理上ノ事トシテ刑事ニ關スル事項ニ就テ

モ正誤狀ヲ發スルヲ得セシム可シト云ヘル單獨ナル決
議案ヲ提出シテ之カ可決ヲ求メタル者アリキ此發議ノ
目的ハ近時反對ノ意見ヲ主張セル愛蘭檢事長ヲ攻撃ス
ルニ在テ發議者ハ痛ク其法律ヲ誤制シタルヲ咎責セ
リ愛蘭檢事長ハ其法律ニ關スル行爲ヲ辨護シ英ノ檢事
長モ亦之ヲ助テ其過失ナキヲ論セルカ故發議者終ニ其
說ヲ引ケリ

蘇國ノ法律事務

下院ニ於テ蘇格蘭ニ關スル法律事務ヲ負擔スル者ヲ蘇檢
事長ト爲ス檢事長ハ同國檢事副長ノ爲メニ補佐セラル、
トアリト雖此二職員ノ缺ヲ列テ議院ニ出席スルト少
ナシ内閣執政官タル内務卿ハ議院ニ對シテ直接ニ蘇國事
務悉皆ノ責任ヲ負擔スト雖此稍ヤ蘇國部國務副尙書ノ資

蘇國部ノ執政官

格ヲ帶フル蘇國檢事長ノ忠告補佐ヲ受ク
前數年間蘇國施政政府員ノ位地及ヒ員數ヲ變更セント欲ス
ルノ希望ハ逐日益々増加ノ勢アリ今日該國ニ關スル施政
府員ハ檢事長ト大藏少輔トニシテ檢事副長若シ下院議員
タルトハ之ヲ補佐ス前五十年間ニ蘇國ノ富ト人口トヲ増
加セルト實ニ驚ク可キ者アリ舊世界ニ國スル者多シト雖
此点ニ於テ之ト比肩ス可キ者ナシ蘇國ノ狀勢既ニ此ノ
如シ下院ニ於ケル其事務執行ニ一層ノ便利ヲ與ヘント希
望スル者ノ多キハ決シテ偶然ナラサルナリ
千八百五十八年六月十五日下院ニ動議ヲ起シテ蘇國部
國務尙書一名ヲ置テ當時該國檢事長負擔スル所ノ政務
ヲ擔當セシム可シト主張セル者アリシカ執政官ノ攻撃

ナ被テ動議忽チ廢棄セラル千八百六十四年六月三日委員ヲ撰定シテ當時蘇國ノ事務ヲ擔任シ議院ニ出席スル施政府員ニ幾名ヲ加ヘナハ能ク該國ノ需要ニ應スルヲ得可キカナ調査セシム可シトノ動議起リ二三ノ賛成者ヲ得タレモ暫時ノ討議後動議者自ラ其説ヲ引ケリ千八百六十六年七月デレビー内閣ノ任命セル蘇國檢事長ハ再撰セラレスシテ辭職シ其後任モ翌六十七年十二月迄下院ニ議席ヲ得ル能ハサリシカ故此間ノ不便實ニ少小ナラサリキ千八百六十七年三月二十二日蘇國ノ某議員ハ内務卿ニ向テ政府ハ當院ニ於ケル蘇國ノ事務施措法ヲ改正スルノ意趣アルヤ否ヤヲ問ヒ且ツ蘇人ノ内務省ニ副尙書一名ヲ新置シテ檢事長負擔スル所ノ政務

ヲ擔當セシメ檢事長ヲシテ單ニ法律上ノ職任ニ當ラシメント希望スル者益々多キ旨ヲ演ヘクリ内務卿ワルポール之ニ答テ曰ク檢事長ニ代テ蘇國ノ政務ヲ擔當ス可キ副尙書様ノ職員ヲ設置センコトヲ希望スル者甚々多キハ余モ亦之ヲ塾知ス政府ハ必ス細カニ此事態ニ注意シテ政務官ヲ増置スルノ當否ヲ考案ス可シト氏ハ又檢事長ノ補助ヲ受クルニ非スンハ蘇國ノ立法事務ヲ主理スル能ハサル旨ヲ演ヘ且ツ該國ノ議員ニ告テ曰ク目下諸君ハ唯タ蘇國部大藏少輔ノ助力ヲ受クルコトヲ得ルノミニテ檢事長ノ助力ヲ受クルコト能ハスト雖モ院外ニ於テハ充分其意見ヲ問ヒ忠告ヲ受クルヲ得可シト六月二十日ワルポールニ代テ内務卿ト爲レルガソルン、ハーデー

再ヒ蘇國議員ニ告テ曰ク余ハ蘇國事務ノ更ニ副尙書ヲ
 置テ之ヲ負擔セシメサル可ラサル程多端ナル所以ヲ見
 ス檢事長ノ議席ヲ有セサルニ至テハ該國ノ不幸ナルヲ
 疑テ容レスト雖ヒ余ハ蘇人ノ遠カラス之レヲシテ議席
 ヲ得セシメラレシヲ希望ス蘇人ノ之ニ議席ヲ與フル
 迄ハ蘇國部大藏少輔其全力ヲ傾ケテ檢事長ノ欠席スル
 カ爲メニ生スル不便ヲ補救ス可シト次期ノ初ニ方リゼ
 トフワードノ議員退職シテ蘇國檢事長其後任ニ撰擧セラ
 ル

蘇國議院ノ會集

蘇國議員ハ往時ヨリ議院ノ疑題中該國ノ利害ニ關係スル
 者ヲ親密ニ計議商量センカ爲メ會期中時々會集スルノ慣
 行ヲ有セリ之ニ因テ諸議員ハ意見ノ異ナル所ヲ發見シ恰

當ノ一致調和ヲ得ルヲ多シ諸議員既ニ議案ノ趣旨ヲ計議
 商量セル後ハ儀式ニ拘泥セスシテ其意見ヲ檢事長ニ通知
 ス檢事長ハ必スシモ之ニ從フヲ要セスト雖ヒ斯ク發露セ
 ラレタル意見ニ因テ動カサルハ多シ時ニ或ハ檢事長自
 ラ全上ノ目的ヲ以テ蘇國議員ノ集會ヲ促シ之ニ上席スル
 ヲアリ此等ノ集會商議ハ蘇國立法事務ノ奏功ト協和トニ
 與テ大ニカアリシヲ疑ヲ容レズ

第三章 議院特ニ下院ニ對スル執政官ノ責任

第一節 格段ナル執政官ニ對スル訟難ノ責任

格段ナル執政官ニ對スル訟難

議院政府ノ現行法ハ施政政府ヲ組成スル所ノ執政官全体ヲ
 シテ責任ヲ負擔セシムト雖ヒ本邦ノ憲法ハ一個ノ執政官
 ヲ撰定シテ格段ナル施爲ノ責任ヲ負擔セシムト云ヘル舊

法モ亦未ダ全ク廢棄セラレタルニ非ス一個人ノ過失ニシテ施政府全体之カ責ニ任スルヲ拒ムキハ直接ニ此舊法ヲ適用スルヲ得可シ

余輩既ニ觀察シタルカ如ク執政官全体責任ノ大義ハ一朝一夕ニ確定セル者ニ非ス近時ニ至テ初テ憲法上ノ定則ト認承セラレタル者ナリ時ノ内務卿フツクスノ如キハ千八百六年ニ至ルモ尙ホ全内閣ヲシテ各執政官ノ施爲ノ責ニ任セシムルヲ不可トシ執政官ヲシテ議院ト國民トニ向テ直接ニ其擔當部局ノ責任ヲ負擔セシムレハ以テ充分ニ弊害ヲ防禦スルヲ得可シト論セリ然レモロード、カッスルリハ千六百九十八年土地分割條約ニ關スル下院ノ處置ヲ引証シテ此說ヲ妄謬ナル所以ヲ辨シ今ヲ去ル百有餘年前ニ

共同責任

在テスラ施政府ノ重立タル人々ハ皆共ニ政策執行ノ責任シ獨リ之ヲ其執行者ニ負擔セシムルカ如キヲナカリシ旨ヲ演ヘタリ爾後デルビー侯ハ此点ニ於ケル真正ノ定義ヲ説明シ曰ク政黨ニ因テ其機關ヲ運轉スル責任政府ノ精神ハ執政官皆ヲ共ニ政務ノ責ニ當リ協同一致ノ事務ヲ制定シ一人若シ地ニ墜ツン。他モ亦之ト共ニ墜ツルニ在リト此定義ノ旨趣ヲシテ全ク格段ナル執政官ニ附屬ス可キ責任モ各執政官皆ヲ之ヲ分擔ス可シト云フニ在ラシメハ數々不便ヲ生スルヲアル可シト雖モ彼ノ身ヲ以テ議院ノ各責ニ當リ若クハ法律上ノ手續ニ因テ處分ヲ受ク可キ行爲アル者ノ如キハ單獨ニシテ悉皆ノ責任ヲ負擔セサル可ラサルヲデルビー侯說明ノ精神ヲ考フルモ以テ之ヲ知ルニ

執政官ハ其同僚一身上ノ過失ノ責ニ任セ

足レリ斯ル場合ニ於テ内閣全員其責任ヲ分擔スルモ過失アル執政官ヲ防護スル能ハス且ツ自ラ好シテ責任ヲ分擔シ若クハ其之ニ關與シタルヲ明カナルニ非スンハ執政官ハ其同僚ノ擔任部局ニ不當ノ施爲アルモ決シテ其罪ヲ分ツヲ要セス

次ニ舉クル所ハ格段ナル執政官ノ過失ニ關シテ議院ニ起レ難訴中ノ重要ナル者ナリ此等ノ場合ニ於テ施政府ハ一タヒ査問ヲ防ソカ爲メ處中シタルヲナク又議院ノ以テ或ル執政官ノ過失ト爲ス所ノ施爲ニ向テ責任ヲ負擔セントシタルヲナシ故ニ議院モ亦常ニ格段ナル執政官ノミテ咎責若クハ査問シ廣ク其同僚ヲシテ罪ヲ分タシメント企タルヲナシ

一執政官ニ對スル訟難ノ例証

千八百五五年下院ハ其嚮ニ海軍司計官タルコ方テ不當ノ行爲アリタリ迎海軍卿ロード、メルシュルヲ彈劾シ終ニ之ヲ有罪ト議決シタルカ故氏ハ其執政官職ヲ辭シ又樞密院議官名簿ヨリ其姓氏ヲ除却セラル然レモ氏ハ他日ニ至テ其將ニ受ケントセル刑罰ヲ免ル、ヲ得タリ

千八百六年五月十四日下院ニ決議案ヲ提出シテ既ニ二年前ニ海軍卿ノ職ヲ辭シタルセイント、ヅンセント侯ヲ責ムルニ其在職中ノ怠慢過失ヲ以テセント企タル者アリキ乃チ訟難ノ主旨ヲ討議審案セルニ其全ク無根無証跡ナルヲ明カナリケレハ動議ハ忽チ否決セラレタルノミナラス下院ハフックスノ發言ニ因リ書ヲ侯ニ贈テ其在職中ノ勤勞ヲ謝スルノ議ヲ可決ス

千八百九年ヨーク侯殿下ハ軍用物拂下ニ際シ不正ノ處置ヲ施セル者アリシニ之ヲ等閑視シタリ迎下院議員ノ爲メコ咎責セラレ該院ノ查問ニ應シテ充分其行爲ヲ辨解シタレト尙ホ辭職セラレタリ

千八百十年内閣執政官ヲ以テ不幸ナルワルチエレン征討ヲ總督セルチツサム侯ハ國務尙書ノ手ヲ經スシテ直チコ其報告書ヲ陛下コ奉呈セルニ下院ハ之ヲ以テ不當且ツ憲法違背ノ行爲ト認定シテ侯ヲ咎責セリ

千八百二十五年下院ハ大審院ノ裁判執行ノ緩漫ナルヲ見テ大法官エルドントヲ咎責スルノ議ヲ可決ス是レ世上ノ一大疑問ト爲レルヨリ既ニ十八年ヲ經過セルモ未ダ決定セサリシ所ノ者ナリ大法官ハ大ニ下院ノ措置ヲ怒

テ詞訟ノ延滞セルモノヲ判決シタル上ハ直チニ辭職ス可シト決心セリ内閣ハ下院ノ決議ニ應シテ實況ヲ審査セル後チ該法庭ノ事務ヲ拂ラシム可キ議案ヲ提出シ別ニ内閣ノ困難ヲ生セスシテロード、エルドントヲ獎勵シ之ヲシテ益々活潑ナラシメタリ

千八百四十四年内務卿サー、ジームス、グラハムハ下院ニ訟難スルニ某議員ノリीडニ於ケル演說中ノ言論ヲ以テセルコ己カ議員タリ執政官タルノ位格ヲ汚ス可キ事實却テ之レカ爲メニ露顯セリ下院ノ首領サー、ロベルト、ピールノ發議ニ依リ該院ハ細カニ訟難ノ趣旨ヲ調査シタル後チ之ヲ以テ無根ノ讒誣ト議決ス

千八百四十五年三月十一日下院ノニョーシラントノ事

務ヲ討議スルニ際シニローランデ會社ト關係アリ且ツ之ヲ代表スル所ノ一議員ハ殖民地國務尙書ロイド、スタングレーヲ咎責シテ曰ク氏ハ千八百四十三年ヲ以テ該社ト約束ヲ結ビ此約束ニ從テ訓示書ヲローランデ太守ニ附與スル筈ナリシカ爾後全ク此約束ニ違背セル秘密ノ訓示書ヲ太守ニ附與シタリト下院ハ殖民地國務尙書ニ與フルニ此咎責ヲ辨解ス可キ機會ヲ以テスルニ一決シ乃チ全月十八日殖民地國務尙書(ロイド、スタングレー)ハ貴族ニシテ下院ニ出席セサルカ故(チ)シテ充分其長官ニ係ル訟難ヲ辨解スルヲ得セシメタリ之ニ次テ起レル討議ヲ見レハ下院ハ殖民地國務尙書ノ該會社ヲ欺ク可キ意趣ナク又實際之ヲ欺カサリシヲ認定シタルヲ明ケン

是ヨリ先キ巴里ノ法庭ハ佛帝ヲ刺殺シ奉ラント企タル伊丹利人ヲ吟味スルニ方リ英ノ下院議員ニシテ海軍大輔ナルスタンズ、フルドノ親シク叛逆人ト通信セルヲ明言シタリ千八百六十四年二月廿九日之カ爲メ下院ニ議論起リスタンズ、フルドハ頻ニ此言ノ無實ナルヲ辨解シ且ツ其斯ル罪惡ヲ嫌厭スルコト實ニ大ナル旨ヲ演ヘタリ三月十七日某議員動議ヲ起シテグレコノ吟味ニ方リ佛國檢事長ノ「當院議員ニシテ我カ政府ノ官吏タルモノガ吾人ノ同盟國タル佛ノ皇帝ヲ刺殺シ奉ラントセル惡謀ニ加擔シ居ル」ト演ヘタル一言ハ決シテ當院ノ等閑視ス可キ者ニ非ス余ハ當院ノ嚴ニ之ヲ查考セラレノヲ希望スト是ニ於テ議論大ニ沸騰セシカ十名ノ多數ニ

因テ動議終ニ廢棄セラル然レ實ニ兩政黨ノ勝敗ヲモ決ス可キ程重大ナル投票ニシテ之ヲ創起セル者ハスタンズフェルドナルカ故世人皆ナ氏ノ必ス辭職ス可キヲ豫想セリ是ヨリ先キ氏ノ進退伺テ出スヤ大宰相ロード、パーメルストンハ氏ヲ諭シテ依然其職ニ止ラシメタル下院ハ之ヲ聞テ再ヒ議論ヲ生ス翌日スタンズフェルド下院ニ告テ曰ク余ハ既ニ余カ微力ヲ以テ政府ヲ補佐シ之ヲシテ強鞏ナラシムル能ハサルノミナラス却テ之ニ混雜困難ヲ與フルノ根源トナランコト恐ル、カ故今マ謹ンテ官職ヲ辭セリト是ヨリ氏ハ充分ニ其在職中ノ行爲ヲ説明辨解スロード、パーメルストンモ亦氏ニ次テ起立シ盛ニ氏カ勤勞ヲ稱揚シタル後チ其辭職ハ甚タ惜ム可

執政官全体ヲ以テ其責ニ任スル所ノ訟難

シト雖モ全ク氏カ意望ニ出テシ者ナル旨ヲ演フ爾後復タ氏カ行爲ヲ議セル者ナシ

左記ノ場合ニ於テハ執政官全体ヲ以テ訟難セラレタル施爲ノ責ニ任シタルカ故下院ハ之ヲ内閣ニ對スル信任ノ有無如何ヲ決定ス可キ疑問トシテ取扱ヘリ

千八百三十五年九月四日ヒュームハ下院ニ數個ノ決議案ヲ提出シテ嚮ニ出納検査長スプリング、ライズノ結締セル西印度貸附金ノ條約ヲ非難シ之ヲ評シテ國家ニ大害ヲ與ヘタル者ト論セリ出納検査長ハ直チニ起立シテ細カニ其行爲ヲ辨護シ且ツ演ヘテ曰ク此件ノ如キハ下院ノ宜シク嚴密ノ注意ヲ加ヘテ觀察ス可キ者ナリ故ニ當院今マ斯ル動議ヲ起スモ余ハ之ヲ非難スルノ權理ナシ

動議者ノ説ク所果シテ實ナラハ當院ハ書ヲ陛下ニ奉テ
 余カ免黜ヲ請ハンノミト終ニ臨ンテ氏ハ其結約セル個
 條ハ英帝國ノ信用ヲ示ス可キ最好ノ徵証ナル旨ヲ辨セ
 リ下院ハ有名ナル計算家ヲシテヒ、ームノ當議案ノ當否
 ヲ查考セシメタル後チ異議ナク出納検査長ノ言説ニ同
 意ス

千八百三十八年三月六日サー、ウヰリアム、モールスウツル
 ハ下院ニ動議ヲ起シテ現任殖民部國務卿ロード、グレチ
 ルクハ勉勵先見判斷活潑剛毅ノ資質ナキカ故當院并ニ
 國民ノ信任ヲ有セサル旨ヲ奏上ス可シト論シタルニ執
 政官ハ直チニ下院ニ要ムルニ此動議ヲ國務尙書ノミニ
 對スル咎責ト認メスシテ施政府全体ニ對スル咎責ト認

定セシコトヲ以テス其理由ニ曰ク當國ニ在テハ分離獨立
 セル諸部局政務ヲ負擔セスシテ世人ノ熟知スルカ如ク
 各部局ノ事務ト雖モ必ス一ヒ内閣ニ提出シテ其意見ヲ
 求ム各部局ハ唯タ内閣ノ意見ニ從テ其擔當事務ヲ施行
 スルノミ故ニ部局ノ政策ノ如キモ内閣固ヨリ其責ニ任
 スト政府ノ殖民政策ニ關シテ長キ討論ノ後チ動議ハ終
 ニ否決セラレタリ

千八百四十四年ト全四十五年トノ會期ニ際シチ、エス、
 ダンコムブハ内務卿サー、シェームス、グラハムノ驛遞局ヲ
 シテ郵書ヲ開封セシメタルヲ以テ不當不法ノ權力使用
 ト爲シ内務卿咎責ノ動議ヲ起セリ上下兩院ハ秘密委員
 ヲ設テ下院ノ委員ハサー、シェームス、グラハム自ラ之カ設

置ノ議ヲ起ス之ヲ調査セシメタルニ委員ハ内務卿ノ郵書ヲ開封セシメシハ法律ニ遵據セル行爲ニシテ毫モ權力ヲ誤用セシ者ニ非サル百ヲ報告ス是ニ於テ上下兩院ノ議員中再ヒ斯ル行爲ナカラシメンカ爲メ法律ノ改正ヲ主張セル者アリシカ諸執政官ハ皆ナ内務卿ノ措置ヲ可トシ内閣一体トシテ其責任ヲ負擔セリ

千八百五十年六月十七日上院ハロード、スタンレーノ發議ニ依テ政府ノ希臘ニ關スル政策ヲ非難セル決議案ヲ可決ス其目的蓋シ外務卿ロード、パーメルストンノ行爲ヲ咎責スルニ在リ此際下院ハ議論紛起ノ後ヲ終ニ該政策ヲ可トスルノ決議案ヲ可決シテ上院ノ議決ニ反對ス希臘政策ノ辨護ハロード、パーメルストン專ラ之ニ任シ

頗ル著名ノ演說ヲ爲シテ滿場ヲ壓倒セリ反對黨ノ首領デスレーリ後チ此際ノ討議ヲ評シテ曰ク兩黨議員ノ辨論皆ナ其當ヲ得タリ唯ダ動議者ノ直接ニロード、パーメルストンノ上席セル部局ノ政策ヲ攻撃シタルニ至テハ余之ニ左祖スル能ハス何トナレハ格段ナル執政官ノ施措ハ内閣全体ノ政策ト分離ス可ラサル者ナレハナリ外務卿ノ之ヲ辨明セルハ當レリト云フ可シト

千八百五十二年二月十九日下院中愛蘭總裁ロード、クラレンドンノ該國騷擾ニ際シテ政府ヲ維持保護セル新聞記者ノ償酬ヲ公財中ヨリ支出セルヲ不可トシ之カ咎責ノ動議ヲ起セル者アリ其言ニ曰ク當院ノ意見ニ依レハ近時愛蘭政府ト或ルダブリシ新聞記者トノ間ニ起レリ

ト見ユル所ノ事態ハ行政部ノ威權ヲ削弱シ公務ノ執行
 上ニ不信用ヲ返寫ス可キ性質ノ者タリト大宰相ロード
 シモン、ラッセルハ其同僚ヲ防護シテ英ニ於テハ斯ル措置
 ナ施セルヲナシト雖ヒ愛蘭ニ於テハ歴代ノ執政官數々
 之ヲ施シタルヲ演ヘ又該國ノ景狀今日ノ如クナルニ
 方テハ之ヲ施ス毫モ不可ナキ旨ヲ演ヘタリ決ヲ舉グル
 ニ及ンテ勳議終ニ廢棄セラル

左記ノ場合ニ於テハ其處置ヲ非難セラレタル執政官自ラ
 辭職シタルカ爲メ又他ノ執政官ノ訟難セラレタル行爲ニ
 關與セサリシカ爲メ内閣其責任ヲ免レタリ若シ此二因ナ
 クンハ執政官ハ皆ナ格段ナル遭際ニ於テ其同僚ノ施シタ
 ル措置ニ向テ責任ヲ負擔セサルヲ得サリシナル可シ

非難ヲ受ケタ
 ル執政官ノ辭
 職セル例証

千八百五十五年六月羅國トノ戰闘ニ際シ政府ハ殖民部
 國務尙書ロード、シモン、ラッセルニ特命ヲ授テ維納ニ到ラ
 シム氏ハ戰闘諸國ヲシテ講和條約ヲ結ハシムルノ約束
 ナ定メテ歸朝シタルニ内閣ハ之ヲ不可トシ條約ヲ結ハ
 スシテ戰闘ニ從事スロード、シモン、ラッセルハ此措置ヲ可
 認セスト雖ヒ尙ホ内閣ニ留レリ下院ノ之ヲ聞クヤロ
 ード、シモン、ラッセルニ向テ事ノ虛實ヲ查問ス氏ハ其行爲ヲ
 辨明シテ依然内閣ニ留マルノ不可ナキ所以ヲ論スト雖
 ヒ下院ヲ満足セシムル能ハスサー、イー、ヒーリットンノ如
 キハ氏ヲ咎責スルノ勳議ヲ提出セント欲スル旨ヲ告知
 セリ勳議案ニ曰ク當院ノ見ル所ニ依レハ近時ノ維納會
 議ニ於ケル我カ執政官ノ行爲ハ國務ヲ委托セラレタル

者ノ信任ヲ減少ス可キ者ナリト此動議ハ下院ヲ通過ス可キ勢アリテ一旦通過スル時ハ内閣トロード、ジョンラッセルト共ニ其位地ヲ危フセラル可キカ故氏ハ六月十六日ヲ以テ辭職セル趣ヲ下院ニ告ケタリ氏ハ其辭職ヲ報告スルニ方リ兼テロード、パーメルストンハ氏ニシテ内閣ニ留ラント欲セハ好ンテ防護ノ責ニ任セントシタレ他ノ同僚ハ辭職ヲ慫慂セル旨ヲ演ヘタリ其果シラ然リシヤ否ヤハ暫ク措キ氏カ辭職ノ下院ニ通知セラル、ヤ否ヤロード、パーメルストンハ政府ハ一時結締セントセル條約ヲ棄却シ斷然戰鬥ヲ舉行スルニ決心シタルヲ明言ス之ニ於テ動議者自ラ其說ヲ引ケリ

千八百五十八年五月印度事務局長ロード、エレンボロー

ハ印度大守ロード、カンニングニ公書ヲ贈テ前ノ騷擾ニ際セル行爲ヲ罪センガ爲メ印度土人ニ向テ發セントセル告示ハ嚴酷ニ過クルカ故之ヲ可認スル能ハサル旨ヲ演ヘタリ此公書ハ秘シテ漏ラヌ可ラサル性質ノ者ナリシガロード、エレンボローハ大宰相ロード、デルビー及ヒ其他ノ内閣員ノ認許ヲ得スシテ輕急ニモ之ヲ上下兩院ニ通知セリ然ルニ兩院議員ハ概テ此公書ヲ不可トセルカ故氏ハ直チニ之カ悉皆ノ責ニ任シ大宰相ノ手ヲ經テ辭表ヲ呈スルノ例規ヲ踐マス親シク陛下ニ謁見シテ之ヲ呈シ然ル后チ初テ之ヲ其同僚ニ通知シタリ爾後少シクシテシフテスバリー侯ハ全月十四日ヲ以テ此公書ヲ不可トシ又妄ニ之ヲ公布シタルヲ咎責セル決議案ヲ上

院ニ提出ス候ハ之ヲ提出スルニ方リ論シテ曰ク執政官ハ皆ナ其同僚ノ行爲ニ因テ羈束セラル可キ者ナルカ故獨リロード、エレンボローヲシテ其行爲ノ責ニ任セシメス執政官皆ナ辭職セサル可ラスト大宰相ト出納検査長トハ之ニ答テ曰ク内閣ハ各執政官ノ行爲ニ向テ責任ヲ負擔セサル可ラサルヲ辨テ待タスト雖ヒ格段ナル執政官若シ其行爲ノ罪ニ任シテ内閣ヲ退ケハ他ノ執政官ハ其各責ヲ分擔ス可キ者ニ非ス共ニ内閣ニ居テ其事ヲ共ニスル間ハ執政官皆ナ其同僚ノ行爲ニ對シテ責任ヲ分ツト雖ヒ其初テ疑問ト爲ルニ方テ或ル施爲ヲ不可トシ之ニ同意セサレハ之カ責任ヲ分ツヲ要セストロード、デルビーハ上ニ掲出セル千八百五十五年ロード、モンラ

特知官

「セル」一例ヲ引テ其説ノ誤ラサルヲ証シ且ツロード、エレンボローノ發贈セル公書ノ如キハ余之ヲ可認シ之ヲ採用シ之カ責ニ任スト雖ヒ其妄ニ之ヲ公示セルニ至テハ余モ亦之ヲ惜ミ之ヲ不可トスト演フ大宰相ハ又公書中ニ激烈ナル言辭多キ所以ヲ辨明シテ曰ク嚮ニ印度事務局長ノ職ニ居レルヴ、ルノンスミスハ既ニ退職セルロード、カンニングハ之ヲ知ラス氏ニ向テ告示案ト之ニ關スル諸般ノ事項トヲ報告シタリ然ルニ前任事務局長ハ悉皆之ヲ新任官ニ回附セスシテ其中ノ或ル個條ヲ隱匿セリ是レロード、エレンボローノ公書中ニ激烈ナル言辭ヲ使用セル所以ナリト決議案終ニ廢棄セラル同日下院ニ於テモ亦同様ノ決議案ヲ提出セル者アリテ一層

明白ニ公書ノ趣旨ト妄ニ之ヲ公示シタル事トナ非難ス
 此際修正案ヲ提出シテ之ニ關スル情狀ヲ詳知シタル後
 ニ非スンハ下院ハ輕卒ニ意見ヲ陳述ス可ラスト論セル
 者アリキ之ヲ討議スルヲ四夜ニ及ヒ執政官ハ上院ニ於
 テ論辨セル所ト同一ノ趣意ヲ以テ其位地ヲ防護シ終ニ
 決議案ト修正案ト共ニ之ヲ廢棄スルヲ得タリ此討議
 ニ際シ前任印度事務局長ヴェルノン・スミスハ數々之ヲ
 拒メリト雖ヒ終ニ其在職中ロード・カンニングヨリ落手
 セル文書中ノ公務ニ關係セル事項ヲ抄記シロード・パー
 メルストンノ手ヲ經テ之ヲ下院ニ通知スルノ止ム可ラ
 サルニ至レリ

執政官既往ノ

下院ハ委員ヲ設テ羅國トノ戰爭ニ關スル事項ヲ調査セシ

過失ハ如何ニ
薩處ヲ可キヤ

メタルニ委員ハ該戰爭ノ始ニ方テ在職セル執政官ノ措置
 中事ノ極テ不當ナル者アリシヲ報告ス是ニ於テ乎下院
 ハ千八百五十五年ヲ以テ執政官ノ退職後ト雖ヒ其在職中
 ノ過失ニ向テ負擔ス可キ責任ノ程度ト議院ヲシテ斯ル過
 失者ヲ咎責處罰スルヲ得セシム可キ適宜ノ方法トヲ討議
 セリ此際議決シタル所ノ要領ヲ舉レハ曰ク新任内閣ハ其
 執政官中前任内閣ニ在テ失當ノ行ヲ爲セル者アルモ之カ
 責ニ任セサル可シ曰ク前任執政官ニ對シテ施ス可キ良好
 ノ處分法ハ議院ヨリ之ヲ彈劾スルト陛下ニ奏議ヲ上テ樞
 密院議官ノ名簿中ヨリ其姓名ヲ除却センコトヲ請フト法律
 上ノ應當ノ手續ヲ以テ之ヲ訴フルトノ三者ニ過キス
 議院政治法確立シテ執政官皆ヲ議院ニ對シテ責任ヲ負擔

ナルニ至レルヨリ官吏ノ其行爲ヲ觀察檢点セラル、
 時王權政府ノ下ニ奉職セル者ノ比ニ非ス故ニ官吏ハ皆其
 措施ヲ謹ミ往時ニ在テ我カ青史ヲ汚瀆シ且ツ議院ヲシテ
 止ムヲ得ス彈劾ノ處爲ニ出テシメタル政治上ノ罪犯ハ頗
 ル之カ爲メニ減少セリ今日ニ在テハ議院モ幾ント彈劾ノ
 嚴法ニ倚賴スルヲ要セス其不能若クハ過失ニ因テ議院ノ
 好意ヲ失ヘルカ如キ執政官ヲ罪スルニハ咎責免黜等ノ寬
 法ヲ以テス議院若シ之ヲ適當ト思惟スレハ今日モ彈劾權
 ヲ使用スルヲ得可シト雖モワルボール退職後ハ一ヒモ之
 ヲ用キタルヲナク其免黜ト社會公衆ノ咎責トヲ以テ執政
 官職務上ノ過失ヲ罪スルニ充分ナリト考定スルニ至レリ
 然レモ此責罰法ハ我カ憲法ノ理論ト全ク適合スル者ニ非

執政官其職務
 フ怠ルニ際シ
 テ處ス可キ方
 法

ス故ニ今後ト雖モ若シ責任執政官其他高貴ノ職員ニシテ
 行政權ヲ誤用シ斯ク嚴格ナル處分法ヲ施シテ不可ナキ程
 重大ナル場合ノ起ルヲアレハ政治上ノ罪犯ヲ審問救回セ
 ンカ爲メ彈劾ノ舊法ヲ用キルヲ得可シ
 縱令何等ノ原因アルニモセヨ政府ノ責任部局ノ長官其職
 務ヲ怠ルヲアレハ議院ハ之ニ注意シ若シ其必用ナルヲ見
 ハ之ヲ誘フテ勉務セシムルヲ可トス
 千八百五十五年二月ロッドジョン、ラッセルノ諸國公使ト共
 ニ羅國ト平和條約ヲ締結ス可キ方法ヲ商議センカ爲メ
 辨理公使トシテ維納府ニ送ラレタル時ハ施政府吏員ナ
 ラサリシカ全月二十二日內閣ノ新ニ組成セラレ、ヤ新
 任大宰相ハ電報ヲ以テ氏ノ內閣ニ入ランコトヲ促シタル

ニ氏ハ直チニ之ヲ諾シテ殖民地國務尙書ノ任ニ就ケリ
 三月九日デルビー侯ハ上院ニ於テ殖民地尙書ノ外國ニ
 在テ其職務ヲ執ラサルカ爲メニ生スル公務上ノ不便弊
 害實ニ大ナルヲ論シ又下院ニ出テ、該部局ヲ代表ス
 可キ副尙書未ダ任命セラレサルカ故其不便弊害益々大
 ナル旨ヲ論セリ内閣議長グランヅル侯之ニ答テ曰ク内
 務卿モ亦國務内書ニシテ固ト該省諸部局ノ事ヲ執ルヲ
 得可キ者ナレハ現今ハ内務卿サ、ジョージ、グレ、殖民地
 ノ事務ヲ兼攝ス故ニ該部尙書ハ外國ニ在ルモ之カ爲メ
 大不便大弊害ノ生ス可キ理ナシト全月十二日サ、ジョン
 バキントンハ下院ニ於テ全上ノ事項ヲ論シ殖民地尙書
 ノ使命ヲ帶テ外國ニ在ルヲ評シテ最モ常慣ニ反シ極テ

不満足ナル事ト云ヘリ斯ル先例ハ唯々嘗テ外務卿ノ會
 議ノ爲メ外國ニ出テタル一例アルノミニシテ此會議ハ
 其擔任部局ト密着ノ關係ヲ有スル者ナリキ大宰相ロ、
 ド、パーメルストンハ此制置ノ長カラサル可キヲ告ケ又
 尙書不在中ト雖モ殖民地ノ事務ハ決ノ等閑視セラレサ
 ル可キ旨ヲ告テ之ヲ防護ス全月三十日サ、ジョンバキン
 トンハ再ヒ此事項ニ論及シテ曰クサ、ジョージ、グレ、ハ
 其兼務ヲ解キ大宰相自ラ殖民地ノ事務ヲ擔當スルカ如
 シ教主蘇生祭ノ休課後ニ及ンテ政府尙ホ依然之ヲ改メ
 スンハ余ハ動議ヲ起シテ可否ノ意見ヲ當院ニ問フ可シ
 トサ、ジョージ、グレ、ハ氏カ説ケル事實ノ誤ラサレシ
 ヲ認承シ又現今ノ制置ハ之ヲ永續ス可ラサル者ナルヲ

ヲ認承シタリト雖也尙ホ大宰相ハ憲法上一時何レノ部局ノ事ヲモ攝理スルヲ得可キ者ナルヲ明言セリ後テ議院ハロード、ジョン、ラッセルノ多クハ四月二十八日ヲ以テ其擔任事務ニ着手ス可キ旨ノ報告ヲ受クト雖モ殖民部尙書ノ下院ニ出席シタルハ全月三十日ナリキ此際氏カ欠席ニ論及セル者ナシ

第二節 執政官全体ニ對スル訟難ノ責任

執政官ノ責任

今日ニ所謂ル執政官議院ニ對シテ責任ヲ負擔ストハ其實下院ニ對シテ之ヲ負擔スルヲ謂フノミ蓋シ上院ノ國事上ニ有スル威權尊重大ナラサルニ非スト雖也一執政官ノ進退モ該院ノ投票ニ因テ定マラサレハナリ上院モ時ニ或ハ内閣ヲ妨阻シ其事務ヲ拒絕シ若クハ廢滅セシムルヲ得ル

ノミナラス其政策モ亦之ヲ罪スルヲ得可シ然レモ該院ハ下院幫助スル所ノ内閣ヲ顛覆シ若クハ下院責罪スル所ノ内閣ヲ維持スル能ハス之ヲ反シテ下院ハ上院ノ意見如何ニ拘ハラスシテ政府ヲ顛覆シ若クハ維持スルヲ得可シト雖也下院ハ孤立シテ此大權力ヲ有スルニ非ス其意見ハ則チ社會公衆ノ開明進歩セル意見ノ真相ナルカ故此權力ト効力トヲ有スルノミ故ニ下院ノ投票モ之ヲ組成スル所ノ社會公衆ニ因テ允許確定セラル、ニ非スンハ内閣ノ進退ヲ決定スルルヲ稀ナリ千八百四十八年其初テ佛國ノ王室顛覆シテ共和政治公布セラレタルヲ聞クヤサー、ロベルト、ピール嘆シテ曰ク是レ戶外ノ言説ヲ顧ミス唯タ議院内ノ多數ニ因テ政府ヲ執行セント試ミタルノ結果ナリト敏

執政官下院ニ
多數ヲ制セサ
ルニ方テ處ス
可キ法道

ナル哉見ヤ

其執政官ヲ撰擇シ指名シ及ヒ免黜ス可キ至尊ノ特權ト議院ノ法律上之ニ干渉スルヲ得可キ場合トハ前篇既ニ之ヲ論セリ余輩ハ之ヲ論スルニ方リ陛下ノ御意ノ向フ所ノ者ニシテ下院ニ多數ヲ制セサレハ通常甚ダ望マシカラス又非難ス可キ事タリト雖モ尙ホ陛下ノ撰擇ヲ抑制限畫スルニ足ラサルヲテ説ケリ此大義ノ認承セラレタルカ爲メ當タ至尊ヲシテ正當ノ權力ヲ使用シテ政府ヲ左右スルヲ得セシムルノミナラス他ニ重要ナル功績ヲ生セリ蓋シ内閣ハ一般ニ議院ノ信任ヲ有スト雖モ一時其名望ヲ失墜スルヲナキ能ハス斯ル場合ニ於テハ再ヒ下院ト協和一致シテ政務ヲ執行シ得ル迄暫ク政權ヲ他人ニ委テサル可ラス

任新内閣ノ説
明

又委マルヲ可トス此際陛下ノ爲メニ反對党ヨリ舉ケラレタル新任施政府ハ良巧ナル措置ト善美ナル政策トニ因テ陛下ノ撰擇ノ當レルヲ証シ且ツ議院ノ信任之レナケレハ忽チ顛覆セサル能ハスヲ買フヲ得可キ機會ヲ有ス是其公益ヲ生スル所タリ何トナレハ何レノ内閣ト雖モ永ク政權ヲ掌握スレハ自ラ汚腐セル勢力ヲ使用シ已カ責任ヲ忘レテ有害ナル感情ヲ起スニ至ル可レハナリ
新任執政官ト上下兩院議員トノ互ニ協和一致スルハ事ノ極テ重要ナル者ナリ故ニ新任執政官ハ議院開會中ナレハ直チニ内閣ノ更迭セル所以ト其主持セント欲スル政策トヲ説明シ議院閉場中ナレハ其開場後成ル可ク速ニ之ヲ説明スルヲ常慣トス千七百八十二年大宰相ロード、ロッキンガ

ム卒シロード、シユルバルン之ニ代テ改進黨ノ内閣ヲ組成スルヤ七月九日ト十日トナ以テ新任内閣ノ主持ス可キ大義ヲ上院ト下院トニ通知ス是レ此慣行ノ起源ナル可シ千八百四十五年サー、ロベルト、ピールハ穀法事件ノ爲メニ辭職シロード、ジョン、ラッセル新ニ内閣ヲ組成セント欲シテ成ラスピール再ヒ内閣ニ入レリ此際議院ハ閉場中ナリシモ其開場スルヤ下院ニ於テハ大宰相自ラ此等ノ事態ト其政策トヲ説明シ上院ニ於テハウヰリントン侯大宰相ノ請ニ應シテ之ヲ説明ス千八百五十九年ロード、パーメルストンノ内閣再ヒ辭職セル迄ハ大宰相一院ニ於テ其主義政策ヲ説明スレハ他院ニ於テ之ヲ再説スルヲ要セスト考定セラレシモ其前年議院中之ヲ非難スル者アリタルカ爲メ新任内閣ハ

議院ノ新任執政官ニ問フヲ得可キ事項

通常其主義政策ヲ兩院ニ説明スル事ト爲レリ之ヲ説明スルニ先テ執政官ハ明ニ陛下ノ認許ヲ得サル可ラスシテ若シ得可シンハ同時ニ上下兩院ニ説明スルヲ好シトス議院ハ唯々新任執政官ノ因テ以テ政府ヲ組成セタル大体ノ主義ヲ問フヲ得可シ其細目ヲ問フ可キ權理ヲ有セサルルナリ議院ハ新任執政官ノ討議ニ際シ其因テ以テ就職ヲ諾セル議定約束ナリトテ特ニ論及セル事態ヲ問フヲ得可シ各執政官ノ問ニ起レル悉智ノ情狀事態ヲ問フ可キ權理ヲ有セサルナリ

千八百四十六年サー、ロベルト、ピール退テロード、ジョン、ラッセル之ニ代テ大宰相ト爲レルニ方リ改進黨員ノ下院ニ在ル者甚々少數ナリケレハチー、エス、タンコムブハ如何ナル主

義ニ據テ新政府ヲ組成セルヤ又其執行セント欲スル所ハ如何ナル政策ナルヤヲ質問シ且ツ曰ク熟ラ議院ノ慣行ヲ案スルニ直ニ其政府ノ根據トシテ遵守ス可キ主義ヲ議院ニ説明スルハ新任大宰相ノ國家人民ニ對シテ負フ所ノ職任ナルカ如シトロード、ジョンラッセルハ其下院ニ在ルコト三十有餘年ニシテ何レノ場合ニ於テモ常ニ其意見ヲ告示明言シタレハ下院ハ其主義意見ヲ熟知ス可キ筈ナル由テ演テ今マ改テ之ヲ説明スルノ必要アルヤ否ヤヲ疑ヘリ然レモ斯ル重大ナル公事ニ就テ執行セント欲スル政策ノ質問ハ氏モ之ヲ無用トセスノ成ル可ク明瞭ニ格段ナル事件ニ關シテ執行セント欲スル意見ヲ陳述ス可キ義務アルコトヲ認承シ諸般ノ事項ニ關シテ進行ス可キ格段ナル方途

ヲ演テ其行爲ヲ羈束スルコトヲ爲サ、リシト雖モ尙ホ詳ニ其意見ヲ説明セリ、
千八百五十二年二月二十七日デルビー侯ノ就職スルヤ其政府ノ執持ス可キ全体ノ主義ヲ説明シタリト雖モ後ヲ穀法ニ關シテ執政官ノ施サント欲スル政策ヲ質問セラル、コ方リ侯ハ之ニ答テ下院ノ改撰期モ既ニ近キニ在レハ改撰後下院代表スル所ノ國民ノ意向ヲ觀察シテ之ニ適合セル政策ヲ施ス可シ今日豫メ之ヲ明言スルヲ要セスト云ヘリ千八百六十六年デルビー侯ノ再々内閣ニ入レル時モ新任執政官ハ其執行セント欲スル政策中ノ或ル部分ヲ判然説明セス之ニ關スル議案ヲ提出スルニ及ンテ之ヲ説明ス可キ旨ヲ主張セリ

千八百五十八年三月一日デルビー侯ノ大宰相ト爲ルヤ
 上院ニハ其因テ以テ政務ヲ執行ス可キ主義ヲ説明シタ
 レト下院ニハ之ヲ説明セサリキ故ニ全月十二日ヲスポ
 ルンハ執政官ノ再撰後下院ニ着席スルヲ待テ「執政官」ノ
 毫モ其執行ス可キ政策ヲ該院ニ通知セサルハ事ノ甚ダ
 驚ク可ク怪ム可キ者ナル由テ演ヘ且ツ新任出納検査長
 ハ必ス供度委員會ニ於テ其執行セント欲スル事務ヲ説
 明ス可ク下院ハ此説明ヲ得サル間ハ經費支給ヲ承諾セ
 サル可シト信スル旨ヲ演ヘタリ是ニ於テ下院ハ直チニ
 海軍經費豫算ヲ議センカ爲メ委員會ヲ開ケルニ海軍卿
 サイ、ジョン、パキン、ト、ン右ノ意見ヲ駁シテ曰ク大宰相ハ既
 ニ上院ニ於テ其政策ヲ説明シ出納検査長(チスレ、ト、リ)其

他ノ執政官ハ其撰舉人ニ對スル演説ニ於テ之ヲ説明セ
 リ故ニ今マ之ヲ再ヒスルハ徒ラニ日子ヲ費消スルノ害
 有テ毫モ之ニ伴フノ利益ナカル可シト全月十五日(ホ
 ルン)再ヒ執政官ノ其執行セント欲スル政策ヲ下院ニ
 説明セサリシ事項ニ論及シテ海軍卿ノ言論ヲ反駁シ其
 他所ニ於テ説明セルカ故再ヒ下院ニ説明スルヲ要セズ
 ト云カ如キハ不理ノ甚ダシキ者ナルヲ辨シ又デルビー
 侯ノ上院ニ於ケル説明ヲ評シテ漠然且ツ不十分ナル者
 ト爲セリデスレ、リ之ニ答ヘテ曰ク執政官ノ下院ニ對
 シテ其提出セント欲スル事務ト其執持スル主義トヲ説
 明スルハ決シテ必要變易ス可カラサルノ慣行ニ非ス先
 例ヲ案スルニ大宰相貴族ナル時ハ其上院ニ於テ爲ス所

ノ説明ヲ悉ク下院ニ再説セサル可ラサルノ慣行アルニ
 非スト氏ハ又既ニ他所ニ於テ説明セル者ノ他更ニ一層
 詳密ナル説明ヲ與フルヲ拒メリロドシヨ、ラセセル
 ノ如キモ亦對々執政官ハ就職ニ方テ必スシモ其政策ヲ
 明言スルヲ要セサルヲ論シ又其始テ就職セルニ方テ
 執政官ヲ苦ムシム可キ行爲ヲ戒メ向後ノ措置ニ因テ其
 能否ヲ判斷スルハ下院議員ノ職任ナルヲ論セリ是ヨ
 リ二三議員ノ辨論アリシ後テ此議終ニ放棄セラル
 最モ議院制度ニ明カナル諸名士皆ナ云ク内閣中一部ノ變
 更アル時ハ政府全ク更替セル時ト同シク其理由ヲ説明セ
 サル可ラス然レモ此慣行ハ近時ニ起レル者ニシテ而モ必
 明ス

内閣ニ一部分
 ノ變更アル時
 モ其所以ヲ説
 明ス

スシモ遵奉セラル、若ニ非ス千八百五十四年前ニ在テハ
 内閣ノ一部分變更セルモ之ヲ議院ニ通知セサリシ例証甚
 タ多ク之ヲ通知セル例証モ亦少ナカラス今日ハ世人皆
 ナ之ヲ兩院ニ通知スルヲ以テ當然ノ事ト認メルニ至レリ
 グラッドストーンハメイヌース學校費ノ件ニ附キ其同僚
 ト意見ヲ異ニセルカ爲メ千八百四十五年ノ議院會期ニ
 先テ辭職シ議院開場シテ奏議ヲ議スルニ方リ其理由ヲ
 説明シテ曰ク議員ノ政府ニ入ルト之ヲ去ルトハ其事同
 シカラスト雖モ其重要嚴莊ナルニ至ラハ則チ一ナリ余
 ハ當院ノ之カ理由ヲ聞シテ求ムルハ決シテ不當ノ要
 求ニ非スト認定スルカ故近時余カ身上ニ附テ起レル事
 態ノ説明ヲ拒ム能ハスト

ロード、ジョン、ラッセルノ千八百五十五年ヲ以テロード、ア
 ヘルデーンノ内閣ヲ退クヤ其友人ニ因テ成ル可ク速ニ
 辭職ノ理由ヲ説明セント欲スル旨ヲ下院ニ通知シ其翌
 日之ヲ説明ス爾後少時ヲ經テ内閣破壊シデルビー、侯ト
 ロード、ジョン、ラッセルトハ新ニ之ヲ組成セント欲シテ奏
 功セザリシカ故此二縉士並ニ前任軍務尙書ニコカスル
 侯ハ上下兩院ニ於テ其事態ヲ説明セリ
 デルビー侯之ヲ説明スルニ際シテ云ヘルコトアリ其官職ニ
 就クコトヲ諾スルト諾セサルトナ問ハス政治家タル者ハ適
 宜ノ時日ニ於テ其所以ヲ朋友ト人民トニ説明スルノ用意
 ナカル可ラス然レモ政府既ニ組織セラレテ國事ノ状態既
 ニ決定セル迄ハ之ヲ説明ス可ラスト

説明ニ關スル
 法則

既ニ記述セル所ヲ見ハ讀者皆ナ重立タル執政官辭職スル
 時ハ之ヲ議院ニ通知スルコト方テ其原由ヲ説明セサル可ラ
 サルコトヲ明知スルヲ得可シ然レモ之ヲ説明スルノ前豫メ
 至尊ノ認許ヲ得サル可ラス又内閣ノ一員辭職スルニ方リ
 其人自ラ上院若クハ下院ニ於テ辭職ノ理由ヲ説明セルノ
 後ニ非スンハ政府ハ他院ニ於テ之ヲ説明スルコトヲ得ス
 下院ノ議事規則ニ曰ク當院ハ之ニ關スル議論ナキ時ト雖
 モ議員ヲシテ其一身上ノ事項ヲ説明スルヲ得セシム可シ
 然レモ斯ル事項ヲ討議スルコトヲ許サスト下院ニ於ケル執
 政官進退ノ説明ハ皆ナ此規則ニ從テ爲ス可キ者トス故ニ
 執政官ノ説明ニ伴フ所ノ討議ハ皆ナ違則ノ者ニシテ斯ル
 場合ニ於ケル演說ハ皆ナ討議ヲ招ンカ爲メ公然タル動議

ヲ以テ結フ可ラサル者トス

然ルコ千八百六十八年五月五日グラッドストーンハ下院
休會ノ動議ヲ起スニ方テ大宰相ヂスレーリノ前日下院
ニ於テ爲セル説明ト他ノ執政官ノ上院ニ於テ爲セル説
明トノ間ニ甚クシキ殊差アルヲ演ヘ大宰相ニ要ムル
ニ其所以ヲ説明センコトヲ以テセリ大宰相ハ氏カ要メニ
應シテ一層明瞭ニ前日ノ趣意ヲ説明シ爲メニ多少ノ議
論ヲ招キダレト大宰相再ヒ之ヲ説明スルニ及ンテ議論
終ニ放棄セラル

内閣組成ノ商
議

斯ル場合ニ於ケル上院ノ慣行ハ下院ノ如ク嚴密ナラス
常法ニ依レハ内閣組成ノ商議アルニ際シ議院ニ於テ何人
内閣ヲ組成ス可キ委托ヲ受ケタルヤ何人之ニ入ル可キ誘

引ヲ受ケタルヤ又何等ノ約束ヲ以テ之ヲ受ケタルヤ等ノ
質問ヲ起スハ不策ニシテ且ツ非難ス可キ事ナリトス斯ル
質問ハ時機未ダ熟セサルニ方テ秘密ノ事項ヲ暴露シ爲メ
ニ不便ヲ生スルコト多シ然レモ困難起テ内閣ノ組成遅延シ
之ヲ委托セラレタル人々ニシテ其暴況ヲ奏上セント欲ス
ル時ハ此種類ノ質問モ之ヲ許セルコトナキニ非ス是レ政治
家ノ行爲ヲ説明シ其性質ヲ潔白ナラシムルノ利益アルカ
故ナリ斯ル質問ニ答フルト答ヘサルトハ受問者ノ意見ニ
在リ

余輩ハ既ニ至尊ノ因テ以テ其執政官ヲ免黜スルヲ得可キ
理由ヲ説明シ又自然内閣全体ノ辭職若クハ一部ノ進退ヲ
起ス可キ情狀ヲ説明シタレハ是ヨリ下院ノ執政官ノ上ニ

使用スルヲ得可キ管理ノ性質ト程度トヲ説明セサル可カラズ

執政官ハ下院ノ信任ヲ有セサル可ラサル者ナルカ故之ヲ失スレハ其官職ヲ辭セサル能ハス執政官下院ノ信任ヲ失ヘルノ徵証三アリ下院直接ニ信任欠乏若クハ或ル指擧セラレタル措置答責ノ投票ヲ爲ス一ナリ執政官之ヲ提出シテ議院ノ受納ヲ得サル可ラサル者ト明言セル立法事務ヲ拒絕スル二十リ施政府ノ意見認承ニ以シテ議院ノ格段ナル法律ヲ議定セント決意スル三ナリ

信任欠乏ノ投票

嫌惡ス可キ内閣若クハ其任ニ堪ヘサル内閣ヲ退ケンカ爲メ直接ニ信任欠乏ノ投票ヲ爲スハ較ヤ近時ニ起レル慣行ニシテ今日ノ如ク下院其理由ヲ演ヘスシテ單ニ施政府ヲ信

任セスト明言スルハ千八百四十一年以後ノ慣行ナリ

千七百四十一年二月十三日上下兩院ノ同時ニサー、ロベルト、ワルポールヲ攻撃セルカ如キハ當時ニ於テ奏功セサリシト雖ヒ氏カ墜落ノ近因ニシテ其實信任欠乏ノ投票トシテ企テラレタル者ナリキ動議者ハ時ノ首相タルサー、ロベルト、ワルポールノ罪狀ヲ擧ケスシテ單ニ奏議ヲ上テ永久氏ヲ御前ヨリ遠サケ氏カ意見ヲ諮問シ給ハサフンフヲ陛下ニ請願ス可キ旨ヲ主張シタルニサー、ロベルトハ動議者ノ其理由ヲ説カサリシカ爲メ之ヲ評シテ王權ヲ侵犯スルノ甚ダシキ者ト云ヘリ動議ハ大多數ニ因テ否決ニナルト雖ヒ後チ數月議員ノ改撰アリ新撰下院ニ於テノ敗北ハ氏ヲシテ速ニ辭職セシメタリ

千七百七十九年上院ノ勅詞ニ對スル奏議ヲ議スルニ方
 リ修正説ヲ出シテ新タル會議ト新クナル顧問者トノ
 必要ナル旨ヲ追加ス可シト論セル者アリシニ大法官サ
 ルローハ之ヲ評シテ明言セズ証跡ヲ擧ケス隱辭以テ執
 政官ヲ罪セント欲スル者ナルカ故憲法背戾ノ言論ナリ
 ト云ヘリロイド、カムデンハ大法官ノ意見ヲ駁シテ答フ
 ルニ辭ナカラシメタリト雖モ修正説ハ否決セラレ
 千七百八十二年下院ハロイド、ノースノ内閣ヲ覆ヘザン
 ト欲シテ數々盡力セル後ヲ直接ニ信任欠乏ヲ議決ス可
 キ旨ノ動議ヲ起セリ此動議ハ細ニ米洲殖民地ノ喪失ト
 戰爭ノ永續トニ關スル不滿ノ原因ヲ枚擧シ下院ハ再ヒ
 斯ル内閣ニ信任ヲ置ク能ハサル由ヲ論セリ之ヲ議スル

ニ方リ出席者極テ多カリシト雖モ僅々九名ノ多數ニ因
 テ否決セラレ是ニ於テ平下院ハ内閣若シ退カスンハ再
 ヒ同一ノ動議ヲ提出ス可キヲ告知シ豫メ期日ヲ定メテ
 ルニ該日ニ及ンテロイド、ノースハ其辭職ヲ通知ス是レ
 直接ニ下院ノ議投票ニ因テ内閣ノ辭職セル第一例ナリ
 千七百八十四年ピットノ新ニ内閣ニ入ルヤ下院ハ數々多
 少信任欠乏ノ性質ヲ帶ヒタル決議案ヲ提出シテ之ヲ可
 決ス然レモピットハ國民ニ訴フ可キ時機熟セル迄毅然ト
 シテ強敵ニ抵抗シ時機既ニ熟スルヲ見ルヤ忽チ之ヲ解
 散シテ其信任ヲ回復スルヲ得タリ當時反對黨ノ首領
 タリシフックスノ如キハ下院ハ其理由ヲ演ヘスシテ執
 政官ノ解任ヲ請フヲ得可シト明言シタレモピットヲ攻

擧セル動議ハ皆ナ訟難ノ理由ヲ蓄有セリ
爾後千八百四十一年ノ著名ナル事態ニ至ルノ間、上下兩
院ニ於テ信任欠乏ノ動議ヲ起セル者多シト雖モ一モ奏
功シタル者ナク且ツ此等ノ動議ハ皆ナ多少非難ノ根據
ト訟難ノ原由ヲ叙述セタリ

今日ニ行ハル
、信任欠乏ノ
投票

千八百四十一年五月二十七日ロイド、メドボールンノ内
閣ハ上下兩院ニ於テ數々敗北シ特ニ下院ニ於テハ砂糖
税ノ重要事件ニ敗北シタリト雖モ尙ホ辭職セス依然公
務執行ニ任セント欲スル旨ヲ明言ス是ニ於テサト、
ルト、ヒール決議案ヲ提出シテ曰ク女王陛下ノ執政官ハ
下院ヲシテ其以テ國家ノ爲メニ重要欠ク可ラスト爲ス
所ノ者ヲ通過セシムルヲ得可キ程充分ナル信任ナシ斯

ル狀勢ヲモ顧ミス依然其職ニ居ルカ如キハ憲法ノ精神
ニ違背スト許多ノ議論後此動議ハ終ニ一名ノ多數ニ因
テ可決セラレタルニツ執政官ハ議院ノ必要ナル事務終
ルヤ否ヤ直チニ之ヲ解散セリ新撰議員ノ會集スルニ及
ンテ上下兩院共ニ執政官ノ爲メニ發議セラレタル奏議
ノ修正ヲ可決ス修正ノ最大目的ハ政府ハ下院ト國民ト
ノ信任ヲ有セサル可ラスト今ノ執政官ハ此信任ヲ有
セサルヲ奏上スルニ在リキロイドシラッセル之ヲ
駁シテ曰ク下院ハ執政官ニ關シテ其意見ヲ陳述スルニ
方リ其理由ヲ説明セサル可ラスト此種類ノ動議ハ常ニ下
院ノ干渉ヲ可トスルニ足ル可キ充分明瞭ナル事實ニ基
テ起レリト修正說ハ大多數ノ賛成ニ因テ上下兩院共ニ

之ヲ可決シタルカ故陛下ハ之ニ應ヘテ直チニ新内閣組
 成ノ方法ヲ施ス可シト告ケ給ヘリ
 デルビー侯ノ内閣ハ改革議案ヲ議スルニ方リ下院ニ於
 テ敗北セシカハ國民全体ノ意見ヲ問ハソカ爲テ議員ヲ
 解散ワタリ千八百五十九年六月七日新撰議員ノ會集ス
 ルヤ奏議ニ數辭ヲ加ヘテ政府ハ下院ト國民トノ信任ヲ
 有セサル可ラスシテ今ノ執政官ハ此信任ヲ有セサルヲ
 ナ奏上セント發議スル者アリ多數ノ賛成ヲ得テ之ヲ可
 決セルカ故執政官皆ナ辭職シタリ
 下院ハ憲法上何レノ時ニ於テモ施政府ノ一部ヲ非認シ若
 シハ一般ニ施政上ノ政策ト處置トヲ信任セサルヲ明言
 スルヲ得可シ然レモ一般ニ信任欠乏ヲ明言スルノ權理

信任欠乏ノ投
 票ハ何レノ時
 ニ於テ之ヲ用
 ウ可キ乎

答責ノ投票

之ヲ用ウルニ幣ナラサル可ラスシテ重大ノ場合ニノミ用
 ウ可キ者ナリ或ル情狀ノ下ニハ信任欠乏ノ投票ヲ爲スモ
 モ妨ナキノミナラス大ニ便益ヲ生ス可シト雖モ單ニ政黨
 抗爭ノ目的ヲ以テ濫ニ之ヲ爲スカ如キハ事ノ甚ク非難ス
 可キ者トス且ツ信任欠乏若シハ答責ノ議ヲ起ス者ハ皆ナ
 豫メ之ニ因テ生ス可キ事態ニ當リ政府ヲシテ議院ニ少數
 ナラシムルノ責任ヲ負擔スルノ用意ナガラサル可ラス此
 用意ナキ者ハ信任欠乏若クハ答責ノ議ヲ起スヲ得ス信
 任欠乏若シハ答責ノ投票ニ因テ生ス可キ事態如何曰ク議
 院ヲ解散スルニ非スンハ至尊ハ奏功セル攻撃ノ主唱者ニ
 命スルニ新内閣ノ組成ヲ以テスルヲ是レナリ
 施政府ノ格段ナル行爲若シハ政策ニ對スル答責ノ投票モ

亦信任欠乏ノ投票ノ如ク其關係極テ大ナル者ナリ余輩既ニ記述セルカ如ク上院斯ル投票ヲ通過スル時ハ未ダ必スシモ内閣ヲ退カシムルニ足ラスト雖モ其影響極テ重大ニシテ唯ク下院ノ同一ノ行爲若クハ政策ヲ可認スルノ投票アリ以テ能ク之ヲ防制スルヲ得可シ施政政府下院ノ爲メニ其施政上ノ行爲ヲ咎責セラル、時ハ通常辭職スルニ非スニハ議院ヲ解散ス但シ政府自ラ訟難セラレタル行爲ヲ不可トシ特ニ之ヲ擔當セル執政官辭職シテ該院ノ怒ヲ解キ其公平ノ意思ヲ満足セシムル時ハ此限ニ非ス

例ハ千七百八十二年聯立内閣ハ下院ノ爲メニ米國ニ結締セシ媾和條約ヲ咎責セラレタルカ爲メニ辭職セシ千八百五十五年アベルギー内閣ハ下院ノ爲メニボロー

亦信任欠乏ノ投票ノ如ク其關係極テ大ナル者ナリ余輩既ニ記述セルカ如ク上院斯ル投票ヲ通過スル時ハ未ダ必スシモ内閣ヲ退カシムルニ足ラスト雖モ其影響極テ重大ニシテ唯ク下院ノ同一ノ行爲若クハ政策ヲ可認スルノ投票アリ以テ能ク之ヲ防制スルヲ得可シ施政政府下院ノ爲メニ其施政上ノ行爲ヲ咎責セラル、時ハ通常辭職スルニ非スニハ議院ヲ解散ス但シ政府自ラ訟難セラレタル行爲ヲ不可トシ特ニ之ヲ擔當セル執政官辭職シテ該院ノ怒ヲ解キ其公平ノ意思ヲ満足セシムル時ハ此限ニ非ス

戰爭以前ニ於ケル陸軍ノ状態ヲ審査セシメカ爲メ委員ヲ撰定セルヲ見テ該戰爭施行法ヲ罪責スル者ト考定テ斷然辭表ヲ上レリ千八百五十七年バインブルグ内閣ハ下院ノ支那ニ對セル處置ヲ咎責セルヲ不當トシ國民ニ訴ヘテ新撰議院ノ贊成ヲ得タリト雖モ翌五十八年謀殺叛逆者ノ處分法ニ關シ佛政府ト失當ノ通信ヲ爲セ

迎再ヒ下院ノ咎責ヲ受ク

之ニ反シテ千八百三十五年カトリックル議院發會ノ勅詞ニ奉答不可キ奏議ヲ議スルニ方リ前任議院ノ解散ヲ不可トセル一文ヲ追加ス可シトノ修正説ヲ抗スル能ハス下院ノ爲メニ咎責セラルト雖モ依然其職ニ居レリ氏ハ其辭職セサル所以ヲ説明シテ曰ク何レノ

執政官モ内閣組成ノ初ヨリ強大ナル反對黨ノ爲メニ阻
障セラル、者ハ初回ノ敗北ニ方テ必ス辭職セサル可ラ
サルノ責アルコ非ス蓋シ憲法ハ至尊ニ與フルコ其執政
官ヲ指定スルノ全權ヲ以テス故ニ陛下ニ指名セラレテ
内閣コ入ル者ハ適宜ノ試験ヲ受ケ其職務上ノ政策ト行
爲トニ因テ能否善惡ヲ判斷セラル可キ權理ヲ有スト

議院ニ於ケル
執政官ノ敗北

議院ガ施政府ヲ信任セサルノ事ハ必スシテ咎責ノ投票若
クハ信任欠乏ノ議院ニ因テノミ發露ス可キ者ニ非ス格段
ナル場合ニ於テ執政官ノ意見ニ從フヲ拒ムカ如キモ亦
信任欠乏ヲ發露スルノ一法ナリ然レモ斯ル場合ニ於テ其
徹頭徹尾主張ス可キ處置政策ヲ定メ又議院何レノ程度ニ
テ其指示セル方途ニ違外スレハ之ヲ認テ信任欠乏ノ証跡

ト爲ス可キガヲ定ムルハ執政官ノ意見ニ在リ已カ意見ニ
從テ諸動議ヲ觀察シ其信任欠乏ノ証跡ト爲ス可キヤ否ヤ
ヲ判定スルハ執政官ノ權内ニ在リ故ニ執政官ハ單ニ政策
上ノ疑問ニ對スル動議ニシテ其目的固ト政府ヲ咎責スル
ニ在ラサル者ト雖モ議院若シ之ヲ可決セハ我々ハ之ヲ認
テ信任欠乏ノ投票ニ同シキ者ト思考ス可シト明言シテ動
議ニ當ルコアリ

信任ノ投票

通則ニ依レハ下院ノ執政官ニ對スル信任ハ單純ナル議決
ヲ以テ發露ス可キ者ニ非ス其行政府ニ與フル所ノ補助ト
内閣ヨリ下附セラレタル議案ニ對スルノ方法トニ因テ發
露ス可キ者ナリ政府ハ其全体ノ政策若クハ其或ル部分ニ
對シテ下院ヨリ信任ノ明言ヲ求ムルヲ得可キ場合ナキニ

非スト雖モ是レ所謂ル絶ヘテ無フシテ稀ユ有ル所ノ者ノ
ミ今マ其一例ヲ舉フニ政府ノ政策行爲若シ他所ニ於テ攻
撃セラレ下院ノ應援ヲ得ルニ非スハ其正當ナル權力勢
力ヲ減少シ若クハ其辭職ヲ來ス可キ勢アル時ハ下院直接
ニ信任ノ議ヲ決スルヲ得可シ

千八百六十七年五月三日下院ニ下ノ如キ勳議ヲ起シテ
之ヲ可決センヲ求メタル者アリ其言ニ曰ク女王陛下ノ
政府カ政治上ノ集會ノ爲メニハイド、パークヲ用ウルヲ
拒メルハ則チ王室ノ權理ヲ防衛セル者ニシテ當院ノ幫助
ヲ受クルニ足ル可キ行爲ナリトグラッドストーンハ法律施
行ニ關スル王室ト執政官トノ權力ヲ尊重幫助スルハ該院
ノ職任ナルヲ認許シタレモ行政政府ノ其職權ヲ以テ爲

議案ニ於ケル
執政官ノ敗北

ス所ノ諸般ノ事項ニ向テ責任ヲ負擔シ以テ執政官ノ判
斷ノ正當ナルヲ確定シ若クハ查問スルカ如キハ該院
ノ職任ニ非スト思考セリ故ニ氏ハ勳議者自ラ其説ヲ引
ンコトヲ懲憑シタルニ暫時ノ討議後勳議者ハ氏カ意見ニ
ニ從ヘリ

余輩ハ是ヨリ執政官ノ公務上ニ於テ立法ノ方途ヲ指導ス
ル能ハサルノ一事ハ如何ニ其下院ノ信任ヲ失ヘル徵候ト
認定セラルヘヤヲ觀察ス可シ
既ニ記述セルカ如ク近時憲法上ノ慣行ニ因レハ執政官ハ
國家ノ利害ニ關スル悉皆ノ議案ヲ創起ス可キ職任ヲ有ス
ルカ故ニ在野議員モ亦同様ノ議案ヲ提出ス可キ權理ナキニ
非ス立法兩院ニ執政官ノ提出セル議案ヲ修正シ拒絶ス可

キ潤大ノ餘地ヲ與ヘ其修正拒絕ヲ以テ強チ執政官ヲ信任セサルノ徵証ト爲サ、ルヲ常トシ又便宜トス

今日ノ執政官ハ斯ル位地ニ立ツコトヲ証センカ爲メ余輩ハ既ニ執政官ノ提出セル重要ナル議案ニシテ議院ノ爲メニ拒絕セラレ若クハ甚ダシク修正セラレテ執政官自ラ之ヲ放棄スルニ至レル者アルコトヲ示セリ又在野議員ニ憲法ノ性質ヲ帯ヒタル議案ヲ提出シ執政官ノ之ニ反對セルニモ拘ハラス一院ヲ通過シタル者アルコトヲ示セリ然レモ固ク執政官ノ爲メニ反對セラレタル議案ノ上下兩院ヲ通過セル者ナシ議院若シ執政官ノ明言セシ非難ヲ顧ミスシテ格段ナル議案ヲ固守スルキハ執政官ハ其攻撃ヲ止メテ議院ノ意見ニ從ヒ之ヲノ國家ノ政策上ニ有スル巴カ意見ト

討論
議院

協合セシムルニ必要ナル丈ケノ修正ヲ加ヘ議院ヲ助テ之ヲ可決セシム然ラスノハ斷然辭職ス是レ不易ノ慣行ナリ

議院政治法起テヨリ歴代ノ執政官ハ此ノ如クシテ其職務ニ關スル立法事件ニ於テ憲法上議院ノ處置ヲ管理指導スルコトヲ得タリ執政官ノ通常議院ニ有スル多數ノ幫助者ハ之ヲシテ議院ノ獨立ヲ毀傷セスシテ此管理權ヲ使用スルコトヲ得セシム

上下兩院中執政官ノ同意スルコト能ハサル議案ヲ提出シ若クハ修正説ヲ起ス者有テ之ヲ可決スルニ方リ執政官若シ望テ他院ノ之ヲ拒絕センコトニ屬シテ該院ヲシテ之ヲ通過セシムルヲ欲セスノハ其位地極テ困難ナラサルヲ得ス斯ル場合ニ際シテハ執政官ハ該院ニ請求スルニ該院若シ執

政官ノ進退ヲ決ス可キ事項ニ於テ之ヲ敗北セシムルカ爲
 メ生ス可キ事態ニ應スルノ用意アルニ非スノハ其決議ヲ
 再考セシムルヲ以テセサル可ラス然ラスノハ直チニ議院ヲ
 解散セテ國民ニ訴ヘサル可ラス然ラスノハ辭職セサル可
 ラス
 執政官若シ一般ニ議院ノ信任ヲ有スレハ各個分立セル事
 件ニ附キ數回ニ於テ敗北スルヲ數回ニ及フモ尙ホ辭職ス
 ルヲ欲セス然レモ執政官ハ格段ナル事項ヲ通過スルヲ
 以テ其進退ニ關ス可キ一大事ト考フルヲ明言セルニ議
 院之レヲ拒絕セハ取リモ直サス信任欠乏ノ議ヲ決セルニ
 均シ執政官ハ固ヨリ辭職セサル可ラス何トナレハ國家必
 要ノ事務ト考定スル所ノ者ヲ通過スルニ充分ナル下院ノ

財務上ノ疑問
 ニ於ケル敗北

信任ヲ有セサル執政官ニシテ依然在職スルカ如キハ憲法
 ノ精神ト違背スレハナリ
 歳入及ヒ課税ノ疑問ヲ決定スルハ特ニ下院ノ職權ナルカ
 故スル疑問ニ於テハ内閣ノ進退ヲ影響スルヲナク自由ニ
 其意見ヲ決定スルヲ得可シト雖モ經費豫算ニ至テハ則チ
 然ルヲ得ズ執政官其責ニ任シテ政務ヲ執行シ内外ニ於
 テ國家ノ信用ヲ保維センカ爲メ若干ノ經費ナカラサル可
 ラサルヲ明言スル時ハ何人モ妄ニ之カ増減ヲ主張スル
 ナ得ス之ヲ主張スル者ハ豫メ内閣ヲ顛覆セシムルノ責ニ
 當ルノ用意ナカラサル可ラス何レノ政府ト雖モ反對黨ノ
 痛シ其經費豫算ニ抵抗スルヲ許ス者ハ其位地ヲ保ツニ足
 ラサル者ナリ之ニ關スル重要ノ變更ハ唯タ政府變更ノ疑

辭職ト解散

問ヲ提起シテ妨ケナキ時ニ於テノミ爲ス可キ者ト
ス
重大ノ事件ニ附テ下院ニ敗北スル時ハ執政官ノ之ニ處ス
可キ道ニアリ直チニ辭表ヲ呈スルト議院ヲ解散シテ撰舉
人ニ訴フルト是レナリ前者ハ下院ノ多數執政官ヲ罪責ス
ル時ニ方テ用ウ可キ者ニ非ス次ニ説明ス可キ情狀ノ下ニ
於テノミ用ウ可キ者ナリ

解散ノ恐嚇

執政官ノ下院ニ對スル關係ニ影響ス可キ疑問起テ下院未
之ヲ決定セサルニ際シ議員ノ心意ヲ動サシムルガ爲メ若シ
内閣ノ意見ニ從ハスンハ止ムヲ得ス之ヲ解散ス可シト云
フカ如キ言辭ヲ演フルハ事ノ甚タ不正ニシテ且ツ憲法ニ
違背スル者トス蓋シ上下兩院ハ上王室ヲ畏レヌ平氣虛心

既ニ之ヲ決定
シタル上ハ成
ル可ク速ニ解
散スルヲ要ス

ニシテ万般ノ疑問ヲ判定スルヲ得可キ位地ニ立サル可ラ
サル者ナレハナリ
然レト既ニ解散ト決定シタル上ハ成ル可ク速ニ之ヲ解散
スルヲ要ス換言スレハ議院ノ前ニ在ル所ノ必要ナル事
務ヲ處理スルヤ否ヤ直チニ之ヲ解散スルヲ要ス此際反
對黨モ亦執政官ヲ助テ之ヲ處理セサル可ラス執政官ヲ妨
碍ス可キ處置ヲ施ス可キ得ス
必要ナル事務トハ何ソ曰ク國家ノ爲メ一日モ猶豫ス可カ
ラサル者ナリ曰ク政府ト議院ト同意シテ處理スルヲ得可
キ者ナリ政府ヲシテ既ニ解散ト決シタル議院ニ下付ス可
キ事務ヲ撰定セシムルカ如キ又之ヲシテ政黨上ノ考察ニ
リシテ下付ス可キ者ト下付ス可カラサル者トヲ定メシム

ルカ如キハ悉皆ノ慣行ト憲法ノ精神トニ背戾ス内閣危急
ニ陥テ將ニ議院ヲ解散セントスル時ハ經費ノ支給ヲ目下
必要ノ事項ニ限り以テ新撰議院ヲ待ツテ常例トス然レモ
千八百六十八年ニ於テハ公共ノ便益ノ爲メ彼我ノ同意ヲ
得テ此健全ナル憲法上ノ制規ヲ犯セリ

何レノ時ニ於
テ解散ヲ奏請
スルヲ得可キ
乎

茲ニ一言セント欲スル所ノ者タリ
第一至尊其執政官ヲ免黜シ給ヘル時ハ之ニ關シテ國民ノ
意見ヲ問ハシカ爲メ議院ヲ解散スルヲ得千七百八十四年
千八百七年千八百三十四年ニ於ケル諸例ノ如シ
第二、上下兩院軋轢シテ到底協力一致ス可キ見込ナキ時ハ

至
王
平

之ヲ解散スルヲ得然レモ議院政治ノ充分確立セルヨリ以
來ハ幸ニシテ此ノ如キ軋轢ナシ
第三、行政府ノ或ル重要ナル行爲若クハ執政官ト下院トノ
爭ト爲レル政策ノ或ル疑問ニ關シテ撰舉人ノ情感ヲ檢知
セシカ爲メ之ヲ解散スルヲ得

第四、下院ハ正シク國民ノ意見希望ヲ代表セサルヲ信ス
可キ理由アル時ハ何時ニテモ之ヲ解散スルヲ得此旨趣
ニ基キ千七百八十四年以來ハ憲法上ノ制規トシテ下ノ二
項充分ニ確定セラル曰ク下院若シ信任ヲ執政官ニ置ク
ヲ拒ム時ハ之ヲ解散シテ下院ノ爲ス所定ニ國民ノ意見ヲ
發露セル者ナルヤ否ヤヲ檢知スルヲ得可シ曰ク下院ハ新
撰議員ノ會集スル迄公務執行ノ爲メニ必要ナル經費支給

解散ノ非難ス
可キ者

ヲ拒ンテ議院解散ノ王權ニ抗抵スルコトヲ得ス之ヲ爲セハ
 必ス私黨抗爭ノ譏ヲ招ク
 解散ノ王權ハ極テ其使用ヲ謹ム可キ者ナリ之ヲ用ウルコ
 頻繁若クハ輕卒ナレハ其保護ノ爲メ王室ニ與ヘラレタル
 大器ノ鋒刃ヲ鈍ナラシム大器ノ鋒刃一ヒ銳利ヲ失スレハ
 國家必ス其弊害ヲ被ル
 重大ナル政治上ノ疑問正ニ政黨ノ爭點ト爲レルコ非スシ
 テ唯タ權段ナル執政官ノ地位ヲ保維センカ爲メコ議院ヲ
 解散スルハ王權使用ノ正當ナル者ニ非ス千八百三十四年
 ノ解散ハ此理由ニ因テ攻撃セラレタリ此解散ノ目的ハ全
 ク新任執政官ノ勢力ヲ下院ニ増加スルニ在テ毫モ政策上
 ノ大疑問ニ關係ナカリキ故ニサ、ロベルト、ピール之ヲ辨

護スルノ議論ハ頗ル巧妙ナリシト雖モ其内閣ヲ救フ能ハ
 ス下院ハ解散其者ヲ不可トシ陛下モ止ムヲ得ス嚮ニ免職
 セル執政官ヲ召還ス今日ニ至テハ世人皆ナ此解散ノ不當
 ニシテ且ツ非難ス可キ先例ナルコトヲ認承ス
 何レノ執政官モ新撰下院ニ於テ多數ノ保助者ヲ得重大ナ
 ル政治上ノ主義ニ於テ誠心實意以テ己ト協和ス可キ下院
 ヲ得ルノ見込確立スルコ非スンハ議院ノ解散ヲ奏請ス可
 ラス再言スレハ之ニ因テ明ニ多數ノ賛成者ヲ有スル議院
 ナ得可キ道義上ノ徵証アルニ非ンハ解散ヲ奏請ス可ラス
 憲法ノ定義ヲ案スルニ國家重大ノ事件ヲ議スルニ先テ議
 院解散ヲ要スルノ事ナシ憲法上ニ大變ヲ生ス可キ程ノ大
 事件ト雖モ新ニ議員ヲ召集セス現任下院ヲ之レヲ議セ

シメサル可ラス何トナレハ諸名士之ヲ主張シ議院ノ習慣
之ヲ實行セル代表法ノ眞義ニ因ルニ現任下院ハ何レノ事
項ニテモ國民ノ幸福ニ必要ナル者ハ皆ナ之ヲ判定スルヲ
得可キ者ナレハナリ

然レヒ千八百六十七年議院改革案ヲ通過シテ大ニ代表
法ノ區域ヲ擴張セルヨリ頗ル右ノ慣行ニ不可トシ新
ニシテ重要ナル大義ヲ蓄有セル立法事務ハ現任議院ノ
負擔ス可キ所ニ非ストテ之ニ反對セル者少ナカラス其
言ニ曰ク斯ル場合ニ於テ舊且ツ減且ツ既ニ根據ヲ失ヘ
ル組成体ノ撰擧セル議院ニ與フルニ法ヲ制シ稅ヲ課シ
國家ノ政務ヲ左右ス可キ權力ヲ以テスルハ眞誠ナル憲
法上ノ大義ト全ク背馳ス可シト

解散ニ關スル
至尊ノ職任

議院解散ノ王權モ若シ之カ使用ヲ牽制スル者ナクンハ甚
クシキ誤用ヲ來タスコアル可シト雖モ幸ニ之ヲ牽制ス
スル者アリ能ク其誤用ヲ防制ス之ヲ牽制スル者トハ何ソ
曰ク執政官ハ解散ヲ實施スルノ前之ニ關スル悉皆ノ情狀
ヲ奏上シテ至尊ノ准許ヲ請ハサル可ラサルコト是レナリ斯
ル場合ニ於テ陛下ハ執政官ノ機具ト爲テ其意見是レ聽從
スルカ如キコアル可ラス執政官ノ上レル意見ヲ審考シテ
其可否ヲ判定スルハ實タ陛下ノ權理ナルノミナラス實ニ
其職任ナリ陛下其奏請ヲ拒ンテ議院ヲ解散セス而シテ執
政官ハ輿論ノ爲メニ保助セラル、カ如キコアラハ其責固
ヨリ輕カラスト雖ヒ下院ノ斷然之ヲ咎責セルニ方テ執政
官解散ヲ奏請スルカ如キコアラハ陛下固ヨリ此責任ヲ侵

サ、ル可ラス何トナレハ國民ニ訴ヘテ下院ノ議定ヲ反復
 スルヲ得可キ見込ナキニ執政官ノ解散ヲ奏請スルヲナキ
 ヲ期ス可ラスシテ其公利ヲ害スルヲ少小ナラサレハナリ
 スル場合ニ於テハ至尊ハ解散ヲ准許セサルヲ要ス
 新ニ就職セルデスレリノ内閣ハ千八百六十八年ノ會
 期ニ際シテ愛蘭ノ或ル科金ト賞與トヲ併合資金ノ収支
 ニ歸セシム可シト云ヘル議案ニ於テ小敗北ヲ取り愛蘭
 國建寺院ノ廢止ニ關シテグラッドストーンノ提出セル重
 大ナル疑問ニ於テ四月三日ト三十日トニ大敗北ヲ取レ
 リ是ニ於テ乎デスレリハ政府ト下院トノ關係之カ爲
 メニ一變シタレハ執政官ハ其位地ヲ考定ス可キ猶豫ヲ
 要ストテ木曜日ヨリ月曜日ニ至ルノ間下院ヲ休會セシ

千八百六十八年ノ議院解散

ム月曜日則チ五月四日ニ至リ内閣ハ上下兩院ニ報シテ
 曰ク執政官ハ下院ヲ解散シテ執政官ノ措置ト愛蘭寺院
 ノ疑問トニ附キ國民ノ意見ヲ檢知セシメテ陛下ニ奏請
 セリ然レハ陛下若シ執政官ノ直チニ辭職スルヲ以テ此
 際ニ處ス可キ良法ト認定シ給ハ、直チニ辭職ス可シト
 陛下ハ執政官ノ辭職ヲ認許セス公務ノ狀態之ヲ許ス丈
 ケ速ニ議院ヲ解散ス可キ旨ヲ告ケサセ給ヒケレハデス
 レリ陛下ニ奏言シテ曰ク現任議員ハ人民ノ代議士ト
 シテ寺院廢止ノ件ヲ議スルヲ得可キヲ疑テ容レヌト雖
 此議院ノ智慮ハ昨年ヲ以テ新ニ撰舉人ヲ造出シタルカ
 故執政官ハ皆ナ成ル可ク之ニ向テ訴ヘンヲ希望ス且
 ツ執政官若シ議院ノ協力扶助ヲ得ハ秋期ニ至テ必ス之

ヲ解散スルヲ得可シト

上院ニ於テグレイ侯ハ下院カ國民ノ情感ヲ誤表セリト
信ス可キ確乎タル理由アルニ非スンハ執政官ハ下院ニ
敗北スルニ方テ之カ解散ヲ陛下ニ奏請スルノ權理ナキ
旨ヲ論セルコト大法官クアルン之ニ答テ曰ク現任議院ハ
愛蘭寺院事件ニ附テ近時下院多數ノ發露セル者ト其意
見ヲ異ニセルコト明カナル大宰相在職ノ日ニ方テ撰舉セ
ラレタル者ナルカ故此疑問ニ對スル該院ノ投票ハ恰モ
執政官ニ解散ヲ奏請スルヲ得可キ機會ヲ與ヘタル者ナ
リト

下院ニ於テハデスレーリ論シテ曰ク就職ニ方テ其政敵
ノ勢力ノ下ニ撰舉セラレタル議院ノ解散ヲ奏請スルハ

實際ニ於テ執政官憲法上ノ權理ト認承セラレタル者ナ
リ千八百六十六年デルビー侯ノ就職ニ方テヤ議院改撰
後未タ多ク時日ヲ經過セサルノミナラス現任議院ト共
ニ政務ヲ執行スルヲ得可キ確乎タル見込アリシカ故自
ラ解散奏請ノ權理ヲ措テ之ヲ用ヒサリシノミト千八百
六十七年ノ末デルビー侯ハ終ニ改革案ヲ通過スルコトヲ
得タルカ故侯ハ此機ニ乘シテ議院ヲ解散シ國民ニ向テ
改革案施行ニ關スル執政官ノ行爲ノ可否ヲ問フ可キ權
理ヲ有シタリ然レモ改革案ト連續セル事項ニ下院ノ
議定ヲ經可キ者アリシカ爲メ侯ハ之ニ阻礙セラレテ解
散ヲ奏請セス翌千八百六十八年ニ至テ辭職シデスレー
リ之ニ代ルト雖モ毫モ内閣ノ政策ヲ變更セス情狀此ノ

如クナルカ故ギスレリ又論シテ曰ク余ハデルビー侯ニ代テ議院ヲ解散ス可キ權理ヲ有ス抑モ新任内閣ノ一般ニ前任内閣ノ施措ヲ可認シテ其政策ヲ變更セサルハ議院ヲ解散シテ國民ニ訴フ可キ自由ヲ有シ且ツ之ヲ解散スルモ結果ノ患フ可キ者ナカル可キヲ信シタルカ爲メナリ余ハ此等ノ理由ニ因リ又愛蘭寺院事件ニ關スル下院ノ決議ハ國民ノ意見ト一致セサルヲ確信スルニ因リ國民ニ訴ヘテ該國寺院廢立ノ疑問ヲ決定セシメテ奏請シタリト

グラッドストーンハ之ニ答テ唯々議院ガ執政官就任前ニ上任セルノ故ノミヲ以テ國民ニ解散ノ刑罰ヲ被ラシムルヲ不可トシ執政官ノ斯ル權理ヲ有セサルヲ辨セリ

氏又論シテ曰ク下院ノ反對投票ノ爲メニ顛覆ス可キ恐アル所ノ政府ニシテ國民ニ訴ヘシト欲セハ二個ノ根據ナカル可ラス一ニ曰ク政策上適宜ノ原因ニ曰ク下院ノ投票ヲ反復スルヲ得可キ正當ノ見込是レナリ徒ラ執政官ノ續テ其官職ニ居ル可キヤ否ヤノ疑問ヲ決定セシカ爲メ解散權ヲ使用スルカ如キハ不當ノ事タリ國民果シテ下院ノ投票ヲ可認ス可キヤ否ヤノ疑アルキハ之ヲ解散スルモ妨ナシト雖モ愛蘭寺院事件ニ於ケル大多數(六十及ヒ六十五)ノ投票ハ以テ明ニ國民意向ノ在ル所ヲ知ルニ足レリト

グラッドストーンハ又解散ヲ秋期マテ遅延シ(先例ニ依レハ急速ナル可キ者トス)此間憲法上重要ナル疑問ヲ下院

ニ下附セント欲スル執政官ノ意見ヲ非難シ又新撰議院ノ開會マテハ愛蘭寺院ノ役員任命ヲ停止ス可キ旨ノ議案ヲ提出セント欲スルヲ明言セリ

此他著名ノ議員コシテ痛ク議院解散ノ遲緩ナルヲ攻撃シ執政官ノ八九ヶ月其職ニ居テ新撰議院ノ判定ヲ待ツヲ不可トセル者多シ

デスレリ之ニ答テ曰ク執政官ハ成ル可ク目下必要ナラサル立法事務ヲ避ケ唯ク蘇格蘭及ハ愛蘭ノ撰擧法改革案ト撰擧區畫案トノミヲ下附セント欲ス議院若シ此兩議案ヲ議定セハ十一月ニ至リ解散ヲ實施シテ新ニ増加セル撰擧人ニ訴フルヲ得可シト然レハ氏ハ愛蘭寺院ノ疑問ニ於ケル反對投票ヲ以テ全体ニ政府ヲ信任セザ

ルノ意趣アル者ト爲スノ説ヲ駁セリ曰ク其重大ナル疑問ニ關セル有意ノ投票ナルヲハ余固ヨリ之ヲ熟知ス唯タ之ヲ以テ信任欠乏ノ投票ト視做スニ至テハ誤解ノ甚タシキ者ナリ諸君寔ニ信任欠乏ノ議ヲ決セント欲セハ宜ク之ヲ提出シテ細カニ論議シ下院ヲシテ其意見ヲ與ヘシメ國民ヲシテ之ヲ判定セシム可シト反對黨若シ執政官ノ措置ヲ不可トセハ斯ル議案ヲ提出スルヲ其職任ナリ下院若シ之ヲ可決セハ執政官ハ必ス直チニ之ヲ解散セン當時執政官ノ直チニ解散ヲ實施セサリシハ其一種特別ニシテ先例ナキ情狀ニ纏ハレ下院トノ調和ヲ圖ル可ラサル位地ニ立テルガ爲メナリ之ヲ企圖シテ多少ノ功ヲ奏セハ啻タ公務ノ進歩ヲ拂ラセムルノミナラス

其國家ヲ便益スルコト實ニ少ナラサル可シ是レ執政官ノ議院解散ヲ遲延セル所以ナリ議院ハ信任欠乏ノ投票ヲ好待ス可キ意思ナキコト分明ナカリシカハ上下兩院中一人ノ斯ル方法ニ因テ執政官ヲ解職セシメント企タル者ナカリキ

此際下院ハ蘇格蘭及ヒ愛蘭ノ撰擧法改革案ト撰擧區畫案トヲ討議シ執政官モ止ムヲ得ス此等ノ法案ニ廣大重要ナル修正ヲ加フルコトヲ許セリ然レハ蘇格蘭撰擧法改革案ヲ議センガ爲メニ開ケル委員會ニ於テハ執政官確乎トシテ其意見ヲ主張シ之ニ反對シテ可決セラレタリ或ル修正ノ責ニ任スルコトヲ拒メリ後チ執政官兼下院ヲ調和スルコトヲ得テ終ニ該案ヲ議決ス

五月二十九日ヂスレーリハ再ヒ政府ハ成ル可ク速ニ解散ヲ實施セント欲スルカ故其提出スル所ノ議案ハ所謂ル必要ナル者則チ改革案ニ附屬セル者ト經費豫算トニ限ル可キ旨ヲ明言セリ是ニ於テ政府ハ自ラ諸種ノ議案ヲ停止スト雖ヒ賄賂及ヒ醜行案、電信案、外國家畜輸入案ニ至テハ其提出セサル可ラサル所以ヲ演ヘ且ツ下院ノ隱匿スル所ナク其意見ヲ發露シテ政府ノ企圖ヲ可否セシコトヲ請ヘリグランドストーンモ政府ノ企圖ニ同意シ右ノ諸議案ハ皆ナ兩院ヲ通過スト雖ヒ獨リ外國家畜案ニ至テハ頗ル議員ノ攻撃ヲ被リ政府自ラ之ヲ引ケリ斯ル場合ニ在テハ新撰議院開會マテノ經費豫算ヲ立テ、下院ノ供度議定ヲ求ムルコト常例ナルニ此際政府ハ全年度

ノ供度議定ヲ求メタルカ故初ノ程ハ多少ノ非難ヲ受ケ
 タリト雖ヒ國家ノ便益上此ノ如クセサル可ラサルコトヲ
 証明スルニ及ンテ反對黨モ之ニ同意シ爾後別段ノ抗爭
 ナクシテ議院ヲ閉場ス
 此全會期中執政官ノ下院ニ對スル關係ヲ点檢スレハ甚
 タ不満足ニシテ非難ス可キ者多キコト固ヨリ辦ヲ待タス
 然レヒ執政官ヲ妨ケテ下院ノ反對投票ヲ爲スヤ直チニ
 之ヲ解散スル能ハサラシメ以テ憲法上ノ慣行ニ違背セ
 シメタルハ其原因一ニシテ足ラス諸種ノ情狀湊合シテ
 止ムヲ得ス是ニ至レルナリ故ニ當時ノ情狀ヲ顧ミスシ
 テ妄ニ或ル政黨若クハ或ル人物ヲ罪スルハ事ノ最モ不
 當ナル者トス執政官ト下院トハ互ニ協議シテ新設撰舉

解散ニ關スル
 議院ノ干渉

體ノ整頓スル迄解散ヲ延期センコトヲ決セリ執政官カ
 議院ノ容宥ニ因テ其位地ヲ保チ而モ充分下院ノ措置ヲ
 管理スル能ハスシテ不適當且ツ憲法違背ノ觀相ヲ現呈
 セルハ畢竟之カ爲メナリ斯ル事態ハ議院政治ノ第一義
 ニ背戾スルコト明ケシト雖ヒ蓋シ亦止ムヲ得サルニ出ダ
 ル者ノミ

議院ノ解散セラレサランコトヲ請ハンカ爲メ奏議ヲ上リ若
 クハ此王權ノ使用セラレタル情狀ニ附テ其意見ヲ吐露ス
 ルハ上下兩院ノ權理ナルコト疑チ容レス然レヒ近今ノ論者
 ハ皆テ議院カ其以テ便宜トスル場合ニ於テ國民ニ訴フル
 ヲ得可キ君主ノ權理ニ干渉スルヲ不可トシ而モ議院ノ斯
 ル控訴ヲ非難スル程度ノ廣狹ヲ問ハサルカ如ク今日ニ在

國民ニ訴フ可
キ旨

テハ世人皆十辭職スルト議院ヲ解散スルトハ全ク執政官ノ意見ト責任トニ在ルヲ認承ス執政官議院解散ヲ決シテ爲メニ論議ヲ招ケルヲナキニ非スト雖也千七百八十四年ノ記臆ス可キ紛議後ハ其時ト理由トノ如何ヲ問ハス議院ノ直接ニ解散ノ王權ニ干渉セント企タルヲナシ議院解散ノ後ヲ執政官ハ必スシモ已ト下院トノ争点ト爲レル事項ヲ以テ國民ニ訴フルノ旨趣ト爲スヲ要セス其政策主義ト一致スル所ノ者ハ何レノ事項ニテモ之ヲ撰舉會ニ唱道スルヲ得可シ

執政官ハ國民ノ意見ヲ問ハント欲スル所ノ或ル政策若シハ行爲ヲ以テ撰舉体ニ訴ヘ國民ハソノ政策行爲ヲ贊成セント欲スル議員ヲ撰舉シテ之ニ應ス是レ通常ノ事体ナリ

誓約

執政官ノ運命
ヲ斷決スル者
ハ新任議院ナ

ト雖也英國憲法ハ下院議員ヲ以テ部理代人ト爲スヲ許サス一ヒ此高貴ナル位地ニ舉ケラル、者ハ終始自由ナル討論會員タルノ資格ヲ枉ケス其已カ獨立ナル判斷ニ從テ行動スルノ自由ヲ保持セサル可ラス判然其撰舉人ト結ヘル約束ハ之ヲ守ラサル可ラスト雖也議員ハ常ニ注意シテ誓約ヲ以テ其身ヲ羈束スルヲナカランヲ要ス且ツ國家ノ大議會タル下院ハ一地方ノ利害若クハ僻見ニ因テ國事ヲ斷決セス全社會ノ最大便益ヲ保抄スルノ目的ヲ以テ之ヲ斷決センカ爲メ召喚セラル、者ナレハ之カ議員タル者ハ常ニ之ヲ記銘シテ須臾モ此最要義務ヲ忘ル可ラス

國民ノ意見ハ全數撰舉ニ際シテ之ヲ見ルヲ得可ク之ヲ見レハ國民ノ現任執政官ヲ非難スル明カナルヲアルモ執政

官ハ新任議院會集シテ確乎不動ノ斷決ヲ與フル迄ハ其職ニ留マルヲ得可シ何トナレハ下院ハ人民ノ正當ナル機關ニシテ人民ノ意見ハ議院ニ於ケル其代表人ノ口ヲ經ルニ非スンハ憲法上之ヲ明知スルヲ能ハサル者ナレハナリ新任議院ハ直チニ之ヲ召集スルヲ必要ニシテ且ツ先例ノ然ラシムル所トス

斯ル場合ニ於テハ最早ノ機會ニ乘シテ執政官ノ運命ヲ決斷ス可キ投票ヲ爲サシムルヲ常例トス彼ノ陛下ノ演說ニ奉答ス可キ奏議ヲ議スルカ如キハ則チ下院ノ爲メニ此機會ヲ供スル者ニシテ下院ハ奏議案ニ對シ修正說ヲ起シテ現任執政官ハ當院ノ信任ヲ有セスト明言スルヲ得可シ此修正說ニシテ可決セラルレハ內閣ハ直チニ辭職セサル

執政官ノ辭職ニ際シテ處ス可キ方法

可ラス

執政官辭職シ若クハ免黜セラレテ施政府解体セルヲ報告ヲ受クルハ上下兩院ハ新內閣ノ組成セラル、迄休會スルヲ慣行トス斯ル場合ニ於ケル休會ノ動議ハ通常新內閣ノ組成ヲ委托セラレタル人士ノ需メニ應シテ前任執政官之ヲ起ス豫定ノ休會期限ヲ經過スルモ新內閣未タ組成ノ功ヲ竣ラサル時ハ再ヒ同一ノ手續ヲ以テ休會ヲ發議ス蓋シ執政官ハ辭職後ト雖モ其後任就職スル迄ハ其印綬ヲ掌有シ其職位上ノ權力ヲ保持シ事務ヲ擔當スルカ故議院ノ常務ヲ施措セサル可ラス

辭職執政官ノ官吏ヲ任命ス可キ權理

此理由ニ因テサー、ロベルト、ピールハ下ノ如キ說ヲ主張セリ曰ク施政府員ハ既ニ辭表ヲ呈ルセノ後ト雖モ公務上之

サ要スルコトアレハ官吏ヲ任命スルヲ得可ク其後任者現ニ
 就職スル迄ハ絶ヘス此任命ヲ爲スコトヲ得可シ、欠員ヲ補充
 スルカ如キハ古今ノ常慣ナリ、前任官ノ約束シタル貴族爵
 ハ之ニ關スル証印セラレタル文書ナキモ後任執政官常ニ
 之ヲ與ヘタリ、前任執政官ノ貴族爵ヲ與フルヲ約シタルコ
 ノ証跡ヲ得ルヤ否ヤ余ハ直ニ陛下ニ奏聞シ他ノ執政官
 モ皆ナ之ヲ與フルコトヲ承諾シ前任官ノ約束ヲ尊重セリ、此
 類ノ事態ハ陸續接踵シテ起レリト
 氏カ言此ノ如シト雖ヒ欠員補充ノ政權ハ常ニ必スシモ辭
 職執政官ノ使用スル者ニ非ス千七百八十二年ヨハジョーシ
 三世其使用ヲ防制センカ爲メニ處中シ千八百五十二年ラッ
 セル内閣ノ辭職シタル時ハ數個ノ欠位ヲ補充セスシテ去

執政官ノ議院
 外ニ在ルコト方
 テ處ス可キ方
 法

レリ然レモ千八百六十六年第二次ノラッセル内閣辭職シタ
 ル時ハ其辭表ヲ呈セルノ後チ二日ヲ過キテ生シタル欠位
 ヲ補充セリ
 單純ナル議論上ニ於テ議院ノ討議權ヲ有スルト否トニ關
 セス慣行上ニ於テ上下兩院ノ重大ナル政治疑問ノ討議ヲ
 見合ハス可キ場合ニアリ一ニ曰ク内閣辭職シテ其後任未
 タ就職セサル時日間(前百年間ノ經驗ニ因ルニ此間隙ハ一
 日ヨリ三十七日ニ至ル)ニ曰ク下院カ新任執政官ノ爲メ
 ニ新撰令ヲ頒布シテヨリ其再撰マテニ經過ス可キ時日間
 是レナリ此等ノ時日中ハ絶ヘス休會シ万止ムヲ得サル事
 務ニシテ議論ヲ招ク可カラサル者ヲ措施センカ爲メニ
 會集スルヲ常例トス議院設ヘ休會セスシテ日々會集ス

ルモ此等ノ時日中ハ議論ヲ生ス可キ動議ヲ起サ、ルヲ常例トス

然レモ一事ノ此定則ニ外ル、一ヲ得可キ者アリ蓋シ至尊未タ其責任執政官ヲ有セサルコ方テ文書ノ下附ヲ奏請スルハ不可ナリ好シ之ヲ奏請スルモ至尊未タ其手ヲ經テ行動ス可キ責任執政官ヲ有セサル間ハ斯ル奏議ニ答フル能ハスト雖モ若シ執政官ノ就職ニ不當ノ遅延アル時ハ下院ハ進ンテ之ニ關與シ陛下ニ向テ斯ク有害不便ナル遅延ヲ制止セシテ奏請スルヲ得可シ此ノ如キ奏議ノ下院ニ提出セラレ又通過セルコ數々ニシテ常通奏議中ニ叙述スル所ノ憲法上ノ意見ト一致セル勅答ヲ得タリ
内閣更替ニ際シ前任執政官ハ親シク其後任者ト會シテ各

前任執政官ト
新任執政官ト
ノ面會

々行政諸部局ニ於ケル公務ノ状態ヲ説明スルコ常例ナリ前任執政官ハ又其尙ホ在職スルコト想像シテ之ニ贈レル私ノ告知中公務ニ關係スル者アレハ道義上之ヲ擔任官吏ニ通達セサル可ラス

凡ソ官吏タル者ハ其職ヲ退クニ方リ皆ナ在職中其手中ニ來レル所ノ文書ヲ遺存シ後任官ナシテ悉皆ノ公務措施ノ情狀沿革ヲ明知セシメサル可ラス決シテ之ヲ私有スルコト得ス唯タ私信ニ至テハ其全ク國事ニ關係スルト雖モ之ヲ遺存セスシテ可ナリ且ツ前任執政官ハ先ツ議院ニ提出シテ之ヲ公コシタル後ニ非スンハ其在職中ニ受領セル文書ヲ議院ニ於テ引用スルコト得ス
在野黨官職ニ就ク時ハ何人モ之ニ向テ其己カ約束ヲ捨テ

在野黨政府ニ
入ルニ方テ處
ス可キ方法

、敵黨ノ約束ヲ取用スルヲ期待セサル可シ余輩既ニ論
セルカ如ク新任執政官ハ通常人身上ニ係ル名譽賞賜ノ配
附ニ附テハ其先任官ノ企圖ヲ認承シ實施スト雖ヒ公ノ政
策ノ疑問ニ關スル事項ニ於テハ決シテ斯ル義務ヲ負擔ス
ルニ非ス若シ前任官既ニ協議ヲ遂クト雖ヒ内閣更替ノ際
未タ全成スルニ至ラザリシ配置ヲ不可トセハ斷然之ヲ變
更スルヲ得可ク又其之ニ對シテ責任ヲ負擔スルヲ欲セ
サル所ノ賜與、任命、委託アラハ固ヨリ之カ實行ヲ拒ムヲ得
可シ

英國古來ノ慣行ヲ案スルニ新内閣ハ先任官ノ行爲ヲ檢察
センカ爲メ其議院ニ於テ有スル所ノ權力及ヒ勢力ヲ使
用シタルコトナシ執政官ノ措置ハソレコレヲ行ヘルトキ

ニ方テ議院ノ論評ヲ受ク可キモノナレハ此際ニ罪責セザ
レザリシ措置ハ之レヲ認テ議院ノ承諾ヲ經タル者ト做
ル可ラス前任執政官各個ノ行爲中、事ノ査問ス可キ者
ルヲ發見スレハ議院ハ何時ニテモ之ヲ檢察スルヲ得可キ
ヲ勿論ナリ然レモ政府ハ單ニ黨派上ノ目的ヲ以テ其先任
官既往ノ行爲ヲ咎責センカ爲メ決シテ其權力ヲ用ウ可キ
ニ非ス又政府ハ其先任官政權ヲ握レルニ方テ施行シタル
政策ノ當否、事務ノ正否ヲ査問センカ爲メ決シテ其權力ヲ
用ウ可キニ非ス但シ其行政上ノ欠失若クハ惡弊ヲ救正セ
ンカ爲メニスル者ハ此限ニ非ス

以上記スル所ハ其概畧ニ過キスト雖ヒ以テ粗ホ英國行政
制度ノ起源、發成及ヒ現狀ヲ知り又其一方ニ於テハ王室、他

既往ノ觀察

方ニ於テハ議院ニ對スル關係ヲ知ルニ足ル可シ故ニ余輩ハ之ニ一言ヲ加ヘテ摺筆セントス
 ノルマン侵入以來今日ニ至ル迄ニ我カ憲法ノ經過セル形跡ヲ觀察スレハ最上〇政權ノ三ヒ其所在ヲ變移シタルヲ知ルヲ得可シ王權政治ノ下ニハ王室之ヲ有シ革命ヨリ千八百三十二年ノ改革案實施迄ハ上等社會之ヲ有シ爾來今日ニ至ルノ間ハ上中二社會之ヲ分有セリ千八百六十七年及ヒ全六十八年ニ於テ更ニ撰權ヲ擴伸シタルヨリ吾人ハ政治世界ノ新時期ニ入レリ此新時期ニ於テハ民主ノ分子必ス勝ヲ制セン此新時期ニ在テ吾人ハ我カ制度ノ寺院ト邦國トニ於テ嚴密ナル試驗ヲ受フヲ期待スルヲ得シ此時ニ方テ政權ヲ委托セラル、人士ニ指示スルニ我政治

新時期ノ創始

法活動ノ實況ヲ以テスルハ事ノ至當ナル者ナルニ似タリ蓋シ我カ政治法ハ君主制、貴族制ノ長所ニ加フルニ庶民代議制ノ長所ヲ以テシ此三者ヲ一致協和セシメテ強鞏ナル政府ヲ保維シ國家ノ幸福ヲ増進シ人民ノ自由ヲ保護スル者ナリ
 英國國民若シ擴伸セラレタル撰權ノ下ニ在テ永ク此等ノ福惠ヲ享ケント欲セハ固ク憲法ノ不文律ヲ組成シ人生數十代ノ智慮經驗ヲ包藏スル所ノ大義ヲ遵守セサル可ラス此大義ヤ實ニ我カ政治法ノ根基ニシテ彼ノ王室ノ威力ト財產ノ勢力トカ今日國家最上政權ノ中心タル下院ノ審議ヲ管理スルヲ得ルハ畢竟此大義ヲ遵守スルニ因レリ彼ノ行政部カ其中ニ在テ強大ノ權力ヲ有スル所ノ下院ハ往古

ニ行ハレタル英國君主政体ノ據テ以テ其氣息ヲ保存スル
 隱匿所ナリ執政官ノ該院適宜ノ多數ノ爲メニ認承セラレ
 タル一定ノ政策ニ基テ政務ヲ幹旋シ立法ノ方途ヲ指導ス
 ルヲ得ルハ其下院ニ出席スルニ因レリ此善良ナル結果
 ヲ得ント欲セハ下院其者モ亦自由ナラサル可ラス苟モ然
 ラスシテ變轉極リナキ民意ニ從屬シ若シハ將來ノ施爲ニ
 關スル誓約ヲ納レテ其自由ヲ羈束スルカ如キヲアラハ何
 人ノ之ヲ幹旋スルヲ問ハス決シテ巧ミニ政府ヲ幫助スル
 能ハサル可ク又正シク其擔任業務ヲ執行不能ハサル可
 シ下院ニシテ衆民ノ情慾ニ從屬シ戶外ノ小首領ヲ爲メニ
 左右セラレシ平必ス已レト共ニ動搖極リナク一定ノ政策
 ナ有セス唯タ蒙昧壓制ナル下民ノ情慾ニ從テ政務ヲ執行

ミルノ下院ニ
 對スル忠告

セント欲スル内閣ヲ現出セシト疑テ容レス
 余ハ今マ筆ヲ措ントスルコ方リ最モ著名ナル代議政体論
 者ノ一人タルミルノ言語ヲ引用シテ本篇ヲ結尾シテ欲ス
 氏カ議論ハ書齋ニ於テ成レリト雖ヒ議院ノ實際之ヲ檢査
 シ之ヲ確認シタル者ナリ氏カ下院ニ對スル最後ノ演説中
 ニ云ヘルアリ曰ク
 下院ニシテ其適當ナル者ト不適當ナル者トヲ知レハ益々
 其業務ハ政務ヲ執行スルニ在ラスシテ之ヲ執行スル者其
 人ヲ得タルヤ否ヤヲ点檢スルト之ヲ其職任ヲ尽サシム
 ルトニ在ルヲ了解ス可シ余ハ諸君ノ當院ノ職任ハ正當
 ナル人士ヲ内閣席ニ置キ既ニ之ヲ此ニ置クハ其事務ヲ
 勉勵セシムルニ在ルヲ知ルノ益々深カラントヲ希望ス

ルナリ、立法事務ニ於テスラ當院ノ重要ナル職任ハ最モ適任ナル人士果シテ之ヲ處理スルヤ否ヤヲ觀察スルニ在リ而シテ此職任ハ大ニ下院ノ性格ニ協フ者トス故ニ其直接ノ干涉ハ充分ニ反對賛成兩般ノ理由ヲ討議セシメ公明ナラシメンカ爲メニ之レヲ用ウルヲ要ス然レモ正當ノ事務ヲ執行スル者ニハ其意見ヲ告ケテ之ヲ幫助シ不正ノ事ヲ爲サントスル者アレハ之ヲ防制ノ弊害ヲ未萌ニ杜絶スルカ如キハ下院ノ職任ニ非スト云フ可ラス人民ノ之ヲ實驗スルヲ愈々久シケレハ此主義ノ重要ナル事ヲ知ルヲ益々深カル可シト當レル哉言ヤ、氏ハ恰當ナル時期ニ際シテ此健全ナル忠告ヲ爲セリ余ハ改革セラレタル議院ニ於テル人民ノ代議士ノ之ヲ等閑視セサランヲ希望スルナリ

英國議院
政治論
內閣執政篇
終

明治十五年六月廿七日版權免許
明治十六年三月三十日出版

定價壹圓四
拾五錢

東京府平民

譯者

尾崎行雄

東京神田區小川町廿四番地

出版兼
行所

自由出版會社

東京々橋區竹川町十九番地

自由出版會社刊行書目

○第一回之部

英國トッド著 尾崎行雄譯

○英國議院政治論

原名パイレメンタリー、ガヴァメント

全十冊

内

内閣更迭史

内閣會議篇

至尊 名一 王室篇

一冊百七十五ページ定價金五拾五錢
社員賣渡金三十錢二厘五毛
一冊三百十八ページ定價金壹圓二十錢
社員賣渡金六拾六錢
一冊百卅八ページ定價金四拾五錢
社員賣渡金廿四錢七厘五毛

英國ヘンサム著 藤田四郎譯

○政治真論

名一 主權辨妄 全

一冊百九十二ページ定價金七十錢
社員賣渡金二十八錢五厘

中村義三編纂

○内外政黨事情

全 一冊二百六ページ定價金七十錢
社員賣渡金二十八錢五厘

但政治真論内外政黨事情ノ兩書ハ當時切實候(但シ再版不仕候)

○第二回之部

○英國議院政治論

全十冊内

總論并ニ 合卷 一冊百廿七ページ定價金四十五錢
社員賣渡金廿五錢

佛國シャルボンノエー著 米田精譯

○歐米代議法鑑

全四卷内

第一卷 白耳義、噠馬、西班牙、佛 一冊百廿六ページ定價金四十五錢
社員賣渡金廿五錢

英國ロルド、ロツテスレー著 青木匡譯

○政法原論

全四冊内 一冊百廿ページ定價金四十五錢
社員賣渡金廿五錢

佛國ナケー著 奥宮健之譯

○共和原理

上下二卷 内上卷 一冊三百十四ページ定價金壹圓
社員賣渡金五十五錢

藤田四郎著

○歐米政黨沿革史

全四冊 内一卷 一冊二百四十四ページ定價八十五錢
社員賣渡四十六錢八厘

總論之部

英國 パンツル 原著 土居光華 漆間真學 合譯

○自由之理評論

全

一冊 貳百ペーシ 定價七十錢
社員賣渡金 三拾八錢五厘

○第三回之部

○英國議院政治論

全十冊內

王權政府 議會 議院 政府 樞密院 篇 合卷

一冊 百十ペーシ 定價金四十錢
社員賣渡金 二十二錢

○共和原理

上下二冊 內下卷

一冊 三百ペーシ 定價金壹圓
社員賣渡金 二十二錢

英國 マッケンジー 著 川又苗 譯

○歐洲十九世紀政事沿革史

全三卷 內上卷

一冊 三百廿ペーシ 定價金壹圓十錢
社員賣渡金 六拾錢〇五厘

英國 スナード 著 小林 營 智 譯

○自由平等論

上下二冊 內上卷

一冊 三百ペーシ 定價金一圓
社員賣渡金 五十五錢

佛國 キゾー 著 漆間真學 重譯

○歐洲代議政體起原史

全四冊內 第一卷

一冊 三百ペーシ 定價金一圓十錢
社員賣渡金 六拾錢〇五厘

○第四回之部

英國 ノー 著 島田三郎 乘竹孝太郎 同譯

○英國憲法史

全十二冊之 內第一卷

一冊 二百十ペーシ 定價金七拾五錢
社員賣渡金 三十七錢五厘

國王之威權 并特權

○英國議院政治論

全十冊之 內第五卷

一冊 四百ペーシ 定價金壹圓四十五錢
社員賣渡金 四拾二錢五厘

內憲執政篇

○歐米代議法鑑

全四冊 之內

第二卷

日耳曼帝國、普魯士、
巴威也拉、薩克斯瓦、
敦堡、澳地利、匈牙利、
拉馬尼之部

一冊 百四十ペーシ 定價金五拾錢
社員賣渡金 二十五錢

○政法原論

全四冊之內 第二卷

一冊 百廿ペーシ 定價金四十五錢
社員賣渡金 二十二錢五厘

佛國ヘルモレ一著 林庸介譯

○社會論

全三冊之内 第一卷

一冊二百ページ 定價金七拾錢
社員賣渡金三十五錢

英國フオーセツト著 澁谷楷爾譯

○政治談

全二卷之内 內上卷

一冊三百ページ 定價金一圓
社員賣渡金五拾錢

以上

書籍再版稟告

本社出版第一回ヨリ第三回ニ至ル書籍ノ儀既ニ豫約期限相切候處尙新入社諸君ノ便利ヲ謀リ前記書目之通り再版致從前ノ社員賣渡代價一割増ニテ發賣仕候間陸續御愛顧被降度奉希候以上

東京京橋區竹川町十九番地

自由出版會社

明治十六年三月

王權政府諸會議篇
議院政府樞密院篇

合卷

英人トツト原著
日本尾崎行雄譯

明治十五年十二月印行

新刊... 諸會議... 議院政府... 樞密院... 再... 本...

英國議院王權政府諸會議篇
政治論

アルフニース、トッド著

尾崎行雄譯

英國制度ノ起
源

今日英國制度ノ起原ヲ知ント欲セハ之ヲ吾人ノ祖先タル
アングロ、サクソン人種ノ間ニ行ハレタル政法ニ探求セサ
ル可ラス之ニ關スル吾人ノ智識ハ稀少ニシテ不充分ナリ
ト雖モ「アングロ、サクソン」政府ノ要旨ニ至リテハ世間記録
ノ存スル者アリ以テ吾人ノ今日享受スル制度ノ起点ハ是
ニ在テ存スルヲ証スルニ足レリ

能曼人襲入以前ノ英國制度ハ諸學士ノ頻ニ之ヲ探求セル
ニモ拘ハラズ終ニ臆測推度タルヲ免レサリシカサ、フラ
ンシス、バルグレーヴ、ケムブルノ二碩學之ヲ探求シ、イー、エ

一、フリーマン之ヲ増補修正スルニ及ンテ嘗テ瞬昧模糊ノ
 問ニ没セル者ニシテ一朝判然タルニ至レル者多シ右諸學
 士ノ著書ハ世ノ政史ヲ講スル者ヲシテ英國太古ノ法律制
 度ヲ知ラシムルニ充分ナル材料ヲ備具ス且ツ右ノ諸學士
 皆ナ云フ其細目ニ至テハ「アングロ、サクソン」時代ノ政法ト
 今日ノ政法トノ差異實ニ多シト雖ヒ我憲法中ナル君主、貴
 族、庶民ノ三要部ハ邈焉タル太古ニ於テ既ニ其種子アリト
 「チユートニク」人種ハ皆ナ太古ヨリ專恣壓抑ナラスシテ法
 律ノ大權ニ制御セラレ整然タル紀律ノ制限ヲ被レル君主
 ナ奉戴セルガ英國ナルサクソン人種ノ如キモ亦然リシナ
 リ

國王

「アングロ、サク
 ソン」政府

英國ニハ固ト一人ニシテ文武ノ大權ヲ掌握セル族長有テ

之ヲ統治セルガ其威儀尊嚴權力漸ク發達シテ終ニ國王ト
 爲レリ是レ獨リ英國ノミ然ルニ非ス「チユートニク」人種其
 他之ニ類似シタル人民ノ居住セル政治社會ハ皆ナ同一ノ
 進歩變更ヲ受ケタルナリ
 族長變シテ國王ト爲レハ主治者ノ權力從テ増加シ其統御
 スル所ノ土地擴張シテ王者ノ威儀ト重要トハ兩ツナガラ
 増進セリ

「チユートニク」制度ノ初テ英國ニ入ルコ方テハ舊世界諸小
 國ノ制度ト同シク自由ニシテ首長或ハ國王ノ名義ヲ有シ
 或ハ之ヲ有セス貴族會、庶民會ノ三者有テ國政ヲ執リ一國
 ノ主權ハ庶民會之ヲ掌握セリ然ルニ日月ヲ經過スルニ從
 ヒ諸首領親從ノ徒漸ク勢力ヲ得テ「チユートニク」社會舊時

貴族

ノ民主政体ヲ壓倒シ英國ノ諸王其勢力ト領地トヲ增加スルニ及ンテ諸首領親從ノ徒ヲ壓倒シ國王ノ親臣漸ク位爵ト權力トヲ掌握スルニ至リ終ニ一種ノ新貴族出テ、從來ノ世襲貴族ヲ壓倒シタリ

彼ノ封建制度一此制度ニテハ臣民其君主ニ兵役ヲ盡スノ約ヲ以テ土地ヲ籍用ス一進歩セルカ如キ國王終ニ土地ヲ管理スルニ至レルカ如キハ主治者ノ權力ヲ擴張シタル者ト云フ可シ其初ニ在テハ國王モ賢哲會ノ認承ヲ得スシテ土地ヲ與奪スル能ハサリシカ能曼人襲入後ハ公地ヲ改テ王土ト稱シ議院ノ認許ヲ得ス國王ノ私意ニ從テ之ヲ與奪シ得可キニ至レリ

賢哲會

王室ノ權力ハ初ヨリシテ所謂ル賢哲會ナル者ノ爲メニ制

賢哲會員

御セラレタリ此賢哲會ニチユートニツク入種固有ノ制度ニシテ此人種之ヲサクソン社會ニ誘入セル者トス此會議ハ固ト純然タル庶民會ナリシカ會員ノ或ル種族ヲ拒絕セス又其緊要ナル權力ヲ滅失セスシテ漸次貴族會ノ形質ヲ生スルニ至レリ英國七分シテ七王之ニ君臨スルニ方テハ諸王各々賢哲會ヲ有セシト雖モウエセックス之ヲ一統スルニ及ンテ諸國ノ議員ハ皆ナ英國共同ノ議會タルウエセックスノ議會ニ出席ス可キ權理ヲ許與セラレ

英國ノ諸方ニ存立セル賢哲會ノ組織ハ吾人之ヲ詳ニスル能ハスト雖モ在朝ノ諸大臣及ヒ邑長、教正、寺長、王者ノ親臣等常ニ之ニ出席セルコトハ明証ノ存スルアリ此他自由ナル人民中ノ或ル種族モ之ニ出席シテ庶民分子ヲ注入セルコト

疑ヲ容レスト雖モ其員數ト法規トニ至テハ吾人之ヲ知ルニ由ナシ

其組織如何ニ拘ハラズ賢哲會ナル者ハ頗ル英國人民ニ自由ト保護トヲ與ヘタル制度ナルヲ辨ヲ待タス

賢哲會ノ職權

ケムブルノ記スル所ニ依レハ賢哲會ノ職權凡ソ下ノ如シ
(第一)該會ハ万般ノ事務ニ就テ其意見ヲ述フルヲ得又國王ノ施行ス可キ萬般ノ公務ヲ討議ス可キ權理ヲ有ス(第二)該會ハ國法中ニ記入シ該會ト國王トノ權力ヲ以テ公布ス可キ新法制定ヲ討議ス(第三)該會ハ他國ト同盟シ平和條約ヲ締結シ又其條款ヲ定ムルノ權力ヲ有ス(第四)該會ハ其國王ヲ撰定スルノ權力ヲ有ス(第五)該會ハ國王若シ人民ノ公利ヲ圖テ政務ヲ執行セサル時ハ之ヲ廢スルノ權力ヲ有ス(第

六)該會ハ寺職ニ欠員アルコ方リ國王ト圖テ新ニ之ヲ命スルノ權力ヲ有ス(第七)該會ハ宗教ニ關スル事務ヲ管理シ斷食祝賀ノ期日ヲ定メ寺院稅ノ收支ヲ議決スルノ權力ヲ有ス(第八)國王ト賢哲會トハ公務施行ノ爲メニ租稅ヲ賦課スルノ權力ヲ有ス(第九)國王ト賢哲會トハ時機之ヲ要スルコ方テ陸海軍ノ兵士ヲ徵募スルノ權力ヲ有ス(第十)該會ハ土地ノ給與ヲ懲憑シ認許シ之ニ同意ス可キ權力ト國民公有ノ地ヲ王土ト爲シ王土ヲ公地ト爲スノ權力トヲ有ス(第十一)該會ハ王室ニ沒入ス可キ犯罪者ノ所有地ト遺言ナクシテ死セル者ノ財產トヲ決定ス可キ權力ヲ有ス(第十二)該會ハ民刑兩事ノ高等裁判所タル可キ權力ヲ有スケムブルハ當時ノ記録ヨリ撰拔セル夥多ノ例証ヲ舉テ賢哲會ハ以上

王位

ノ諸權力ヲ使用シタルヲ説明セリ
アングロ、サクソン時代ニ在テハ賢哲會國王ヲ撰立シ又之
ヲ廢スルノ權力ヲ有セシト云フト雖ヒ今日ノ所謂ル民撰
君主政体ノ精神若クハ形貌アリシニ非ス「チニートニック」人
種ノ居住セル王國ニハ皆ナ王族ナル者アリテ王位ニ登ル
ノ權理ヲ有シ國中ノ長老ハ此王族ニ就テ君主ヲ撰擇スルノ
權理ヲ有セリ通常ハ前王ノ長子位ニ登ルト雖ヒ若シ幼冲
ナルカ或ハ他ニ位ヲ繼カシメ難キ原由アル時ハ王族中ヨ
リ適任ノ人ヲ撰舉シテ王位ニ即カシム繼位者ニ定ムルニ
方リ國王ノ意見ハ常ニ勢力アリ敬重セラルト雖ヒ王位ニ
登ル者ハ必ス賢哲會ノ認許ヲ得其權力ヲ確定セサル可ラ
ズ此賢哲會ヲ組織スル所ノ會員ハ王族中其屬望スル者ヲ

國王ヲ廢スル
ノ權力

シテ王位ニ登ラシムルヲ得ト雖ヒ固ト衆庶ノ代議士ニ非
ズ其智慮ハ以テ衆民ヲ満足セシムルニ足ル可キ賢哲ナリ
又長老ナリ吾人ハアングロ、サクソン帝國ヲ以テ民撰君主
國ト云フ能ハスト雖ヒ法律ニ因テ支配セラレタル邦國ナ
リト云フヲ得可シ其憲法ハ擔任官衙ヲシテ王者ノ權理ヲ
認許セシメ王者ノ名ハ國民ノ認承ヲ得テ起リ王族ハ立法
府ノ許諾ヲ得テ位ニ即クサシ、フランス、バルグレイヴ曰
ク所謂ル人民國王ヲ撰舉ストハ蓋シ此意ニ外ナラスト
國王ヲ廢スルノ權力ハ之ヲ撰舉スルノ權力ト同シク賢哲
會之ヲ掌握スト雖ヒ亦多少ノ制限ヲ被リ人民實ニ君主ノ
暴虐庸劣ニ堪ヘサルカ如キ非常ノ場合アルニ非スンハ之
ヲ用ウルヲナシ則チ之ヲ用ウルヲ極テ稀ナリト雖ヒ其例

証ヲ尋ヌレハ決シテ之ナキヲ憂ヘス議院ノ決議ヲ以テ國
王ヲ廢セル例証ハ能曼襲入前後共ニ之アリ
是ニ由テ之ヲ觀レハ賢哲會ナル者ノ權力ハ遠ク今日ノ立
法府ニ超過ス今日下院カ憲法上ノ慣行ニ從テ使用スル所
ノ權力ハ大ナラサルニ非スト雖也之ヲ以テ彼ニ比スレハ
其間大差アルヲ知ル可シ政府ノ事ハ國王獨リ之ヲ爲サス
シテ賢哲會必ス之ニ參與シ賢哲會ハ啻ク立法事務ヲ執レ
ルノミナラス王者ノ特權ト施政上ノ事務トヲ分擔セリ是
レ今人ノ見テ以テ純然タル王者職權内ノ事ト爲ス所ノ者
タリ此ノ如キ政法ハ必ス王室ト議院トノ間ニ軋轢ヲ生ス
可キ者ニシテ能曼襲入後ハ王室ノ權力頗ル増加シ往時人
民ノ享愛セル自由ヲ侵害シ以テ數々此軋轢ヲ生セシト雖

王者ノ權力

此サクソノ時代ノ賢哲會ハ能ク王室ト協和シ後世ノ互ニ
軋轢スルニ似サリキ夫レ當時ノ賢哲會ハ國王ト分離シテ
獨立セル者ニ非ス特ニ密着シテ離ル可ラサル者ナリシカ
爲メナリ國王ト賢哲會トハ互ニ扶持シテ政務ヲ執行シ國
王モ賢哲會ナケレハ一事ヲ爲ス能ハス賢哲會ハ國王ニ反
對セル者ニ非スシテ之ニ隨伴シ之ヲ諫諍セル議會ナリキ
王室ト議會トノ關係此ノ如シ其万般ノ政務ニ關與スルヲ
ナ許サレタル蓋シ怪ムニ足サルナリ
當時國王ト議會トハ互ニ相ヒ倚賴セルノミ國王ハ議會ノ
決議ヲ施行ス可キ一機械タリシニ非ス
當時ノ英國王ハ全ク人民ノ首領ニシテ國中ノ貴族ハ皆十
之ニ向テ臣下ノ禮ヲ取り其命ヲ聽テ其力ヲ致セリ國王ハ

名譽ノ泉源、國財ノ使用者ニシテ賢哲會ノ會集ス可キ時ト
 所トヲ定メ之ニ付スルニ其意見ヲ諮問シ其同意ヲ得可
 キ万般ノ事務ヲ以テシ之ニ向テ其高貴ナル位地ト一身上
 ノ性質トニ因テ生ス可キ勢力ヲ使用シ以テ多少其決議ヲ
 左右セリ若シ柔弱庸劣ノ君主位ニ在ル時ハ其權力自ラ減
 少ス可ク賢哲會ハ之ヲ牽制シテ王權ノ應用ニ備ヘ其過失
 ヲ防禦セサル可ラス之ニ反シテ英明ノ君主位ニ在レハ其
 特權使用ハ法律ニ因テ嚴制セラルト雖ヒ一身上ノ勢力ハ
 制限ナシト云テ可ナリ

王室ノ權力

千六十六年十月十六日ハスチングノ戰ニ於テ能曼軍ノ勝
 ヲ制スルヤ賢哲會ハ止ムヲ得ス勝王ウヰリアムヲ推シテ
 英王ノ位ニ即カシム爾來立君政体ハ漸ク變化シタリト雖

此變化ヤ政務執行者ノ性質ニ因テ生セル者ノミ直ナニ
 法律ヲ改更シテ生シタル者ニ非スウヰリアム一世ハ戰勝
 ノ勢ニ乘レテサクソン諸王ノ位ヲ繼ク可キ權理アルコト
 主張シ其既ニ位ニ登ルヤ從來ノ法律ニ因テ支配ス可シト
 云フト雖ヒ王統一變シテ能曼王ノ功臣漸ク跋扈シ從來ノ
 貴族ノ官職ヲ繼キ其領地ヲ襲フニ至レリ是ニ於テ平王室
 ノ權力忽チ増加シテ國會ノ權力減少シ國民及ヒ其首長、國
 王及ヒ其會議員ノ思想ハ消散シテ國王ハ諸侯ニシテ專制
 君主ヲ兼ヌルカ如キ形狀ヲ呈セリ英國ニハ常ニ國會アリ
 シト雖ヒ千一百年代能曼襲入ヨリ千三百年代自由再生ニ
 至ルノ間ハ其前後ニ於テ存立セルカ如キ善良ナル國會ナ
 シ唯タ英人ハ常ニ其祖先サクソン人ノ享受セル自由ヲ忘

「サクソン」制度

レサルカ故後チ終ニ之ヲ回復シ嘗テ存立セル者ヨリ一層
 完具整備セル自由ヲ再得スルヲ得タルナリ
 詳細遺サス之ヲ探究セル諸碩學ノ著書ヨリ採萃セルサク
 ソン時代ノ英國制度ノ景狀ハ吾人ヲシテ讀ンテ厭クナ
 ク大ニ得ル所アラシム太古人民質朴唯タ王ニ勤ムルヲ
 知テ其他ヲ知サルノ日ニ在テハ斯ル制度モ能ク國家人民
 ニ適合シ之ニ因テ自由ヲ保チ生命財産ヲ護リ國家ノ幸福
 ヲ進ムルヲ得タリト雖ヒ今日ニ及ンテ尙ホ能ク此効益ヲ
 生シ王者ト其會議員トニ適宜ノ保護ヲ與フルコ足ル可キ
 乎吾人實ニ疑ナキ能ハス政体ノ良否ハ一大疑題ニシテ數
 百年ノ經驗ヲ積ムコ非スンハ之ヲ解釋シテ誤謬ナキヲ期
 ス可ラス至尊ト翼贊官トノ關係ハ如何ニシテ可ナル乎此

兩者ハ立法府ニ對シテ如何ナル位地ヲ保占セシム可キ者
 ナル乎議院ノ權限職任ハ如何ニ限畫決定シテ可ナル乎是
 レ皆ナ國家ノ幸福ヲ保拂センカ爲メ最モ緊要ナル大問題
 ニシテ吾人ハ向後數々此等ノ疑題ニ遭遇シ又之ヲ解釋ス
 可シ國家ノ事ハ暝々ノ裏ニ進歩シ終局ノ結果ヲ生センカ
 爲メ知ラス識ラス諸人ノ企圖ヲ抑止スルヲ多シ或ハ頻ニ
 王權ヲ主張シ或ハ盛ニ行政會議ノ權力擴張ヲ唱ヘタルカ
 如キハ其事異ナリト雖ヒ我現行制度ノ組成ヲ幫助セルニ
 至テハ則チ一ナリ幸ニシテ英國制度ハ進歩發成ノ大法ニ
 從ヘル者ニシテ革命ノ結果ニ非ス其起源ヲ尋ヌレハ遠ク
 サクソン時代ノ制度中ニ包藏セラレタル憲法上ノ大義ニ
 在リ

國王ノ翼賛者

立君政體ノ初テ英國ニ入レルヨリ國王ハ常ニ其信任セル人物ヲ舉テ其顧問官ト爲シ之ヲノ公務施行ヲ翼賛セシメタリ英國ノ法律ト憲法トハ古來ヨリ翼賛官ヲ設置シ王者ハ必ス其意見ヲ諮問シ其奏議ニ從テ公務ヲ執行シタリ初ヨリ樞密議會ナル者有テ常ニ王室ニ隨伴シ須臾モ之ト分離シタルコトナキハ事實ノ争フ可ラサル者アルナリ此議會ヤ万般ノ公務ニ付テ其意見ヲ上ル可キ職任ヲ有シ一會ニシテ討論執行ノ二權ヲ備ヘ且ツ英國ノ法律ト憲法トニ因テ認承セラレタリ之カ會員ハ國王ノ意見ニ從テ増減シ異時其數ヲ同ウセサリシト雖也往古ハ通常十二名内外ナリキ國王ノ信任セル人物十餘名ヲ舉テ其顧問者ト爲スノ制度ハ立君政體ト起源ヲ同ウシ太古ヨリシテ之アリト雖也其

千六十六年國王ノ會議

樞密院ノ名ヲ得タルハ後世ノ事トスアングロサクソン諸王ト能曼諸王トハ自ラ指定セル精撰會ノ意見ニ從テ其特權ヲ使用シタルコト明ケシ此議會ハ常ニ王者ニ隨伴シ且ツ何レノ國民會ニモ列席セリト雖也國民ノ大會トハ自ラ其類ヲ分テリ

能曼襲入ノ日ニ於テハ三個特種ノ議會有テ國務ヲ負擔セルカ如シ第一會ハ貴族ヨリ組成セラレ特別ノ場合ニ於テ特令ヲ以テ召集セラル可キ者ニシテ之ニ在朝ノ高官貴臣ヲ加フル者ヲマクナム、コンシリウムト云フ大議會ノ義ナリ第二會ヲコムミオン、コンシリウムト云フ今ノ所謂ル國會ナリ此二會ハ粗大體ノ性質ト國王ニ對スル關係トヲ同ウス其殊別ノ最モ重要ナル者ハ後者ヲ召集スルコト前者ヲ召集ス

ルカ如ク輕易ナラサリシト後者ハ前者ヨリ常ニ一層重大ナル事項ヲ討議シ特ニ金穀ノ出入ヲ司レルトニ在リ第三會ヲ「コンシリュム、プライヴアタム、アツシヂューム、ヲルザナリユーム」ト云ヒ又國王ノ顧問會ト云フ此會員中ニハ國王ノ撰舉シ國王ニ向テ誓詞ヲ奉レル貴族ト大臣トアリテ陛下ハ常ニ之ト國事ヲ商議セリ此議會一寧ロ法官ヲ以テ組織シ國王之ニ上席セル委員ナル可シ一ハ上等裁判所ノ職ヲ帶ヒ「キユリア、レダス」則チ王廳ノ名ヲ以テ一年三回會集スルヲ常トス彼ノ國王ノ通常會若クハ常置會ト云ヘル者ハ後世ノ樞密議會ニシテ其他ノ議會ト異ナル所ハ唯タ甲ハ絶ヘス會集セ乙ハ時々會集スルノ差アルノミ之ヲ除ケハ別ニ差異ナカリシカ如シ重立タル貴族ハ皆チ常置會ノ議員ニ

常置會

シテ國民ノ大會議アル時ハ之カ議員若クハ助手ト爲テ出席シ自ラ重要ノ位地ヲ占メタリ

常置會ハ在朝ノ大臣ヲ以テ組織ス大法官、大判事、稅務局長、

「ロイド、ステワード」ロイド、チアムプレーン二者共ニ官名ニシテ其解ハ内閣

會議篇百九十一葉ニ在リ 其他國王ノ撰舉ヲ被ムル者皆チ之ニ出席スルヲ得可シカントルハリ及ヒチ一クノ二大教正ノ如キ

ハ其公會タリ私會タルヲ問ハス國王ノ議會ニハ皆チ出席ス可キ權理アリト主張セル者ニシテ常置會ニモ出席シ此他宮内會計檢査官、財務總裁、判事、等ノ諸有司モ時有テ出席セリ此等ノ諸有司出席セル時ハ之ヲ名ケテ王廳ト云ヒ其權力實ニ廣大無邊ナリキ王廳ハ國王ヲ助テ其特權ヲ使用セシメ其行爲ヲ認許スルヲ以テ其職任ト爲シ此ノ如クシ

二十
テ王者ノ行爲ノ責任ヲ負擔シ此ノ如クシテ行政部ノ事ヲ
執レリ王廳ハ又司法部ノ事ニ任シ又立法部ノ事ヲ分擔セ
リ當時國王ハ行政司法ノ二權ヲ掌握シテ或ハ其權力ヲ直
接ニ使用シ使用ノ程度ハ遠ク今日讀者ノ想像スル所ニ過
キタリ或ハ其大臣ノ手ヲ經テ間接ニ之ヲ使用セリ吾人若
シ當時ニ在リテ國王ト貴族ト互ニ其意見ヲ交換セル状態
ヲ推度セント欲セハ先ツ今日ニ行ハル、憲法上ノ意想ヲ
捨テサル可ラス又千一百年代ニ行ハレタル思想ハ國中ノ
賢哲ニ翼賛セラル、ヲ以テ王者ノ職任ト爲サス却テ之ヲ
王者ノ特權ト爲セルヲ知サル可ラス今日ニ在テ議院若
クハ執政官ヨリ上ル所ノ者ハ名ヲ奏議ト云フト雖ヒ其實
ヲ尋ヌレハ命令ト云フ可キ者ニシテ王者ノ必納ヲ期スル

者ナリ之ニ反シテ當時ノ所謂ル議會若クハ大臣ノ奏議ナ
ル者ハ眞誠ノ奏議ニシテ之ヲ取捨スルハ全權ハ國王ノ手
ニ歸セシト雖ヒ尙ホ事ノ王權ノミヲ以テ成就ス可ラサル
者アリキ則チ法ヲ立テ稅ヲ課スルノ類ニシテ國王モ議院
ノ同意ヲ得ヌハ之ヲ爲ス能ハサリ且ツ國王ハ法
律ニ因テ統治セサル可ラスシテ國王若シ法律ヲ犯スコト
ルキハ其大臣必ス國會ニ向テ實行ノ責ニ任シタリ加之ナ
ラス國ニ難事アルニ方リ議會ノ意見ヲ求メ之ヲ聞クハ王
者ノ權理ニシテ又職任ナリ此事ヤ未ダ全ク王者ノ妄行ヲ
牽制スルニ足ラス王者ハ其特權ヲ以テ議會ノ意見ヲ拒絕
シ己カ意見ヲ決行スルヲ得可シト雖ヒ人民ハ常ニ此制度
ヲ尊重シ頗ル注意シテ之ヲ保存セリ讀者須ク記ス可シ英

千二百五十年

國古ヨリ專制君主ナク王者ハ常ニ法律ノ制規ヲ被レルコ
 ヲ千三百年代ノ記者ブラクトン云ハスヤ王ハ法律ニ因テ
 王タリ王若シ法轡ヲ脱セハ大議會之ニ加フルニ法轡ヲ以
 テセサル可ラスト蓋シ王ハ吾人ノ首長ナリト雖モ國家ノ
 主權ヲ掌握スル者ニ非ス國家ノ主權ハ國王獨リ之ヲ握ラ
 スシテ國王、貴族、庶民ノ三者之ヲ共有ス國王ハ能ク其人民
 ナ治ムルコトヲ得ンカ爲メ英國中ノ有力者ヲ召シテ其顧問
 者ト爲ス可シ則チ其最モ良圖アリト認ムル所ノ人ト其最
 モ之カ意見ヲ知ント欲スル所ノ人トヲ召シテ其顧問者ト
 爲ス可シ
 歲月ヲ經ルニ從テ所謂ル王廳ナル者ハ大ニ變更シテ復タ
 舊觀ヲ止メサルニ至レリ廳中ノ吏員ハ皆チ各々專任ノ職

務ヲ有シ國王ハ事務ノ性質ニ因テ之ヲ諸員ニ分課スルニ
 至レリ例ハ「マルシアル」コンターブルノ如キハ元來司馬ノ
 官吏ナリシカ他ノ二三ノ職員ト共ニ兵事ヲ掌リ「チアムプ
 レーン」ハ財務ニ任シ「チアンセル」ハ官爵賜與ノ事ニ任ス
 ルニ至レリヘンリー二世ノ代ニ創立セラレタル裁判廳ノ
 如キモ亦大休ヨリ分立シタル者ニシテ今日クサーニス、
 シンチ審判廳ノ基源ナリ

千百九十九年

法庭

判然他ノ官衙ト分離セル審判廳ヲ設置シタルハ「ジョン王在
 位」ノ時ニシテ既ニ特立ノ法庭ヲ設置シタルノ後ト雖モ國
 王ノ議會ハ依然裁判權ヲ使用セリ蓋シ王者ハ司法權ノ源
 泉ニシテ諸審判廳ノ欠失ヲ補救シ其裁判ヲ緩和スルハ古
 來王者ノ特權タリ王者モ通常ハ先例ニ從ヒ法官ノ手ヲ經

テ此特權ヲ使用シタレモ當時ニ在テハ世人尙ホ親テ訴訟
ヲ審斷シ若クハ其會議員ヲシテ審斷セシムルヲ以テ王者
ノ職權ト認定セルナリ

千二百七十二
年

エドワード一世ノ位ヲ踐ムニ及ンテ一層重要ナル變更ヲ
生セリ勝王ト其嗣王トノ日ニ在テハ審判上一定ノ法規ナ
ク王並ニ其大臣ヲ擅ニ訴訟ヲ審斷シジョン王トヘンリー三
世王トノ代ニ至リ新進ノ貴族漸ク權勢ヲ得テ幾ソト常置
會ヲ左右シ以テ多少王室ノ專横ヲ防禦セリト雖モ未ダ全
ク之ヲ制止スル能ハスエドワード一世位ヲ踐ムニ及ンテ
人民漸ク良政府ヲ希望スルノ念ヲ起シ紀律整然タル法律
執行ト國民議會ノ責任ナク紀律ナキ裁判トヲ比較シテ嘗
テサクソシ時代ニ享受セル自由制度ヲ熱望スルニ至レリ

常置會

當時常置會ノ權力ハ國王ノ權力ト共ニ其大キ極メ立法行
政ニ關スル大事要件ハ皆ナ必ス該會ノ認承ヲ經テ之ヲ執
行ス可キ者トシタルカ如シ常置會ハ國王ト人民トニ對シ
テ其認承シタル事務ノ責ニ任セルカ故世人皆ナ之ヲ以テ
政府中ノ特ニ重要ナル官局ト考定シ頗ル其構成ニ注目セ
リヘンリー三世エドワード二世ノ日ニ於テ之カ例証ノ特
ニ顯著ナル者アリ

大議會

世運ノ開進ニ從ヒ所謂ル大議會ナル者モ漸次變更シテ純
然タル立法府ト爲リ其權理特權ヲ確定スルニ至レリ往時ニ
在テハ大議會モ粗ホ常置會ト其性質ヲ同ウシ二者共ニ行
政事務ヲ擔任セリ記録ノ存スル所ニ因テ察スルニウヰリ
アム一世ト其嗣王トノ諸議會ハ專ラ行政事務ヲ負擔シ大

議會ヲ爲ス所ノ者ハ常置會曹ナ之ヲ爲スヲ得其然ラカ
 ル者ハ唯タ租稅賦課ノ一事アリシノミ勝王ウヰリアムノ
 英國王位ニ登ルヤ「コム・ユン、コンシリユム、レグナム」則チ國
 民大會ノ認許ヲ得テ租稅ヲ賦課スルコトナカル可キヲ
 明言シ公利ノ爲メニ公然變更スル者ハ他ハ皆チ舊法ニ準
 由シテ執行ス可キヲ約セリ王ハ必スシモ此約ヲ履行セサ
 リシト疑テ容レスト雖ヒ約束其者ハ多此大國民會ノ進歩
 發達ヲ助成シ其基礎ヲ鞏固ナラシメタリ且ツ國事ハ益々
 多端ニシテ貴族ノ勢力ハ愈々増加セルカ故能曼諸王ハ之
 ヲ好マサリシト雖ヒ終ニ貴族ノ權力ヲ擴張シ之ニ與フル
 特許狀ヲ以テスルノ止ムヲ得サルニ至レリ此ノ如クシ
 テ新進貴族ハ久シク壓抑セラレテ既ニ其氣力ヲ失墜セル

千百五十五年
 ヨリ千百八十
 年ニ至ル

庶民ノ權理ヲ回復シ以テ國家ノ氣風ヲ進歩セシメ以テ諸
 種族ノ權力ヲ平均シ以テ諸種族ニ發達ノ機會ヲ與フ可キ
 道途ヲ開ケリ

千百五十五年
 ヨリ千百八十
 年ニ至ル

其長久ニシテ且ツ多事ナル在位中ヘンリー二世ノ執行セ
 ル政策ハ大ニ英國制度ノ變更ヲ助成セリ二世ハ王權擴張
 ナ希圖セサルニ非スト雖ヒ數々舊時ノ國民會ヲ召集シ諸
 般ノ事項ニ付キ憲法ニ因テ定メラレタル翼賛者ノ意見ヲ
 諮問ス此等ノ議會ハ今日世人ノ以テ議院ノ職權外ニ在リ
 トスル所ノ者モ自由ニ之ヲ討議シタリ唯タ國王ハ其意見
 ニ從テ事ヲ執行ス可キ權理ヲ有セルカ故議會ヨリ上レル
 意見ハ以テ王者ノ權理ヲ侵害シ之ヲ束縛スルニ至ラス
 我代議制度進歩シテ下院獨立シ我國民ノ自由發達シテ復

六月十五日我
代議制度ノ進
歩

多動カス可ラサルニ至レルハジョン王「マグナ、カルタ」ヲ許與
シ後王同種ノ讓與ヲ行フテ之ヲ固定増補セタルニ基源ス
英國代議制度ノ基源ト其創起セル情狀トハ憲法記者頻ニ
之ヲ探究スト雖モ尙ホ曖昧ノ裏ニ没シ諸學士ノ説ク所各
々其歸ヲ異ニス唯タ上院委員ノ調制セル報告書ノ稍ヤ憑
據ス可キ者アリ其畧ニ云フ能曼襲入ヨリジョン王ノ在位迄
ハ高僧貴族立法權ヲ掌握シタリト雖モ課稅權ヲ有セス又
政府定額外ノ費用攻出ヲ要スル時ノ如キハ庶民モ王命ニ
因テ其意見ヲ上レルコトアリシト雖モ庶民ニシテ大議會ノ
議員ト爲リ之ニ出席シタル確証ナシジョン王ハ王室有ノ土
地ヨ借有セル者ヲ召集シテ其大議會ニ出席セシメタルコ
ト「マグナ、カルタ」ノ記スル所ニ因テ徵ス可シ此等ノ人物ハ必

代議制度ノ基
源

千二百六十五
年

スシモ自ラ出席スルヲ要セサリシカ故他ヲ委任ヲ受テ出
席セル者アリ又自ラ出席セル者アリヘンリー三世ノ在位
中大議會ノ組織大ニ變更シタレモ此變更ヤ時勢ニ誘ハレ
瞑々ノ裏ニ成レル者ニシテ公然タル法律改正ニ成レル者
ニ非ス其即位四十九年三世王ハレイセスター侯シモン、デ、
モントフオトシテ大議會ヲ召集セシメタルガ其議員ハ
皆タジョン王ノ免許狀ニ因リ特命ヲ發シテ召集セル人物ノ
ミナ以テ成ラス一般ノ召集狀ト或ル州長及ヒ或ル郡區ニ
向ケテ發シタル召集狀トニ因テ出席ヲ命セラレタル人物
ヲ以テ成レリ後ノ召集狀ハ之ヲ受クル者ナシテ州郡區ノ
代議士ヲ撰マシムルノ命令狀ニシテ此代議士ハ特命ヲ以
テ召集セラル、者ト共ニ王ノ議會ニ出席ス可キ者ナリ此

千二百九十五年

大議會後同様ノ議會ヲ開設シタルコトアル可シト雖モ其組織ト制規ト共ニ分明ナラスシヨシ王ノ大議會ニ後ヨ開ケル立法議會ニシテ吾人ノ最モ明知スルヲ得可キハエドワード一世即位二十三年ニ召集セル議院ヲ以テ初トス是ヨリエドワード二世即位十五年ニ至ル英國立法議會ハ概チ一世王二十三年ノ議會ト粗ホ其組織ヲ同ウセルカ如シ二世王ノ十五年ニ公布シタル議定法ニ因テ議院ハ當時存立セル立法部ノ制度ヲ認承シ立法權ハ國王之ヲ掌握シ從來ノ慣行ニ從ヒ僧侶、貴族、庶民ノ同意ヲ得テ國王之ヲ使用ス可キ者ト爲セリ是ニ於テ平英國立法議會ノ制度ハ漸ク今日ノ形質ヲ備フルニ至レリト

國中諸民ノ分擔セル職任ハ此ノ如クシテ漸次發成進步ス

千二百二十三年

千二百七十二年ヨリ千三百七年ニ至ル

ルニ際シ英國國民ヲ組織セル異質ノ元素ハ互ニ和合スルニ至レリ久シク純粹ノ英國人(如何ナル人種ノ後裔ナルヲ問ハス)ト他ヨリ來テ國家ヲ押領シ其自由ヲ顛覆セル者トヌ間ニ存セル抗爭ハエドワード一世ノ代ニ及ンテ其跡ヲ絶テリ王ノ愼密ニシテ遠慮アル能ク能曼人ト英人トヲ協和シテ互ニ相ヒ扶クルニ至ラシメ又往時ノ自由ヲ回復シ又英國制度ヲシテ漸ク立憲ノ途ニ就カシメ爾來唯々其細目ヲ變シタルノミヨテ其要綱ハ依然タル良制度ヲ設立セリ

從來國王ニ親近シ其政策ヲ左右スルノ權ヲ專ラニセル貴族モ別ニ其協和セサル可ラサル有力者アルヲ覺レルハエドワード一世在位日ナリ此時ニ方リ其勉勵ニ因テ資

産ヲ蓄積シ國用ヲ支給スルヲ得可ク又支給スルヨリ好メ
 ル市民邑民ハ全ク諸議會ヨリ拒絶セラレタリ市民邑民ハ
 其政權ナキヲ憤レルヤ否ヤ分明ナラスト雖ヒ其認承ヲ經
 スシテ租税ヲ賦課スルヲ非トシ之カ上納ヲ拒メルヲ明ク
 シ千二百九十七年王ハ人民ノ承諾セサル租税ヲ納メシメ
 ノトシ人民ハ之ヲ納メサラントテ決心シ王室ト庶民ト互
 ニ軋轢セルニ貴族之ニ處中シ王ヲシテ再ヒ斯ル不當ノ租
 税ヲ課セサラントテ明言セシメタリ是ヨリ後チ少時ニシ
 テ王ハ議院ヲ召集シ大教正、教正、貴族、邑民其他國中自由ナ
 ル人民ノ承諾ヲ得ヌシテ費用ヲ賦課スルヲナカル可キヲ
 確定セリ

千三百七年

下院ノ勢力類
増進ス

一ド二世ノ立法議會ノ記事ヲ讀ム者チシテ庶民ノ勢力類
 ニ増加セル明徴ヲ得セシム是ヨリ先キ下院ノ職任ハ古代
 ノ慣行ニ從ヒ唯タ經費支出ノ額ヲ定ムルニ止ドマレルガ
 エドワ一ド二世ノ時ニ及ンテ法律制定ノ事ニ參與スルヲ
 得エドワ一ド三世在位ノ末ニ及ヒ下院ノ勢力ハ益々増加
 シテ制法外ノ徵稅ヲ拒ミ翼賛官ノ當否ヲ論シテ王者ト爭
 フニ至レリ
 費用支出ニ關セル下院ノ勢力ノ増進シタルモ亦當時ノ事
 ニシテエドワ一ド二世三世ノ日ニ方リ貴族、僧侶、庶民
 ノ三者ハ各々獨立シテ各自ノ支出ス可キ額ヲ定ムルノ慣
 行アリタリ蓋シ各自皆十分離獨立ノ種族ヲ代表セリト云
 ヘル主義ニ基ケルナリ則チ三者各々分離シテ其支出額ヲ

定ムト雖ヒ其他ヨリ多カラシクテ恐ル、ハ各自ノ通情ナ
 レハ三者互ニ協議スルヲ可トシ特ニ下院未タ之ニ關スル
 事項ヲ奏上セサルニ方テ協議スルヲ便宜トセリ是レ費用
 支出ニ先テ上下兩院ノ委員相ヒ會議スルノ慣行ヲ生シタ
 ル所以ニシテ此會議ニハ兩院ノ委員互ニ自ラ其意見ヲ發
 露スルノ前先ツ他ノ意見ヲ聞クヲ以テ其便益トナセリ
 ヘンリー四世即位ノ九年上院ハ未タ兩院ノ議定セサル費
 用支出ノ件ヲ陛下ニ漏ラセルニ下院ハ之ヲ以テ其自由ヲ
 侵害スル者ト爲シ之ヲ陛下ニ訴テ其効ヲ奏セリ四世王ハ
 上院ノ承諾ヲ得一令ヲ下シテ曰ク上院ト下院トハ下院之
 ナ議定シ上院之ヲ認許シタル費用支出ヲ私ニ國王ニ通知
 スルヲナカル可シ既ニ兩院ノ議定一致ヲ經タル上ハ定法

千四百七年

ニ從ヒ下院議長ノ手ヲ經テ之ヲ奏上ス可シト是レ亦下院
 ノ勝利ニシテ爲メニ其權勢ヲ擴張シ特ニ公費支出ニ關ス
 ル權力ヲ增加ス

千三百二十七
年議院ノ職任

エドワード三世即位ノ前ニ在テハ國會ノ職任ト王者ニ附
 屬セル議會ノ性質ト幾ント相ヒ類似シ之ヲ判別スルヲ容
 易ナラス常置會ノ決議モ之ヲ議院ニ附スレハ益々重要端
 嚴ノ者ト爲ルヲ疑フ容レスト雖ヒ諸般ノ事皆ナ之ヲ議院
 ニ附セシニ非ス國王ハ其顧問者ノ翼賛ヲ得テ親ラ諸般ノ
 請願書ヲ受理シ書中訴フル所ノ疾苦不平ヲ救治センコトヲ
 圖レリ今マ國會ト常置會ト相ヒ異ナル所ノ要点ヲ舉レハ
 常置會ハ裁判權ヲ握レルモ國會ハ之ヲ有セサリシニ在ル
 カ如シ下院既ニ國會ト爲ルノ後チ久シクシテ下院ハ尙ホ

千三百七十七年

裁判權ノ性質アル措置ヲ爲サ、リント雖ヒエドワード三世ノ代ニ及ンテ下院ノ損害回復ニ關セル裁判事務ヲ執レル例証アリ三世王在位ノ末ニ至テ吾人ハ政府ノ三大要部タル國王ノ議會、上下兩院(古昔貴族大會ノ漸次變遷セル者)法廳ノ各々一體ヲ爲シ而モ互ニ協和スルヲ見ル

附言 大議會ナル者ハ全ク貴族ヲ以テ組成セル者ニシテ漸次議院ノ爲メニ其職任ヲ奪レタルノ後ト雖ヒ尙ホ會集シタルコトアリ當時ヲ去ルコト數百年後千六百四十年チアールス一世ハ久シク不用ニ歸セル貴族大會ヲ再置シテ其勁敵タル議院ヲ壓倒セント欲シ爲メニ益々王室ト議院トノ罅隙ヲ開キ其覆滅ヲ招ケリ

エドワード三世ノ治世ハ實ニ憲法史中ノ一大時期ニシテ

千二百九十九年ヨリ千五百十二年ニ至ル

帝ヲ議院ノ組織ヲ變更シタルノミナラス數々之ヲ召集シ且ツ毎歲一回必ズ之ヲ開設ス可キ法令ヲ頒布セリ「プランダジチット」朝ノ諸王位ニ在ルコト方テハ一回毎ニ議員ヲ改撰スルヲ法トシ數回ニ連ニ在職セシメタルコトナシ

如之ナラス當時ノ立法議會ハ盛ニ人民ノ權理ヲ主張シ數々王ニ請フテ「マグナ、カルタ」ヲ固定セシメ終ニ政府ノ三大主義ヲ確立スルコトヲ得タリ一ニ曰ク議院ノ認承ヲ得スシテ稅租ヲ課スルハ不法ナルコトニ曰ク法律改正ニハ必ず上下兩院ノ一致ヲ要スルコト三ニ曰ク下院ハ政府ノ失行ヲ審問シ執政官ノ過失ヲ彈劾ス可キ權理ヲ有スルコト

エドワード一世ノ末年ヨリヘンリー八世ノ初年ニ至ルニ百十三年間英國諸王ハ數々國會ヲ召集スルノ慣行ヲ廢セ

議院數々會集

ス一歲間一ヒモ之ヲ開カサリシコト少ナク時ニ兩三回ニ及
ヘルコトアリ右二百十三年間ニ議員ヲ召集セルコト二百回ニ
過キ其會期ハ概テ四日ヨリ三十日ノ間ニ在リシカ時ニ數
月ニ涉レルコトナシトセス

樞密院ト議院
トノ關係

吾人ハ是ニ一言セン國王ノ議會員ハ古來其信臣タルノ資
格ヲ以テ常ニマクナム、コンシリユム則チ議院ニ出席シタ
ルコトヲ、後來樞密院ノ名ヲ得タル精撰議會ハ常ニ王命ニ因
テ大議會ノ事ヲ助成セリ唯ダ當時ノ議院ノ法廷トハ上院
ノ謂ニシテ下院ハ之ニ與ラサリシナリサト、マツシュー、ヘー
ル曰クエドワード一世ヨリ全三世王在位ノ中世(此時上院
ト下院ト分離シテ各々獨立ノ一体ト爲ル)ニ至ルノ間ハ樞
密議會ハ嘗テ議院ノ裁判事務ニ容喙スルノミナラス可否

ヲ投票スルノ權理ヲ有セリト然ルニ近時ノ諸學士ハ之ヲ
駁シテ樞密議會ノ大議會則チ議院ノ法廷ニ出席セルコト明
ケシト雖ヒ樞密議官ハ恰モ今日ノ上院顧問ト同シク唯ダ
其意見ヲ演ヘ理由ヲ説明スル迄ニテ投票權ヲ有セサリシ
カ如シト云ヘリ往時ノ慣行如何ハ暫ク措キエドワード三
世在位ノ頃ヨリ國王ノ會議員タル資格ヲ以テ議院ニ出席
スル者ハ補助者若クハ顧問者ノ位地ヲ占メ其大權ハ議院
自ラ之ヲ使用スルノ慣行ヲ生セルコト明ケシサト、マツシュー、
ヘールモ亦其然ルヲ知ル故ニ當時ノ形狀ヲ論シ彼等ハ此
ノ如キ性質資格ヲ有シ此ノ如ク有力ニシテ上院ノ裁判事
務ヲ左右シタリト雖ヒ法律制定ノ事ニ容喙スル能ハス唯
タ裁判事務ニ付キ其意見ヲ演ヘ其理由ヲ説明セルノミト

密樞院ノ發成

云へり此時ニ方リ下院ハ既ニ獨立シテ議院ノ一体ト爲リ
 彈劾ノ大權ヲ得タルカ故益々進ンテ樞密議會ノ權力ヲ限
 制シ議院ノ認許ヲ得スシテ非常ノ裁斷ヲ爲シ若クハ不法
 ノ權力ヲ使用セサラシメノヲ勉メ終ニ其目的ヲ達セリ
 樞密院ハ固ト上院ノ法廷ト密着セル者ナリシガ歲月ヲ經
 過スルニ及ンテ終ニ分離シ自主獨立ノ裁判權ヲ使用スル
 ニ至レリ(舊時互ニ密着セル痕跡ヲ止メサルニハ非サレ也)
 是リチアード一世在位間ノ事ニシテ其既ニ議院ヨリ獨立
 スルヤ議院ノ認許ヲ經テ其職權ヲ定メ苟モ之ヲ超越シテ
 職權外ノ事ニ干涉スルニ非スンハ議院ハ之ニ抗抵セスシ
 テ其行爲ヲ認承セリ是ヨリ樞密院ノ勢力ハ漸次増加シテ
 「チユードル」朝ノ時ニ至レルニ此朝ノ諸王ハ樞密院ノ勢力

千三百九十七年

議院ヲ召集スルヲ甚々稀ナリ

國王ト其執政官トノ關係

ヲ増シテ議院ヲ歷スルノ政策ヲ行ヘルカ故愈々増加シテ
 前後無双ノ勢力ヲ得タリ史ヲ案スルニヘンリー八世ノ位
 ニ在ルヲ幾ント四十年ニシテ議院ノ開場セル日數ハ三年
 半ニ過キス特ニ前二十年間ノ如キハ議院ノ開場日數十二
 ケ月ニ及ハス以テ八世王ノ議院ノ力ヲ借ラスシテ統治ス
 ルノ心深カリシヲ見ル可シ
 初ヨリシテ樞密議官ノ大議會則チ上院ノ法廷ニ出席セル
 ハ他日ニ至テ一層緻密ナル關係ヲ議院政体ノ執政官ト立
 法部トノ間ニ確立ス可キ前兆ト云テ可ナリ
 ヘンリー三世ノ即位以來我自由制度ハ特ニ進歩ノ奎運ニ
 向ヒタルカエドワード二世ノ時ニ至テ事ヲ自由制進歩ノ
 狀情ヲ徵スルニ足ル可キ者起リ以テ至尊執政官議院ノ間

千三百十六年

ニ存セル憲法上ノ關係ハ當時既ニ世入ヲ認承スル所ト爲
 リシヲ明示ス千三百十六年二世王ノ不平貴族ノ首領タ
 ルランカスター侯ヲ召シテ其議會ノ議長ヲ命スルヤ侯ハ
 數條ノ約ヲ立テ王若シ之ヲ諾セハ命ニ應ス可キヲ答フ王
 之ヲ許諾シテ侯其職ニ就キ王ノ認許ヲ得テ其王ト約セル
 條章ヲ議院ノ記録ニ特書セリ其略ニ曰ク王若シ侯或ハ其
 議會ノ意見ニ從テ國事ヲ施措セスンハ侯ハ其職ヲ棄ツル
 ナ得可シ曰ク議會員ノ認承ヲ得スシテ公務ヲ施措スル
 ナカル可シ曰ク議會若シ王ニ勸ムルコト王ト國トニ害アル
 可キ事項ヲ以テシ或ハ自ラ之ヲ爲ス時ハ王ト其朋友トノ
 意見ヨ因リ次回ノ議院ニ於テ之ヲ免黜ス可シ其結末ニ至
 レハ則チ曰ク毎回ノ議院ハ必ス此ノ如クス可シ議會員ヲ

千四百六年

過失スル者ハ皆ナ此法ニ因テ處ス可キト是レ以テ有ノ諸
 條ニ當時一般ニ認承セラレタル法規ナルヲ証スル事足レ
 此時ヲ去ル凡ソ百年後ヘンリ一四世ノ代ニ至テ吾人ハ再
 ヒ執政官若シ其職ニ居テ國家ノ福利ヲ増進セシムル能
 スト考定セハ直チニ之ヲ辭スルヲ得可ク之ヲ辭スルモ決
 シテ王者ニ不敬ヲ加フルニ非サルヲ例証ヲ見ルホリカ
 一、ハルリス、ニコラス記シテ曰ク千四百六年五月王ハ國事
 ノ多端ナル一身ヲ以テ之ニ當リ難キヲ知り三教正、六貴族、
 大法官、財務官、小璽典掌、ロード、スタワード、ロード、チアムズ
 レ、その他三名ヲ舉テ樞密院議官ト爲テ之ニ命スルニ力
 ヲ尽シテ國家ノ法律ヲ保持シ人民ノ幸福ヲ増進ス可キヲ

千三百七十六年

以テセリ王又之ニ訓示シテ曰ク「ナラズアレバ」ヲ調印セ
 ル公書トハ向後樞密院ノ意見ニ因テ之ニ調印シ又之レヲ
 認ム可シ右ニ指名セル職員其ノ他何レノ職員モ樞密院ノ
 認承ヲ經スシテ赦免若クハ賜與ノ令ヲ出スヲ得スト且ツ
 議官ノ安全ト獨立トヲ保持セシカ爲メ之ニ重要ナル條章
 ナ加ヘテ議官若シ其職任ヲ尽シテ國家ノ福利ヲ保シスル
 能ハスト考定セハ何時ニテモ辭職スルヲ得可ク斯ル辭職
 ハ決シテ王ノ好意ヲ傷ハサルヲ明カニセリト
 此時ニ方リ議院ハ漸ク樞密院ノ性質組織ニ注目スルノ習
 ナ生シエドワード三世在位ノ末ニ於テ書テ陛下ニ奉テ曰
 ク陛下若シ貴族高僧等十名乃至十二名ヲ舉テ其議官ト爲

議院樞密院ヲ整理ス

シ常ニ陛下ニ侍セシメ事ノ稍ヤ大ナル者ハ必ス四名以上
 ノ奏議一致ヲ經テ之ヲ執行スルノ例規ヲ定メテ其陛下ヲ
 利シ國家ヲ益スルヲ少小ナラサシク可クト王ハ他ノ議官出
 席セスト雖ヒ大法官、財務官、小璽典掌ノ三大臣出席スレバ
 其事ヲ執行スルヲ得可シト云ケル約ヲ立テ右ノ請要ニ應
 セリ王其請ヲ許ルスノ後テ下院ハ再ヒ書ヲ奉テ其全力ヲ
 傾テ陛下ヲ翼賛セント欲スル旨ヲ演ヘ又陛下侍從ノ臣ト
 其同盟者トノ利得便益ヲ恣ニスルカ爲メ國家大ニ究乏セ
 ルコト上奏シ然ル后テ議官中ノ不良ナル者ヲ彈劾シテ之
 ナ免黜シ其財產ヲ沒入セリ此措置ハリナド二世在位中
 數々實行セタル者トス

千四百六年ヨ
リ千四百五十
五年ニ至ル

テ非常ノ權勢ヲ掌握スルニ至レリ今マ一ニ例証ヲ舉レ
ハ宮内吏員中下院ノ請願ニ因テ免黜セラレタル者アリ議
院ハ樞密院ト宮内トヲ管理ス可キ紀律ヲ編制シ之レヲ議
決シテ法令ト爲シ樞密院議官、裁判官、宮内吏員ヲシテ必ス
之ヲ遵守ス可キヲ誓ハシメタリ、是レ我憲法中ノ一大要義
ナル執政官責任法ヲ確定セル者ナリ、
此時ヨリヘンリノ世ノ繼位ニ至ル樞密院沿革史中事ノ
最モ顯著ナル者ニアリ行政職務ノ進歩セルニテ國王權
意ヲ違フスルハ弊ヲ防シカ爲メ諸般ノ儀式ヲ設置スル
ニナリ議院ヲ組織セル執政官ノ權力大ニ增加セルニテ
王者ノ權勢ハ固ト其性質才力ノ強弱多寡ニ因テ消長スルハ
故剛毅ノ君位ニ在レバ樞密院ノ陛下ノ一機械ト爲ル唯其

千四百八十五
年樞密院ノ發
達

新
憲
法

樞密院ノ組織

命令ヲ傳達スルニ過キス柔弱ノ君位ニ在レハ貴族ハ其勢力
ヲ以テ王者ノ專横ヲ牽制シ執政官ノ權力ヲ擴張シテ
勉メタリト雖モ概シテ論スレハ此間王者ノ身上ノ勢力ト其
職任上ノ權力トハ頗ル強大ナリト云ハカレ得ル得ル王者
ハ其意ニ從フテ執政官ヲ任免シ得可キ疑フ容レ難
モ執政官モ幾何カ獨立ノ位地ヲ保占セルノミナラズ王者
ハ常ニ議會ヲ設置シテ其意見ヲ諮問シ且ツ若干ノ官吏ヲ
舉テ之カ會員ト爲スノ例規ヲ守レリ則チ前ニ掲ケタル大
法官、財務官、小璽典掌、チャム、ブレ、ロ、ゴ、ステ、ワ、ドノ
五大臣ハ其官吏タルノ故ヲ以テ必ス之ニ出席シ其他カ
ナルバリ、ヨ、ク、ノ、二、大、教、正、王、者、ト、議、院、ノ、信、任、ヲ、有、セ、ル
十名ヨリ十五名ノ僧俗貴族若クハ著名ノ人士モ亦之ニ出席

シタリ至尊ハ固ヨリ其意ニ從テ顧問官ヲ任免スルノ權理
 ナ有スト雖モ英王ノ如キハ常ニ意ヲ注テ上下兩院ニ信任
 セラル可キ者ヲ舉テ之ニ充テタルカ如シ此間官職ノ德ニ
 因テ議會ニ臨メル者ノ內王者直接ノ撰擇ヲ被レルニ非ス
 ノ其門地ニ隨伴セル世襲ノ官職ヲ占メタル者アリ此等ノ
 顧問官ハ陛下ト雖モ妄ニ之ヲ進退スル能ハサルカ故之ニ
 因テ議會ノ勢力ヲ強固ナラシムルコト少ナラスノ大教正
 其他僧官ノ出席モ亦大ニ議會ノ獨立ヲ固クシ其威儀ヲ增
 加セリ且ツ樞密院ハ事ノ苟モ國家ノ禍福ニ關係スル者ニ
 就テハ其意見ヲ上奏シ若シハ諫諍スルノ權理ヲ有ス其位
 地性質既ニ此ノ如ク剛毅不屈ノ士ニシテ其任ニ當レハ其
 意見ヲ以テ王者ヲ動スコト決シテ難カラス其諫諍ハ王者之

樞密院ノ勢力
益々増進ス

ヲ放棄スルヲ得可ク其意見ハ王者之ヲ度外視スルヲ得可
 シ意見諫諍ノ道義上ノ勢力ハ王者モ之ヲ滅却スル能ハサ
 ルナリ

大璽

樞密院ハ古昔ヨリ王者ノ下附スル悉皆ノ公書ヲ參檢ス可
 キ權理ヲ有シ且ツ大璽ヲ捺スルハ大法官ノ職任ニシテ他
 人ハ之ヲ捺スル能ハス故ニ樞密院若シ王者ノ公書ヲ檢シ
 テ之ヲ不可トセハ大法官ヲシテ之ニ玉璽ヲ捺セシメサル
 ナ得可ク玉璽ヲ捺セスハ之ヲ有効ナラシムル能ハス是
 レ該院ノ大ニ權勢ヲ増進シタル所ナリ王者ハ頗ル此制規
 ナ嫌忌シ或ハ親ラ大璽ヲ掌握シ或ハ小璽往時ハ陛下ノ手
 中ニ在リタリヲ捺スレハ文書ヲ有効ナラシムルニ足レリ
 ト主張シ以テ數々之ヲ脱レンコトヲ圖ルト雖モ議院ハ常ニ

小璽

之ヲ抗拒シテ曰ク此制規ハ固ト主者ヲシテ偽勅ノ害ヲ免
 レシシメシカ爲メニ誤ケタル者ナレハ決シテ廢棄ス可ラ
 スト小璽典掌ノ官起テ小璽モ亦王者ノ手ヲ離ル、ヤ諸法
 官ハ大璽ハ小璽ヲ捺セル命令書ニ因テノミ捺ス可キ者ニ
 シテ唯タ陛下ノ口命ニ因テ捺ス可キ者ニ非サルコトヲ主張
 セリ此等ノ事態ハ樞密院ヲシテ大ニ其權勢ヲ増進セシメ
 タル者トス

大法官若シ命令書ヲ有セサレハ其王命ニ因テ大璽ヲ捺セ
 ルコトヲ証シ難ク判然タル証跡ナラシテ之ヲ捺スルヲ得ハ
 終ニ偽勅ノ弊ヲ生ス故ニ右法官ノ言説ハ憲法上頗ル重要
 ナル者ナリ王者モ此理由アリ又其行爲ノ責任ヲ臣下ニ負擔
 セシムルノ便宜アルカ故稍ヤ之ヲ諒恕シタリト雖モ其之

千四百六十五年
 憲法上ノ豫防
 法
 千四百四十三
 年ヨリ千四百
 四十四年ニ至
 ル
 千五百二十六
 年

カ爲メ恣ニ其意趣ヲ實行スル能ハサルヤ當時ノ諸王ハ皆
 ナ大ニ之ヲ嫌忌シエドワード四世ノ如キハ常ニ小璽ヲ捺
 スルノ煩シキヲ厭ヒ數々手筆ノ命令狀ヲ大法官ニ下シテ
 大璽ヲ捺セシメタルノミナラス大法官ノ口命ニ因テ大璽
 ナ捺セサルコトヲ怒リ「彼レ何カ故ニ朕カ口命ヲ以テ充分ノ
 證據トハ爲サ、ルヅ」ト演へ給ヘルコトアリシト云フ

時勢ノ趣ク所王權妄用ヲ豫防スルノ法ハ日ニ増加シヘン
 リ一六世ノ時樞密院ハ位爵官職年金等賜與ノ事ハ其議初
 テ起ルヨリ玉璽ノ允許ヲ經ルニ至ル迄執政官ヲノ絶ヘス之
 ナ視察セシム可シト云ヘル法律ヲ制定セリヘンリ一八世ノ
 時悉ク此等ノ法律ヲ改正加除シ其王者ノ特許賜與等ニ關
 スル者ハ今ニ至テ尙ホ存ス唯タ嘗テ樞密院ノ管理ニ屬セ

シモ今日ハ國務尙書ノ配下ニ來レル者アルノミ則チ今ニ
 存スル者アリト雖ヒ往時之ヲ制定セル所以ノ目的ヲ尋ヌ
 レハ全ク今日執政官責任說ノ大義ニ違背シ之ヲ以テ王室
 ヲ保護シ偽勅ノ弊ト無用ノ賜與トヲ防クニ過キス故ニ數
 多ノ職員ヲ置テ陛下ニ奉レル請願書ヲ檢視判定セシメタ
 リ右諸制規中王者ヲシテ請願ニ應シ人民ノ疾苦ヲ救回ス
 ルノ前必ス之ヲ樞密院ニ下附セシメンカ爲メ設ケタル者
 ナキニ非スト雖ヒ當時ノ執政官ハ議院ニ對シテ公務執行
 ノ責任ヲ負擔セス王者ニ對シテ之ヲ負擔セリ故ニ之ヲ設
 クルノ本越ハ勢今日ノ定說ト背馳セサルヲ得ス

千四百二十二
 年

常置會ナル者ノ初テ樞密院ノ名ヲ得タルハヘンリー六世
 在位ノ時ニシテ常ニ之ニ出席シテ常務ヲ執ル者ト裁判官

常置會ノ擔任
 セル事務

ノ如ク特ニ召喚セラレテ之ニ出席セル者トノ間ニ殊別チ
 生シタルモ亦當時ノ事ナリ六世王登位ノ始ニ方テハ常置
 會中一部ノ人万機ノ政ヲ統ヘタルカ故此殊別特ニ明瞭ナ
 リキ王ノ在位中該會ハ議事ヲ秘スルノ法ヲ設ケ特ニ召喚
 セラル、者ニ非スンハ之ニ臨席スルヲ得サラシメ以テ決
 議ノ漏泄ヲ防ケリ王ノ在位中時ニ大議會ヲ開ケルコアリ
 ト雖ヒ他日ニ至テ内閣ノ樞密院ヨリ分立シタルト同様ノ
 手順ヲ以テ精撰ノ小議會ハ終ニ大議會ヨリ分立シタルコ
 明ケシ

此際常置會ノ擔任セル事務ハ頗ル繁多ナルノミナラス行
 政立法ノ事ヲ混シテ一手ニ握レリ該會ノ記事中共今ニ存
 スル者ヲ以テ察スルニ該會ハ内治外交ノ政策ヲ定メ財務

ヲ管理シ商業ヲ監督シ宗教上ノ抗爭ヲ判定シ王室ノ事ニ
 關與シ異端邪道ニ對シテ國教ヲ保護シ其ノ他常ニ政府ノ
 手中ニ來ル万般ノ些事小件モ皆ナ之レヲ擔任シタルカ如
 シ且ツ諸種ノ法庭有テ民刑百般ノ詞訟ニ任スト雖モ該會
 ハ尋常一樣ノ犯罪者スラ之ヲ糾問シ法庭ノ爲ス所ニシテ
 不充分ナル者アル毎リ該會必ス自ラ原被兩造ヲ召喚シテ
 其可否ヲ裁斷セリ司法ノ制度未タ整備セサルノ日ニ在テ
 ハ生命財産ヲ安全ナラシメンカ爲メ斯ル法廷ノ必要ナル
 一疑ヲ容レスト雖モ該會ノ事ヲ斷スルハ專横ニシ其當ヲ
 得サル者少ナカラサリシカ故議院ハ自ラ之ヲ疾視シエド
 ワード三世ヨリヘンリー六世ニ至ルノ間下院ハ該會ヲシ
 テ審判廳ノ擔任ス可キ事務ニ干涉シ妄ニ人民ノ財産自由

ヲ侵害スルヲナカラシメント欲シテ數々之カ爲メニ努力
 セリ

エドワード四世全五世リチアード三世ヘンリー七世等四
 王ノ在位間ハ樞密院ニ關スル記録ナシ故ニ此間該院ノ制
 度ハ如何ナリシヤ今マ之ヲ徵スル能ハス

千四百八十五
 年
 樞密院王室ニ
 倚賴ス

チュードル朝ノ繼位ト共ニ樞密院土室ニ對スルノ位地ハ大
 ニ變更セリ能曼襲入後暫クノ間貴族ハ王者ノ專横ヲ制セ
 シカ爲メ其力ヲ尽シタルカ後チ下院漸ク勢力ヲ増進シテ
 盛ニ王者ノ權力ヲ減殺センヲ勉ムルニ及ヒ貴族ハ却テ
 王室ヲ保助スルニ至レリヘンリー七世祚ヲ踐ンテヨリチ
 アーレス一世即位十六年ニ至ルノ間執政官ハ王者ノ私意
 チ牽制セスシテ却テ之ヲ幫助スルノ勢アリシカ故王者ハ

千五百三十六年

執政官ヲ機械トシテ頗ル其權力ヲ弄シ樞密院ノ歴史ナシ
テ幾ント王者專横ノ歴史ヲラシメタリ今マ該院ノ斯ク王
室ノ翫具ト爲レル所以ヲ尋ヌレハ庶民ヲ擧テ之カ議官ト
爲セルコ外ナラス新任議官中有力者ナキニ非スト雖ヒ如
何セン王者ノ恩惠ニ因テ其位地ト勢力トヲ得生レナカラ
貴族ノ位地勢力ヲ有セル者ニ非サルカ故勢王室ヲ保助シ
テ其德ニ報ヒサルヲ得ス且ツ貴族世襲ノ官職ヲ占ムル時
ハ數々庶民中ニ之レカ代理人ヲ撰ンテ其事ヲ執リ其勢力
ヲ使用セシメタルカ故益々王室ノ權勢ヲ増加シ爲メニ政
府ヲ強鞏ナラシメタリ然レヒ之カ爲メ頗ル該院ノ獨立ヲ
毀傷シ大ニ庶民ノ不滿ヲ招ケリヘンリ一八世即位二十五
年ヨリクシアニ一撥起テ黨々不平ヲ鳴ラシ樞密院ノ組織

暴徒樞密院ノ
組織ヲ不可ト
ス

ヲ變更セルカ如キモ亦不平ノ一ニ居レリ其言ニ曰ク陛下
踐祚ノ始ニ在テハ然ラサリシモ今日ニ至テハ微賤ノ家ニ
生レシ者ヲ以テ樞密院議官ト爲スノ弊習特ニ盛ナルヲ見
ルト王暴徒ヲ論スノ辭ニ曰ク朕カ登位ニ方リ富貴ナル僧
俗貴族ニシテ樞密院議官タル者ハ唯タ四名アリシノミロ
ード、マルチーロード、ダルセーノ如キハ門地高カラサルニ
非スト雖ヒ登用セラル、ノ後チ漸ク富貴ニ趣ケル者ニシ
テ此他ハ法律家ト尋常ノ僧侶トヲ以テ組成セリト王ハ次
ニ現任議官中門地高フシテ資産ニ富メル者多キヲ説キ結
末ニ至テ該院議官ノ撰任ハ臣民ノ與ル可キ所ニ非サルヲ
説ケリ其言ニ曰ク樞密院議官ヲ撰任スルハ朕カ職權ニシ
テ汝臣民ノ與ル所ニ非ス向後ハ能ク臣民タル職分ヲ遵守

シテ此ノ如ク汝臣民ノ關與ス可ラサル事項ニ關與セント
欲スルノ過ヲ再ヒスルヲ勿レト

此際宗教改革行ハレテ寺院ト政府トノ關係ヲ一變シ爲メ
ニ頗ル王室ノ權勢ヲ増加セリ是ヨリ先キ僧侶ハ羅馬教王
ノ配下ニ在テ常ニ政府ニ抗抵セルガ改革後國王ノ直轄ニ
歸シ從來王室ニ抗抵セル力ヲ轉シテ之ヲ保助スルニ至レ
リ王者一身上ノ權勢増加スルニ從ヒ樞密院ノ權勢ハ縮退
セリ當時ノ記録ヲ繙カハ該院ノ權勢大ニ縮退シテ全ク王
室ニ隸屬倚賴セル例証甚タ多キヲ見ン

樞密院ノ專橫

樞密院ハ王室ニ對シテ大ニ權勢ヲ失墜セリト雖ヒ其人民
ニ對スルノ權勢ハ決シテ減縮シタルニ非ス宦々之ヲ減縮
セサルノミナラス却テ之ヲ増加セリト云フヲ得可シ千五

百年代ニ於テ議會ノ發セル法律命令中專橫自恣ナル者多
シト雖ヒ之ヲヘンリー八世ノ樞密院ヨリ出セル者ニ比ス
レハ尙ホ寛ナルヲ覺フ該院ハ行政司法ノ二權ヲ一手ニ掌
握シ其位地ノ上下ヲ問ハス恣ニ人民ノ財産自由ヲ左右シ
嚴ニ諸般ノ事項ニ注目シ事ノ苟モ其意ニ合ハサル者アレ
ハ必ス其源ヲ探テ毫モ寛假スル所ナカリキ當時ノ樞密院
ノ措置ヲ觀ル者ハ皆ナ驚訝シテ曰ン斯ク迄政府ノ壓抑ヲ
被レル英民ハ如何ニシテ其權理自由ヲ回復スルヲ得タ
ルヤト該院ハ專ラ國內ノ治安ヲ保持シ謀叛暴動ヲ探偵シ
之ヲ糾罰スルノ職ニ任シタルガ故人民ノ公私ニ關スル舉
動ニ注目シ其私事ニ干涉シテ私人ノ抗爭ヲ裁斷シ以テ法
應ノ職權ヲ侵掠スルニ至レリ該院ハ宗教事務ニモ干涉シ

テ甚ク專横ノ措置ヲ施セルコト多シ其罪犯ヲ處斷スルヤ頗
 ル簡畧ニシテ手順ヲ尽サス或ハ之ヲ龍動塔ニ送り或ハ之
 ニ罰金ヲ課シ或ハ之ヲ禁錮シ或ハ罰金禁錮兩ツナカラ之
 ヲ加フルテ以テ通常ノ懲罰法ト爲セリサー、ハルリス、ニコ
 ラス當時ノ樞密院ノ措置ヲ觀察スルニ方リ説ヲ爲シテ曰
 シ當時政府ノ妄ニ權力ヲ弄シテ憲法違背ノ事ヲ爲セルハ
 唯タ八世王ノ壓制束縛ヲ好メルカ爲メノミニ非ス千五百
 年代ノ末ヨリ漸次人民ノ自由ヲ蚕食シ王室ノ權勢從テ増
 加シタルニ起因スルコト却テ多カル可シ斯シ人民ノ自由蚕
 食セラレテ王室ノ權勢増加セル所以ヲ尋ヌレハリ、チ、ア、ド
 三世ノ纂立ニ起リ、ヘンリー七世ノ纂立ニ成レリト云ハサ
 ルヲ得ス蓋シ國家ノ自由ハ二大改革ヲ經テ尙ホ生存スル

ヘンリー八世
 在位間王至ノ
 權力

「甚ク難ケレハナリ成功セル叛逆人ハ必ス暴君ト爲ル可
 キ者ナレハナリト
 チョードル諸王在位間樞密院ノ權力ハ此ノ如ク專横ニシテ
 此ノ如ク強大ナリシヲ聞カハ人必ス推想セン該院ハ設ヘ
 万般ノ政務ヲ發起セサルモ之ニ參與シ之ヲ商議シタルコ
 ナラント是レ謬見ノミヘンリー八世ハ寔ニ執政官ノ事ヲ
 親ラシタル者ニシテ重大ノ事件特ニ其外交ニ關スル者ハ
 皆テ親ラ之ヲ發起シ其意見ニ從テ之ヲ執行セリ前既ニ記
 セルカ如クヘンリー四世ハ執政官責任法ヲ改定シ爾後之
 ヲ施行シ來レルニ八世王位ニ即クニ及ンテ全ク之ヲ度外
 ニ放置シタルカ如シ當時ノ公書中云ヘルアリ王ハ其愛信
 シ給ヘル執政官ニスラ計ラスシテ事ヲ執行セル位ナレハ

數々其議會ノ意見ヲ諮ハスシテ政務ヲ施措シタルヲ推知
 ス可キノミ一時ハウラルセー罷ヲ專ラニシ後チクロムウエル
 之ニ代テ寵ヲ受ケクロムウエル退クノ後チ執政官ノ位ニ就
 ケル者多シト雖ヒ一モ今日ノ大宰相ニ類似セル位地ヲ保
 テル者ナシ八世王ハ各執政官ノ如何ナル事務ヲ擔任スル
 ヲ問ハス皆ナ之ヲ命令指揮シ幾ント之ヲ奴隸使セリト雖
 ヒ當時ニ在テハ執政官必スシモ政務施行ノ責ニ任セサリ
 シカ故何人ヲシテ其命令ヲ實行セシムルモ之カ爲メ不都
 合ヲ生セルヲナカリキ王者ハ實ニ國家ノ中心ニシテ万機
 ノ政皆ナ是ヨリ出テ執政官ハ唯々其命令ヲ受テ之ニ從ヘ
 ルノミ王者ノ權力是ニ至テ專横ヲ極ムト雖ヒ尙ホ多少憲
 法ノ形貌ヲ守リ其執政官ト公務上ノ事項ヲ通信往復スル

ヤ常ニ樞密院ノ手ヲ經タルカ如シ且ツ議院ハ頗ル其職任
 ヲ怠慢シ幾ント之ヲ遺忘セリト雖ヒ執政官ヲシテ王者ノ
 行爲ノ責ニ任セシム可キ方法全ク消滅シタルニ非ス議院
 ニシテ苟モ其職任ヲ怠ラスンハ法律ニ從テ責任負擔者ヲ
 定ムルヲ得可シ

ヘンリー八世ノ在位間ハ樞密院議官ノ大半ハ常ニ陛下ニ
 侍從シ陛下幸行セラル、ヲアレハ之ニ從フテ四方ニ趣キ
 日々國務ニ注目セルカ如シ其常ニ幸行ニ隨行セル者ハ宮
 内ノ諸高官、教正一名、尙書中ノ重立テル者一名ニシテ大法
 官、カンタルバリーノ大教正、重立タル諸尙書等ノ如キハ龍
 動ニ留テ政府ノ常務ヲ執行シタリ樞密院ハ平時ト雖ヒ全
 員ノ會議ヲ開ケルコアリ又王ノ特命ニ因テ之ヲ開ケルコ